公設卸売市場用地（跡地）を核とした
地域農業の活性化に関する調査研究

平成25年３月

千葉県　館山市
財団法人　地方自治研究機構

はじめに

急速な少子高齢化社会の進行をはじめとして社会経済情勢が大きく変化する今日において、地方公共団体を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのような中で地方公共団体は地域産業の活性化、地域コミュニティの活性化、公共施設の維持管理、行財政改革等の複雑多様化する課題に対応していかなくてはなりません。また、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ主体的に取り組むとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことが重要となってきています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、地方公共団体と共同して課題を取り上げ、全国的な視点と個々の地方公共団体の地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は 7 つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、このうちの一つの成果を取りまとめたものです。

現在、農業を取り巻く環境は、従事者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の拡大など、数多くの課題を抱えています。

本調査研究では、地域農業を活性化することを目的として、地域における農業の現状や課題の把握、先進事例などとの比較分析、検証をし、公設卸売市場用地（跡地）を利用した農村交流拠点の整備に重点をおいた地域農業活性化の具体的方策を検討したものです。

本研究の企画及び実施に当たっては、研究委員会の委員長及び委員をはじめ、関係者の方々から多くのご指導とご協力をいただきました。

また、本研究は、地域社会振興財団の交付金を受けて、館山市と当機構が共同で行ったものです。ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば幸いです。

最後に、先の東日本大震災において被災された地域の一日も早い復興をお祈りいたします。

平成 25 年 3 月

財団法人　地方自治研究機構
理 事 長　佐　野　　徹　治

目　次

序　章　調査研究の概要 …… 1

1　調査研究の背景 …… 3

2　調査研究の目的 …… 3

3　調査研究のフロー …… 4

4　調査研究の項目と方法 …… 5

5　調査研究の体制 …… 8

第１章　館山市の概況 …… 9

1　市のあらまし …… 11

2　館山市の観光について …… 16

3　館山市の農業について …… 21

第２章　公設卸売市場用地（跡地）の概況 …… 23

1　公設卸売市場用地（跡地）について …… 25

2　拠点整備との関連事業について …… 28

第３章　アンケート調査結果 …… 31

1　アンケート調査の概要 …… 33

2　観光客アンケート調査結果 …… 35

3　市民アンケート調査結果 …… 58

4　農家アンケート調査結果 …… 82

5　類似設問の比較 …… 119

第４章　ヒアリング調査結果 …… 123

1　ヒアリング調査の概要 …… 125

2　ヒアリング調査結果 …… 126

第５章　先進事例調査 …… 149

1　先進事例調査の概要 …… 151

2　調査結果 …… 152

第６章　用地活用の方向性の整理 …… 165

第７章　拠点整備の方向性 …… 171

1　調査結果の総括と拠点整備の視点 …… 173

2　拠点施設の整備イメージ …… 176

3　拠点施設の管理・運営体制 …… 179

4　事業スケジュール …… 182

調査研究委員会名簿 …… 183

資料編 …… 187

1　観光客アンケート調査票 …… 189

2　市民アンケート調査票 …… 199

3　農家アンケート調査票 …… 207

序章　調査研究の概要

序章　調査研究の概要

１　調査研究の背景

公設卸売市場用地（跡地）は、安房グリーンライン近くに所在する 11,877 ㎡の土地であり、用途地域は無指定となっている。

当該用地は、館山地区の民営 5 青果市場と民営 1 水産市場の統合を推進し、館山市が公設地方卸売市場を開設するために、平成 14 年度に取得したものであるが、様々な経緯を経た結果、平成 18 年 3 月に公設市場計画がストップした。

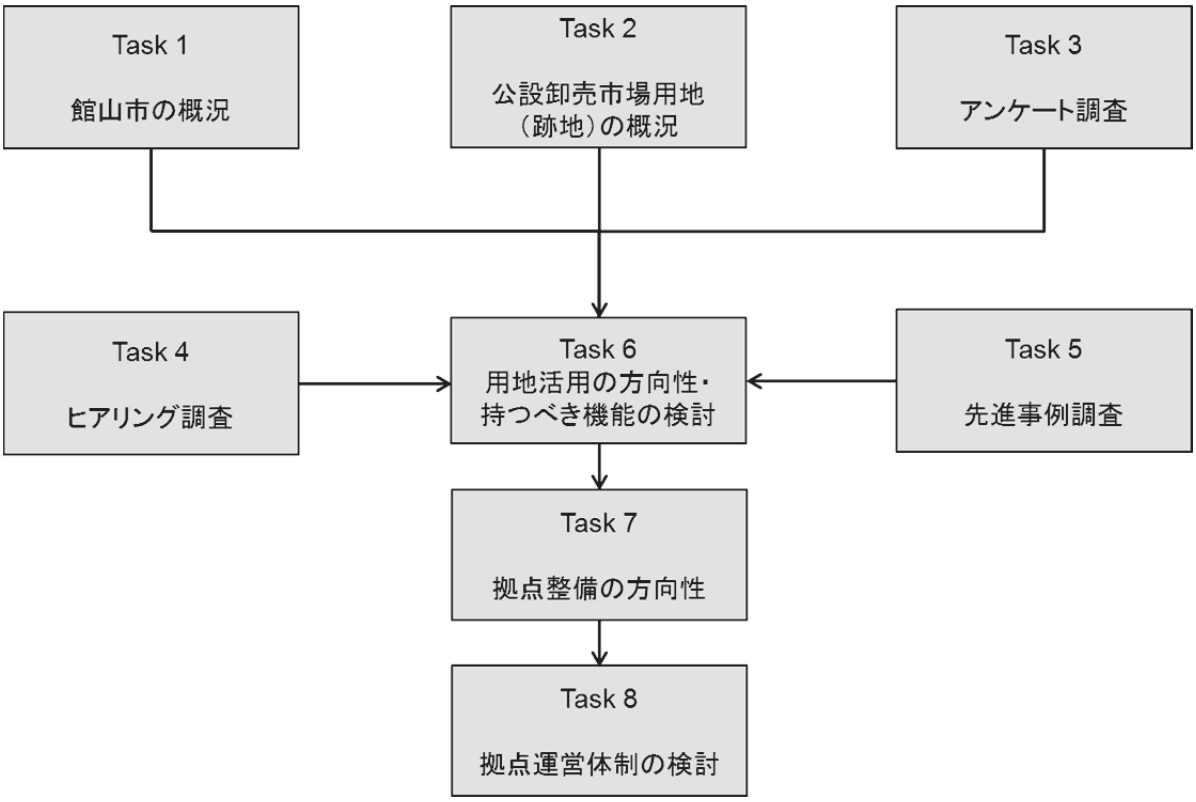
平成 20 年には庁内プロジェクトチームが結成され、当該用地の「農業を中心とした交流拠点施設」としての活用案が提示された。これを受けて、平成 21 年 3 月には、公設卸売市場用地（跡地）の「農業を中心とした交流拠点施設」としての活用方針が公表された。

そこで、館山市は、地域農業を活性化することを目的とし、地域における農業の現状や課題を検証し、農村交流拠点の整備に重点をおき、地域農業の活性化に向けた具体的な方策の検討を行うこととした。

２　調査研究の目的

本調査研究は、館山市の農業・観光分析や、観光客・市民・農家へのアンケート調査、関係者へのヒアリング調査、先進事例調査により、公設卸売市場用地（跡地）における「農業を中心とした交流拠点施設」、「都市農村交流拠点」の整備計画の方向性、運営体制の方向性を明確にすることを目的とする。

３　調査研究のフロー


Task 1
館山市の概況
Task 2
公設卸売市場用地
（跡地）の概況
Task 3
アンケート調査
Task 4
ヒアリング調査
Task 6
用地活用の方向性・
持つべき機能の検討
Task 5
先進事例調査
Task 7
拠点整備の方向性
Task 8
拠点運営体制の検討

4　調査研究の項目と方法

(1) 調査研究の項目

調査の目的を踏まえ、調査項目として次の 7 項目を掲げた。報告書の各章は本項目にしたがい、取りまとめている。

① 館山市の概況
② 公設卸売市場用地（跡地）の概況
③ アンケート調査結果
④ ヒアリング調査結果
⑤ 先進事例調査
⑥ 用地活用の方向性の整理
⑦ 拠点整備の方向性

報告書の各項目（章）の概要は次のとおりとなっている。

① 館山市の概況（第 1 章）

館山市の概況について、その地勢、市域の変遷や人口、観光、農業の現状等を取りまとめた。

② 公設卸売市場用地（跡地）の概況（第 2 章）

調査研究の対象となる公設卸売市場用地（跡地）について、用地の概況や拠点整備の関連事業等について整理した。

③ アンケート調査結果（第 3 章）

アンケート調査を行った結果を取りまとめた。アンケートは南房総地域を訪れる観光客、館山市民、館山市内農家をそれぞれ対象として 3 種類実施した。

観光客には「南房総への観光について」と「観光全般について」、市民には「市民と農業の関わり」や「館山産農産物について」、「公設卸売市場用地（跡地）について」等、農家には「経営の現況や経営意向」、「農産物の出荷意向」、「公設卸売市場用地（跡地）について」等を伺った。

④ ヒアリング調査結果（第 4 章）

市内外の関係部署、農業関係者、観光関係者、直売所関係者等を対象に、拠点整備や館山市の取り組みに関する考えや意見の聴き取りを行った結果を取りまとめた。

⑤ 先進事例調査（第 5 章）

公設卸売市場用地（跡地）の整備の方向性を検討する上で関連して、市場型施設や直売所型施設に関する先進的な事例について、青森県青森市、同県五所川原市、千葉県市原市の事例を調査し、その取り組みを視察した結果を取りまとめた。

⑥ 用地活用の方向性の整理（第 6 章）

実施した調査の結果から、館山市における課題を分析し、用地における行政の役割を検討するとともに、用地活用の方向性を検討した。

⑦ 拠点整備の方向性（第 7 章）

①～⑥を踏まえて、館山市において用地を拠点として整備するに当たっての方向性を検討した。

(2) 調査研究の方法

調査項目について明らかにするため、文献調査のほか次の調査を行った。

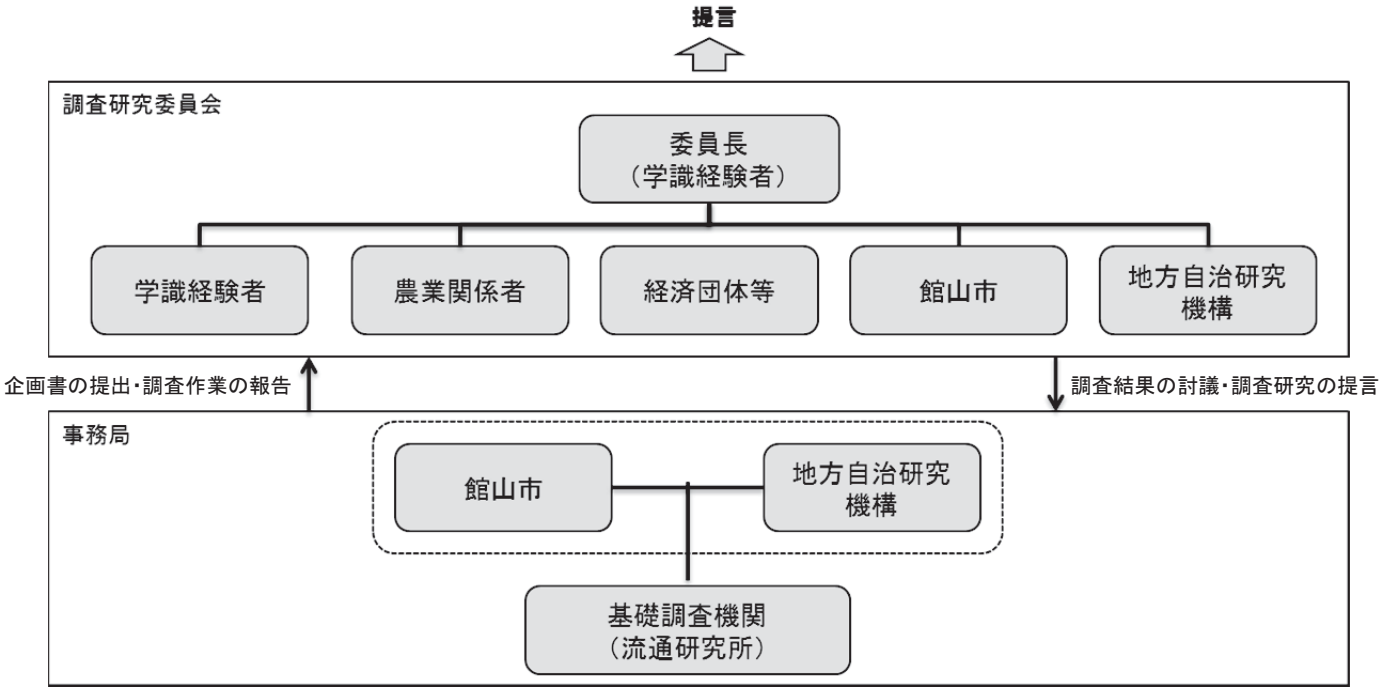
調査名	調査方法	摘要
観光客意向調査	Web アンケート調査	●調査対象：3 年以内に南房総地域（館山、南房総）を観光目的で訪れた一都三県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）在住の成人男女。 ●調査内容：往訪した際の人数・交通手段・目的・滞在期間・選択したルート、観光で楽しみたいこと、興味のある施設の機能等。 ●調査方法：ウェブ画面を経由し委託先の持つモニター（顧客）のうち、調査対象に当てはまる者に対してアンケート実施（回収サンプル：363）。平成 24 年 8 月実施。 （委託先：株式会社 野村総合研究所）
市民意向調査	アンケート調査	●調査対象：館山市内在住成人男女から 800 人を無作為抽出。 ●調査内容：市民と農業との関わり、農産物等の購入先・購入基準、館山産農産物や規格外農産物に対しての考え方、用地の附帯機能に関する考え・意見、自由意見等。 ●調査方法：郵送による配布、返信用封筒による回収（回収サンプル：329）。平成 24 年 8 月～9 月実施。
農家意向調査	アンケート調査	●調査対象：館山市内在住農家成人男女から 1,480 人を無作為抽出。 ●調査内容：農業経営の現況や経営意向、直売所や給食センターへの農産物等の出荷意向、用地の附帯機能に関する考え・意見、自由意見等。 ●調査方法：郵送による配布、返信用封筒による回収（回収サンプル：663）。平成 24 年 8 月～9 月実施。
館山市庁内調査	ヒアリング調査	●調査対象：館山市役所内関係者 ●調査内容：給食等に視点を置いた拠点整備の方向性について。 ●調査方法：事務局（市、機構）による聴取調査。平成 24 年 5 月～9 月実施。
企業・団体等調査	ヒアリング調査	●調査対象：市内外の関係団体・関係者（調査研究委員会委員・農業事業者・観光事業者・宿泊事業者・直売所等）から 22 抽出。 ●調査内容：拠点整備の方向性についての、参画意向や意見交換、拠点に対する考え方等の聴取。 ●調査方法：事務局（市、機構）及び基礎調査機関（流通研究所）による聴取調査。平成 24 年 6 月～12 月実施。
先進事例調査	ヒアリング調査	●調査対象：青森県青森市（古川市場、道の駅「なみおか」アップルヒル）、青森県五所川原市（マルコーセンター市場館）、千葉県市原市（道の駅 あずの里いちはら）。 ●調査内容：事務局（市・機構）担当者による視察調査。 ●調査方法：事務局（市・機構）による訪問聴取調査。平成 24 年 11 月～12 月実施。

５　調査研究の体制

学識経験者、農業関係・経済団体等、行政関係者等で組織する「館山市 公設卸売市場用地（跡地）を核とした地域農業の活性化に関する調査研究委員会」（委員長：斎藤　修氏　千葉大学大学院園芸学研究科教授）を設置し、調査結果の分析及び調査研究結果の提案の検討を行った。委員会は、3 回（5 月、10 月、1 月）開催した。

事務局は、館山市、地方自治研究機構で構成し、委員会での審議に必要な資料収集、調査研究の具体的な方法について検討を行った。調査研究の一部については、基礎調査機関・株式会社流通研究所に委託して実施した。

図 0-1　調査研究の体制



第１章　館山市の概況

第１章　館山市の概況

１　市のあらまし

(1) 位置・地勢

図表 1-1 館山市位置図

出所）館山市の統計 2011

館山市は、千葉県の南部、房総半島の最南端に位置し、西に波静かな館山湾（別名鏡ヶ浦）を抱き、南は太平洋の荒波にあらわれ、白砂岩礁が交錯する長い海岸線を形成して、対岸に三浦半島を望んで東京湾口を擁している。北方は平たん地が展開し、その中央に平久里川の流れが館山湾に注いでおり、流域は地味肥沃で耕作に適している。東及び南方には複雑な小山塊が起伏し、樹園地や台地畑及び山林地帯となっている。

気候は冬暖夏涼の代表的地域として知られ、一部無霜地帯がある。黒潮の影響を強く受けて、厳しい寒さはない。平成 21 年の年間降雨量は 1,872.5 ㎜である。夏は海を渡った涼風が走り、異常高温はほとんどない(平成 21 年 8 月の平均気温は 25.7 度)。冬季は南西又は西の季節風が強く、また、初霜は 12 月上旬、終霜は 3 月下旬で、降雪はごくまれである。

図表 1-2 館山市位置等

位置	東経 139 度 52 分
	北緯　34 度 59 分
面積	110.21 ㎢
海岸線	31.5 km
広ぼう	東西 17km　南北 16km

出所）館山市の統計 2011

(2) 市の沿革と発展の推移

① 沿革

館山は、天正 19 年(1591 年)に里見義康が居城を築いてから世に知られるようになった。その後、江戸時代の初期、里見氏が改易されたあとは、幕府の公領、諸藩の私領、旗本の采地などであった。明治 4 年、廃藩置県によって木更津県の所轄となったが、明治 6 年に木更津県が廃止されて千葉県の所轄に属するようになった。

明治 22 年市町村制が施行され、町村の合併が行われた際、北条町、館山町、豊津村、西岬村、神戸村、富崎村、豊房村、館野村、九重村、凪原村、船形村となった。凪原村は、門前町として房州一の繁華街を形成したために明治 26 年 1 月に町制を施行し、那古町と改称、港町として栄えた船形村もまた明治 30 年町制を施行した。館山町と豊津村とは組合組織によって自治制度を執っていたが、大正 3 年 4 月両町村が合併して館山町となる。昭和 8 年 4 月館山町と北条町が合併し、館山北条町となる。

さらに昭和 14 年 11 月 3 日館山北条、那古、船形の 3 町を廃止し、その区域をもって市制を施行し、初めて館山市が誕生した。また、昭和 29 年 5 月 3 日憲法記念日を期し、市町村合併促進法によって、西岬、神戸、富崎、豊房、館野、九重の 6 か村を合併して現在の館山市となった。

図表 1-3　館山市域の変遷

市　域　の　変　遷

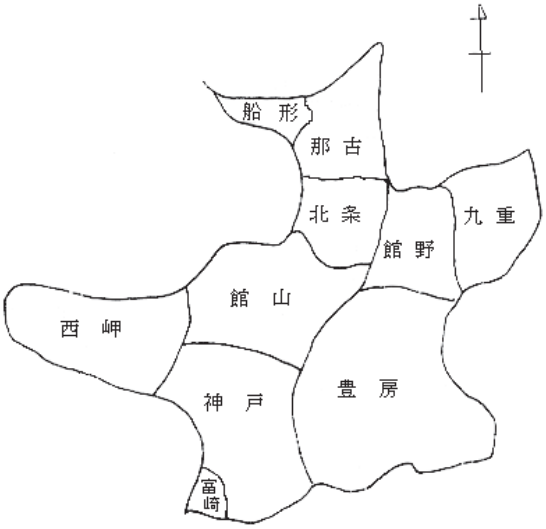
昭和 14.11. 3

館山北条町 (20,547人)
那　古　町 (4,212人)
船　形　町 (5,737人)
} 館山市となる

昭和 29. 5. 3

西　岬　村 (4,924人)
神　戸　村 (4,021人)
富　崎　村 (3,072人)
豊　房　村 (4,484人)
館　野　村 (2,942人)
九　重　村 (2,690人)
} を合併

(注) 人口はそれぞれ昭和10年,
昭和25年の国勢調査人口
である。



出所) 館山市の統計 2011

② 発展の推移

館山市は、地理的、歴史的背景から明治 11 年北条に安房郡役所が設置された。以来、安房地方の政治、経済、文化等あらゆる面での中心地として繁栄した。

昭和 5 年の館山航空隊の設置に続いて、戦時中は洲崎航空隊、館山砲術学校が設けられるなど、軍都の色彩を強めてきた。終戦を迎えると、軍都から解放され、昔の静寂を取り戻し水産基地及び観光都市として移行した。

昭和 29 年には周囲 6 か村を合併、現在の市域となり、商工業や交通の整備発達に伴い県南での中心都市として発展、加えて波静かな館山湾を擁し、31.5ｋｍに及ぶ海岸線は白砂青松の自然美を形成し、暖冬涼夏の恵まれた気候とあいまって、首都圏有数の観光地として脚光を浴びるに至った。

昭和 33 年に南房総国定公園の指定、昭和 36 年に国民休暇村の指定、昭和 48 年には自然休養村の指定を受けるに至った。このような中で国鉄電化による京葉、京浜との時間的距離が接近されたことにより、広く首都圏内の休養文化都市としての使命を自覚しつつ、来訪する観光客に多大の期待をよせ、南房総国定公園の中心都市として環境の整備と観光開発に努力を注ぎ、躍進的な歩みを続けるとともに、教育、福祉等あらゆる面での整備充実に取り組み、明るく豊かな文化福祉都市をめざして発展に努めている。

平成 9 年に東京湾アクアラインが開通、平成 19 年には館山自動車道が全線開通し、都心部とのアクセスの利便性は飛躍的に向上した。海と共に発展してきた歴史を振り返り、南房総の玄関口としての国際的な雰囲気を醸し出す「海辺のまちづくり」や、平成 22 年に完成した館山港多目的観光桟橋を中心とした「館山湾の活用」など、「交流と交易のまち館山」を目指している。

館山市の街並み（展望）

館山市の街並み

館山駅東口の様子

館山駅西口の様子

(3) 人口

① 人口

館山市は千葉県内 36 市中では 30 番目に人口の多い市である。常住人口は図表 1-4 に示した通りで、5 万人を割り込んでいる。

図表 1-4 館山市人口

		常住人口	住民基本台帳人口	住基のうち外国人
Ｈ２４年 １１月１日 現　在	総　数	48,626	49,907	372
	男	23,273	23,990	98
	女	25,353	25,917	274
	世帯数	20,358	22,706	－

※常住人口 … 国勢調査の結果から毎月の出生･死亡数，及び転入･転出数を増減した人口（外国人を含む）

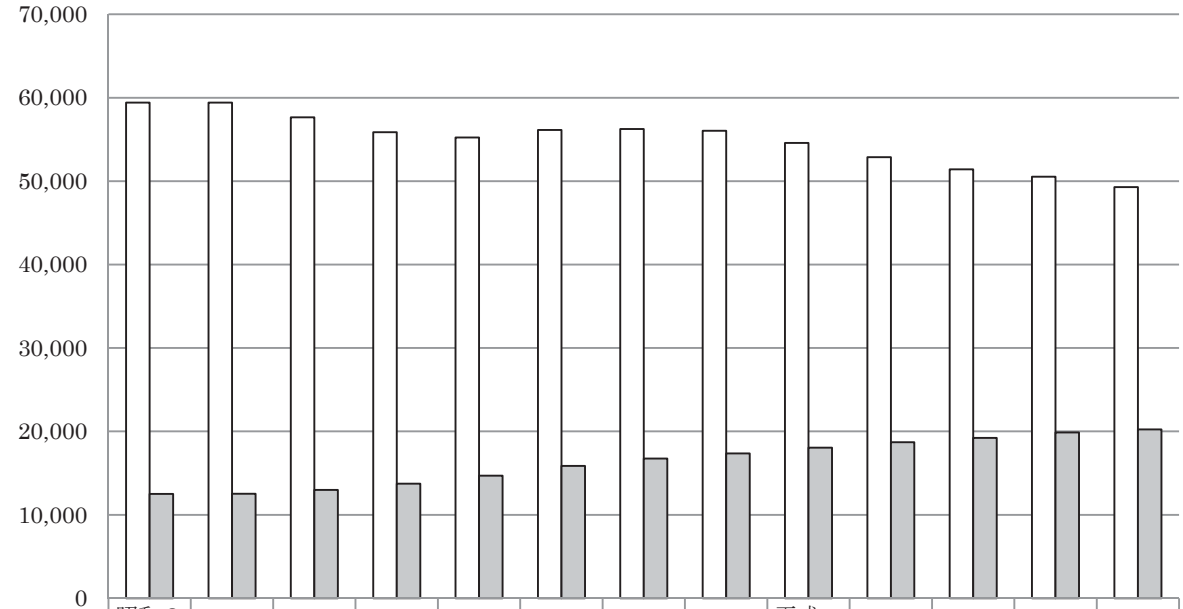
※住民基本台帳人口 … 住民基本台帳人口は、住民基本台帳法の改正により、平成 24 年 8 月分から外国人住民を含む人口となっている

出所）館山市観光課

② 人口の推移

近年では漸減傾向にあるが、全体の世帯数は年々増加している。

図表 1-5 館山市人口推移



	昭和２５年	３０年	３５年	４０年	４５年	５０年	５５年	６０年	平成２年	７年	１２年	１７年	２２年
□人　口	59,424	59,416	57,643	55,866	55,236	56,139	56,257	56,035	54,575	52,880	51,412	50,527	49,290
■世帯数	12,514	12,528	12,986	13,741	14,685	15,855	16,753	17,353	18,059	18,698	19,218	19,865	20,232

出所）各年 10 月 1 日国勢調査

③ 産業別就業人口（15 歳以上）

平成 17 年の館山市の就業人口総数（15 歳以上）は 24,175 人である。産業別では第一次産業が 2,372 人（9.8%）、第二次産業 4,307 人（17.8%）、第三次産業 17,284 人（71.5%）となっており、第三次産業のウェイトが高い。

産業別の就業人口について見ると、全体ではサービス業が 8,903 人（36.8%）と最も多くなっており、以下卸売・小売業 4,443 人（18.4%）、製造業 2,321 人（9.6%）と続く。

第一次産業の就業人口の比率は 9.8%程度となっている。その中では農業が 2,166 人（9.0%）で最も多いが、林業、漁業は、その従事者はそれぞれ 6 人（0.0%）、200 人（0.8%）と、とりわけ比率が低い。

図表 1-6　産業別就業者数（館山市）

産業分類		人口	構成比
第一次産業		2,372 人	9.8%
	農業	2,166 人	9.0%
	林業	6 人	0.0%
	漁業	200 人	0.8%
第二次産業		4,307 人	17.8%
	鉱業	13 人	0.1%
	建設業	1,973 人	8.2%
	製造業	2,321 人	9.6%
第三次産業		17,284 人	71.5%
	電気･ガス･水道業	118 人	0.5%
	情報通信･運輸業	1,104 人	4.6%
	卸売･小売業	4,443 人	18.4%
	金融･保険業	522 人	2.2%
	不動産業	217 人	0.9%
	サービス業	8,903 人	36.8%
	公務	1,977 人	8.2%
分類不能		212 人	0.9%
総数		24,175 人	100.0%

出所）平成 17 年 10 月 1 日国勢調査を基に作成

２　館山市の観光について

(1)　概況

館山市は南房総国定公園内に位置し、恵まれた自然と温暖な気候により古くから保養地、海浜リゾート地として、近年では花の産地としてその名を知られ、首都圏各地からの観光客に親しまれている。

東関東自動車道館山線や安房グリーンラインが整備されるなどアクセスルートが拡大しアクセス性が向上してきたなかで、「観光立市」を掲げ、行政・観光事業者・ＮＰＯ・市民が一丸となって観光振興施策に取り組んでいる。そのために、恵まれた立地や風土を充分活用した新たな観光資源開発、体験観光、教育旅行といった形での積極的な観光客の誘致活動等の取組を進め、現在の春夏の二季型の観光から通年型への移行を図っている。

また、平成 19 年には日本風景街道「南房総・花海街道」に、平成 20 年には観光庁発足にあわせ「南房総地域観光圏」に認定されるなど、広域連携による滞在型の観光地づくりを推進している。

近年の取り組みでは、「個性と魅力あるまちづくり」を推進し、館山港を活用することで多くの人々で賑わう快適で安全な海浜空間の創出と地域振興を図っている。その中で「みなとオアシス“渚の駅”たてやま」（平成 24 年 3 月 25 日オープン）の整備や多目的観光桟橋事業（平成 22 年 4 月 25 日供用開始)、海岸環境整備事業、シンボルロード整備事業を行うなど、魅力的な海辺のまちづくりを進めている。

平成 22 年 12 月には館山市のマスコットキャラクターの「ダッペエ」が誕生し、市内で開催されるイベントなどではポスターや着ぐるみで登場し、市の PR を行っている。

(2) 館山市の主な観光地

館山市内の主な観光地とその概要を、図表 1-7 に示した。

館山城（城山公園）

沖ノ島公園

館山湾（鏡ヶ浦）

図表 1-7　主な観光地一覧

平成 22.4.1 現在

名　　称	所　在　地	概　　要
崖の観音 （大福寺）	船形 835	養老元年（717 年）行基の創建といわれ、山の中腹の崖に張り付く様から「崖の観音」と呼ばれている。舞台づくりの観音堂にある本尊は、崖面に浮き彫りした磨崖十一面観音立像（市指定有形文化財）。 眼下に広がる波静かな鏡ヶ浦や伊豆大島、伊豆半島を望む雄大な海辺の景色や夕景は、「東京湾 100 選」・「ちば眺望 100 景」にも選ばれていて、市内でも有数のビュースポットである。
沖ノ島公園	館山 （航空隊前下車徒歩 30 分）	館山湾に浮かぶ周囲１㎞程の小島で、現在は陸続きになっており徒歩で渡れる。約 8,000 年前の縄文海中遺跡や北限域の造礁サンゴ、ヤブニッケイやタブノキなどの照葉樹、多様な海岸植物が共存し、貴重な自然が残る無人島である。
城山公園	館山 362	館山市街の南側丘陵に位置する城山公園は、戦国大名里見氏の居城が置かれていた。山頂には、天守閣様式の館山城（八犬伝博物館）、中腹の博物館本館とあわせて歴史の散策が楽しめる。 公園内には、椿・梅･桜・ツツジなどの花木が植えられ、季節に合わせて咲き誇り、山頂からは、波静かな館山湾（別名：鏡ヶ浦）や市街を見下ろせる。 また、「東京湾 100 選」、「関東の富士見百景」、「ちば眺望 100 景」にも選定されている。
那古寺	那古 1125	那古山の中腹にあり、板東 33 番札所納めの観音で、養老元年（717 年）行基の開基と伝えられる。 銅造りの千手観音立像は国の重要文化財に、多宝塔は県の有形文化財に指定されている。 また、桜の名所としても知られている。
安房神社	大神宮 589	戦前の官幣大社。上宮には安房の国開拓者「天富命」の祖神、「天太玉命」を、下宮には「天富命」、「天忍日命」の二柱が合祀してある。
鶴谷八幡宮	八幡 6	安房の総社であり、祭神は品陀和気命、帯中津比古命、 息長帯比売命の三柱を合祀する。拝殿正面の格天井に嵌め込みになった百態の竜は、後藤利兵衛橘義光の爛熟期の作で、市の有形文化財に指定されている。 毎年 9 月に開催される「安房やわたんまち」は、安房地方最大の祭礼で県無形民俗文化財に指定されている。
海の駅伊戸だいぼ工房	伊戸 963-1	平成 17 年 3 月、漁師直売所としてオープン。日本の道 100 選の房総フラワーラインの玄関口・伊戸の海沿いに位置し、現在、希少な自然のままの磯と富士山や大島が一望でき、花畑も隣接している。また,「関東の富士見百景」にも選ばれている。
館山市立博物館	館山 351-2	本館の歴史展示室では歴史のあけぼの、里見氏の興亡など館山の歴史を紹介し、民俗展示室では館山の農山村の民俗資料を紹介している。さらに歴史を目で見、手で触れることのできる子供展示室もある。 城山公園山頂にある天守閣形式の館山城（八犬伝博物館）では、「南総里見八犬伝」に関する各種資料の展示と、現在にまで続く八犬伝の人気を紹介している。
洲埼灯台	洲崎 1043	相模灘に向かって突き出した岬の灯台で大正 8 年に点灯され、灯の高さは地上頂高約 15m、海面上 45mの白色円形の灯台である。ここより遠く富士・天城・大島などを一望でき、また付近は無霜地帯で、真冬にも花が咲き乱れている美しい所である。 「東京湾 100 選」にも選ばれている。
観光定置網	坂田漁港	地曳網と異なり、漁船に乗って網を引き揚げるので漁師気分が味わえる。 引き揚げた魚は時価で販売。 バーベキューにして楽しむこともできる。

図表 1-7　主な観光地一覧 -続き-

名　　称	所　在　地	概　　要
道の駅南房パラダイス	藤原 1495	房総フラワーライン沿いに位置する動植物園。 145,000 ㎡もの広大な園内に、300mに渡って続く連続温室、高さ 20mの大温室など約 3,800 ㎡におよぶ観賞温室群は、国内でも最大級の施設の一つである。 熱帯・亜熱帯の植物は約 3,000 種あり、中には希少な植物も見られる。温室の他に、昆虫館・小鳥館などがあり、動物ふれあい広場では、ポニーやラマ、カワウソなどかわいい動物たちとふれあえる。 また、施設内の展望塔は遠く富士の霊峰や伊豆の島々が眺望でき「ちば眺望 100 景」にも選ばれている。
鏡ヶ浦	館山～西岬	館山湾の別名で波の静かなことからでた呼び名であり、鏡ヶ浦に面した館山・北条・那古・船形・西岬の海岸は遠浅で水のきれいな絶好の海水浴場となっている。 鏡のように平らな波の彼方は、富士の秀峰と相州の連峰また伊豆の大島を遠望できる。特に名峰富士を望んでの落日は絶景である。 また、「東京湾 100 選」・「日本の夕陽百選」・「関東の富士見百景」など多くの百選に選ばれている。
海中観光船 たてやま号	波左間漁港	半潜水式の海中観光船。 従来の海底透視船とは異なり、冷暖房完備のゆったりした海中展望室からは三次元の立体的な海中散歩が楽しめる。
館山ファミリーパーク	布沼 1210	房総フラワーライン沿いに位置するレジャー施設。1 年を通して季節の花々が見られ、花摘みも楽しめる。 敷地面積約 7,000 ㎡約 80,000 株のポピー畑では 12 月から 5 月にかけポピーの花摘みが楽しめる。 平成 19 年 9 月には、子どもからお年寄りまで楽しめるパークゴルフがオープン。他にもパターゴルフや釣堀、ハーブを使ったオリジナルの作品が作れる体験工房などアクティブに過ごせる。
観光いちご園	館野・豊房	館野･豊房地区に観光農業の一環として､昭和 56 年 2 月に開園。 観光いちご狩り園は１３軒。栽培面積は 50,000 ㎡。 品種はとちおとめ・章姫・さちのか・紅ほっぺなどで,新鮮ないちごをその場で味わえる。開園時期は 1 月上旬～5 月上旬。
常楽山萬徳寺	洲宮 1571	小高い山の山頂にはガンダーラ様式で体長 16m、高さ 3.75m、重さ 30 t の涅槃仏がある。横たわった本尊は釈迦の境地に達した瞬間を表しており、青銅製の涅槃仏としては世界最大級を誇る。
館山野鳥の森	大神宮 553	百数十種の野鳥が生息している。 また渡り鳥の経路になっているため、給水・給餌の施設、生態観察舎等があり、野鳥たちとふれあうやすらぎの場。３コースの探鳥道があり、バードウォッチングをしながらハイキングを楽しめる。 また、「『森林浴の森』日本 100 選」・「ちば眺望 100 景」・「エコウォーク 100 選」にも選ばれている。
赤山地下壕跡	宮城 192-2	東京湾の入口にある館山は、かつて首都東京を守る要所であった。数多くの戦争遺跡が残っている中の、館山市を代表する戦争遺跡の 1 つ。合計した長さが約 1.6km と全国的にみても大きな壕である。このうちの 250 メートル部分を平成 16 年 4 月 1 日から一般公開した。また、歴史だけでなく地層などから土地の生い立ちを学ぶこともできる。
ウミホタル	北条海岸	ウミホタルは、海に棲んでいるミジンコの仲間で、海面に神秘的ですばらしいマリンブルーの光を放つ。館山湾は、全国でも有数のウミホタルの生息地である。

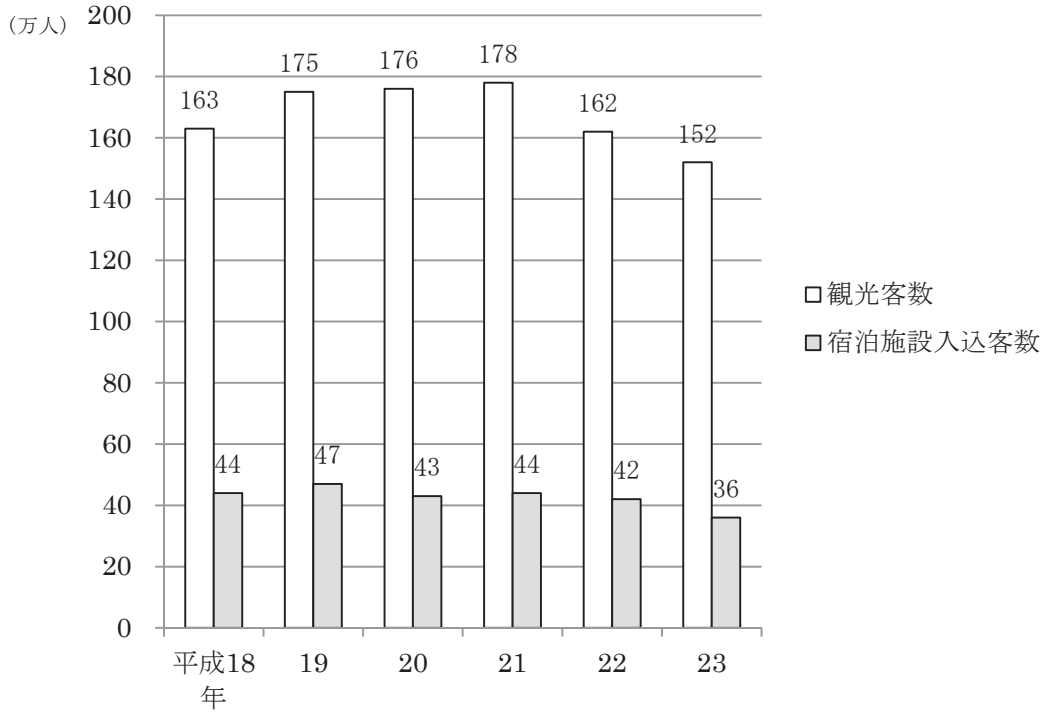
出所）館山市の統計 2011

(3) 観光客について

① 館山市の観光客数について

館山市の観光客数の推移をみると、平成 23 年の観光客数は 152 万人、宿泊施設入込客数は 36 万人となっている。平成 18 年以降の推移をみると、観光客数は平成 21 年をピークに平成 22 年から減少傾向にある。宿泊施設入込客数は平成 22 年までは横ばいであるが、平成 22 年から平成 23 年にかけては 6 万人減少と、大きく落ち込んでいる。

図表 1-8　館山市の観光客数



出所）平成 23 年千葉県観光客入込調査、館山市の統計 2011 を基に作成

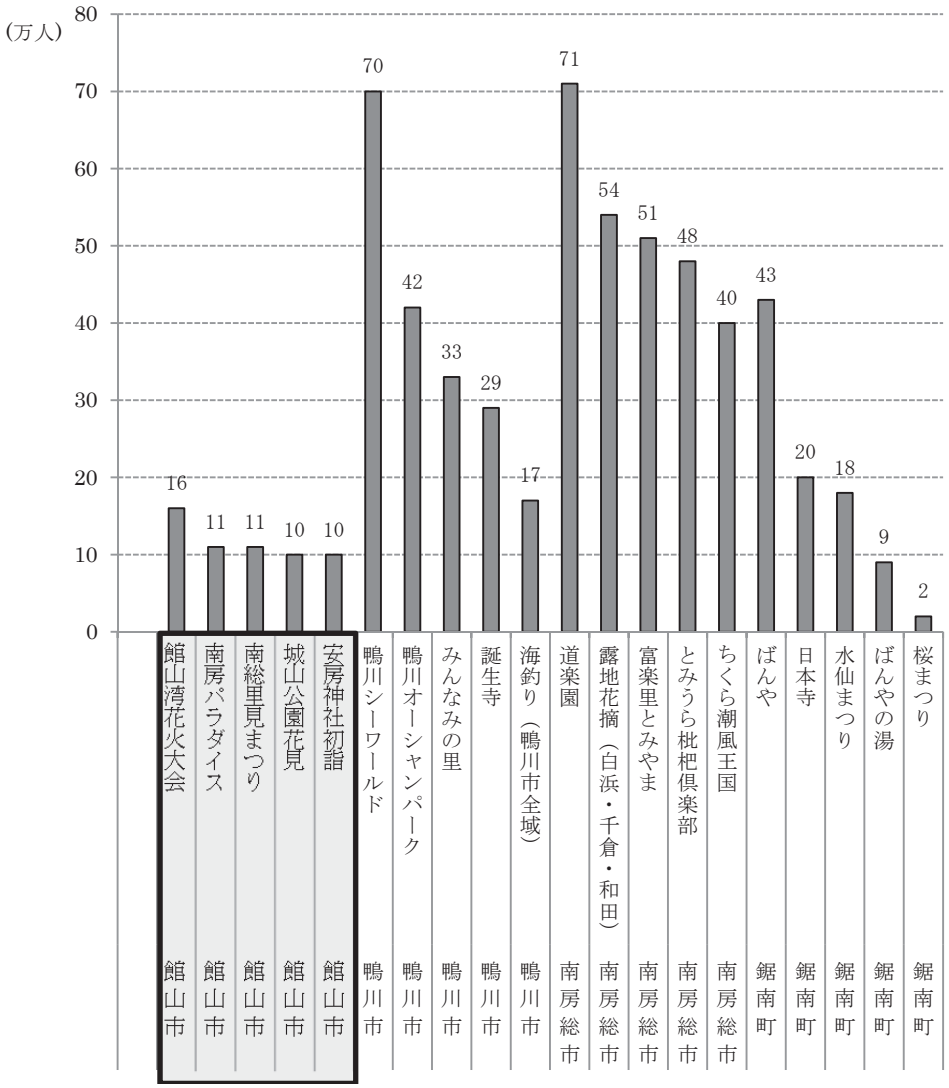
② 主要観光地点の観光入込数について

館山市は花見、花火、いちご狩りや花摘みなどの観光イベントも多く開催しており、それらを目当てに訪れる人も多い。

館山市及び周辺市町の主要観光地点（行祭事・イベント）における観光入込数を図表 1-9 に示すが、周辺の市町と比較すると、観光地点を目指して訪れる観光客の数はやや少ないと言える。

道の駅を見ると、館山市の南房パラダイスが 11 万人となっているが、南房総市の富楽里とみやまが 51 万人、とみうら枇杷倶楽部が 48 万人、ちくら潮風王国が 40 万人と、館山市の道の駅を訪れる観光客数は少ない。

図表 1-9 主要観光地点の観光入込数（周辺市町比較）



出所）平成 22 年観光入込調査（千葉県）を基に作成

３　館山市の農業について

(1) 概況

館山市は西に東京湾口、南は黒潮の北流する太平洋に面し、海洋性の影響を受けて、冬暖夏涼の西南暖地型を示すが、冬季は西の季節風が強く、営農作目に制約を受ける。経営形態は米プラス野菜、花卉または酪農といった複合型で自立への道を歩んでいる。

農家の経営規模を見ると、平成 17 年度では１戸平均約 86 アールとなっている。農家数の増減をみると、年々減少の傾向がみられる。

図表 1-10　市内農家数・経営耕地データ

年次、地区	農家数					経営耕地面積				1 世帯当たりの面積(a)
	総数	対前回増減	専業	兼業		総数	田	畑	樹園地	
				農業主	兼業主					
昭和 60 年	2,828	△280	680	236	1,912	176,291	130,970	38,793	6,528	62.3
平成 2	2,612	△216	657	307	1,648	160,364	119,422	37,244	3,698	61.4
7	2,344	△268	575	227	1,542	144,625	107,801	32,900	3,924	61.7
12	1,459	△885	453	206	800	110,789	85,320	22,346	3,123	75.9
17	1,168	△291	409	126	633	99,932	75,417	22,456	2,059	85.6
館山	47	△ 14	12	7	28	3,164	2,010	629	525	67.3
北条	74	△ 23	24	5	45	6,832	5,188	1,577	67	92.3
那古	173	△ 32	54	13	106	17,230	14,613	2,124	493	99.6
船形	21	△ 9	9	3	9	2,095	1,347	412	336	99.8
西岬	113	△ 52	63	17	33	3,862	860	2,998	4	34.2
神戸	194	△ 48	89	29	76	17,723	11,368	6,295	60	91.4
富崎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
豊房	190	△ 44	52	14	124	11,510	8,639	2,649	222	60.6
館野	178	△ 29	51	25	102	16,274	13,566	2,568	140	91.4
九重	178	△ 40	55	13	110	21,242	17,826	3,204	212	119.3

※平成 12 年以降は販売農家の数値であり、自給的農家（H12：640 戸，H17：681 戸）は除かれている。

農家：平成 2 年以降は，経営耕地面積 10a 以上又は，過去 1 年間の販売金額が 15 万円以上の世帯。

販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は販売金額が 50 万円以上の農家。

自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満かつ販売金額が 50 万円未満の農家。

出所）館山市の統計 2011

(2) 農作物の作付面積について

図表 1-11 に示す農作物の作付面積を見ると、水稲、レタス、花卉類が多くなっているが、全体の作付面積は漸減の傾向となっている。

図表 1-11　主な農作物作付（収穫）面積（販売農家）

単位 a

作　物	平成 2年		平成 7年		平成12年		平成17年			
	露地栽培		露地栽培		露地栽培		露地栽培		施設栽培	
	農家数	収穫面積	農家数	収穫面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積	農家数	作付面積
水　稲	1,813	83,194	1,571	79,490	1,033	53,889	836	54,502	…	…
陸　稲	1	2	－	－	－	－	－	－	…	…
小　麦	6	24	－	－	－	－	…	…	…	…
裸　麦			－	－	－	－	－	－	…	…
大　麦	3	14	1	x	1	x	－	－	…	…
その他の雑穀	…	…	19	98	9	129	19	246	…	…
甘　藷	417	702	463	709	94	287	121	301	…	…
馬鈴薯	497	484	651	536	92	160	124	191	…	…
だいず	424	1,928	377	1,064	86	336	90	347	…	…
らっかせい	629	2,846	534	2,032	140	887	158	946	…	…
その他の豆類	…	…	144	1,146	52	846	39	623	…	…
茶	…	…	2	10	－	－	－	－	－	－
トマト	375	175	365	153	31	153	73	111	27	302
なす	779	419	736	397	52	229	129	233	7	46
ピーマン	…	…	100	34	6	52	53	56	4	14
きゅうり	695	274	654	228	33	98	99	145	25	272
キャベツ	408	764	388	941	76	716	76	384	－	－
結球白菜	312	147	349	152	12	24	58	84	1	x
レタス	119	7,135	98	5,128	64	4,896	63	4,398	2	x
ほうれん草	496	389	449	441	22	225	73	238	6	120
ねぎ	728	306	710	313	36	49	116	261	2	x
たまねぎ	498	182	444	156	26	56	79	131	1	x
だいこん	1,009	602	883	557	55	122	167	288	4	19
にんじん	272	71	259	58	9	13	37	44	－	－
さといも	527	192	464	173	27	154	88	175	－	－
いちご	30	119	25	43	14	212	6	12	32	726
すいか	314	487	241	459	33	235	63	294	8	20
メロン	775	6,500	675	6,000	303	4,639	10	10	6	25
その他の野菜							261	4,539	69	1,527
花き類	441	6,899	423	7,835	347	7,049	185	2,282	219	5,222
花　木							63	1,256	18	471
種苗・苗木類	16	100	9	100	10	187	17	360	25	143
飼料用作物	373	18,786	205	9,423	13	396	17	461	6	126
その他の作物	136	1,916	43	486						

単位 a　x…該当数字はあるが発表を控えたもの

出所）各年２月１日　農（林）業センサス

第２章　公設卸売市場用地（跡地）の概況

第２章　公設卸売市場用地（跡地）の概況

１　公設卸売市場用地（跡地）について

（1）用地の概況

公設卸売市場用地（跡地）は、館山市稲地区、安房グリーンライン近くに所在する 11,877 ㎡の土地であり、用途地域は無指定となっている。

当該用地は、館山地区の民営５青果市場と民営１水産市場の統合を推進し、館山市が公設地方卸売市場を開設するために、平成 14 年度に取得したものであるが、平成 15 年３月に青果取扱量の７割を占める館山市内の青果２市場が入場しない旨申出書を提出したことから、様々な経緯を経て平成 18 年３月に公設市場計画がストップしている。

図表 2-1　公設卸売市場用地（跡地）の位置・航空写真

位置	館山市　稲地内
取得面積	11,877 ㎡（7 筆）
取得時期	平成 14 年度

出所）館山市農水産課

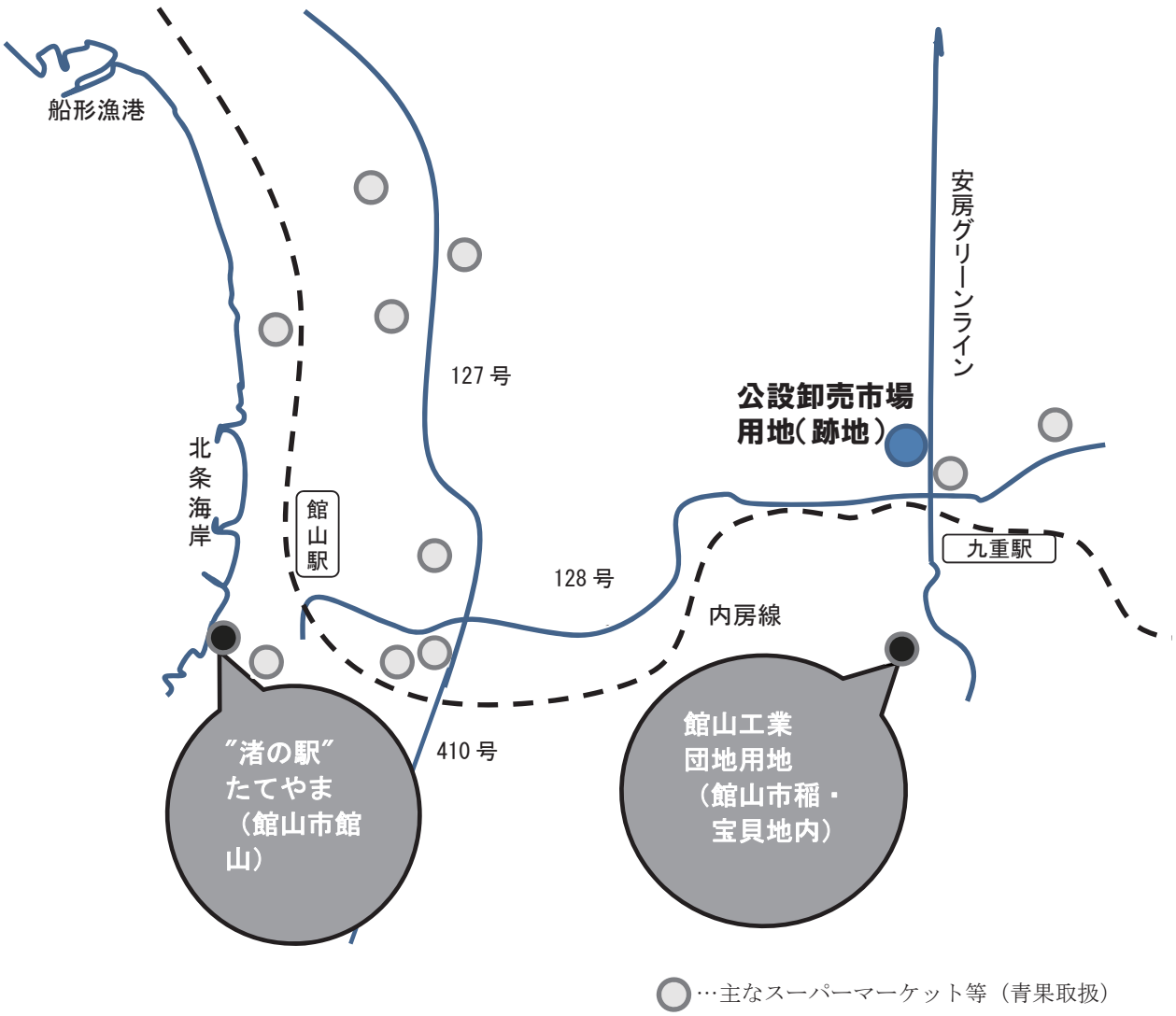
(2) 用地周辺の様子

当該用地は、国道 128 号（外房黒潮ライン）と安房グリーンラインの交点に位置しているほか、九重駅や館山駅とのアクセスも良好である。館山市街地からは比較的短時間で訪れることのできる地点といえる。

周辺施設については、館山市に近接する南房総市には道の駅が 8 つと数多く存在しており、同様の施設を検討する場合は競合が予想される。また、用地周辺域にスーパーマーケットや八百屋、農産物直売所も多数存在するため、用地で野菜の販売を行うに当たっても周辺施設との競合が予想される。

一方で、「館山工業団地用地」や「渚の駅」について、これらの施設との連携も視野に入れることのできる距離に位置していることから、複数の施設でコンセプトを共有したり、相互補完的な役割を果たすことも検討の余地がある。

図表 2-2　公設卸売市場用地（跡地）周辺簡易図



(3) 公設卸売市場整備計画について

① 安房地域公設卸売市場開設協議会

安房地域公設卸売市場開設協議会は、安房地域卸売市場整備促進会議の流れを汲んで、第 5 次千葉県卸売市場整備計画に基づいて成立した。平成 11 年 6 月 29 日の設立総会より、平成 17 年 7 月 29 日の協議会廃止まで、臨時総会を含め 9 回総会を実施した。

館山市は、安房地域における生鮮食品などの円滑な供給を目的として、第 6 次（8～12 年）・第 7 次（13～17 年）千葉県卸売市場整備計画（6 年ごとに見直し）に基づき、公設市場を開設するため、地域の民営 5 青果市場と民営 1 水産市場の統合を目指し、用地の選定・取得、実施設計等に関する事務を行うとともに、市場整備方針について協議・検討を重ねてきた。

しかし、平成 15 年 3 月、青果 2 市場の統合への不参加申出により国が示している補助基準をクリアできない状況となり、計画を白紙撤回し平成 17 年 7 月 29 日に協議会を解散した。

② 計画中止からの経緯

計画の中止からは、用地の利活用方針についての検討が進められ、平成 21 年 3 月の館山市議会にて方針が公表された。

図表 2-3　計画中止からの経緯

H20～	○庁内プロジェクトチームを結成 市場用地の利活用について検討、「農業を中心とした交流拠点施設」の活用案を出す
H21.3	○公設卸売市場用地を「農業を中心とした交流拠点施設」としての活用方針を公表 →H21.3 月　館山市議会にて答弁

出所）館山市農水産課

２　拠点整備との関連事業について

(1) 館山市基本計画との関連について

館山市基本計画は、平成 27 年度を展望した館山市の長期ビジョンである「館山市基本構想」を踏まえ、現在第 3 期基本計画が策定されている。「基本構想」は平成 13 年 3 月に一人ひとりが心の中に思う「ふるさと」を基本理念とし、「輝く人・美しい自然元気なまち館山」を将来像とし、「館山新世紀発展プラン」・「ふるさと館山の保全と育成」・「分権型社会のシステムづくり」の 3 つを施策の体系として位置付け策定されており、第 3 期基本計画はそれらを踏まえ過去 2 期の基本計画に掲げた各種施策の検証を行い、現基本構想期間の最後の 5 年間に取り組むべき施策についてまとめたものである。

この基本計画の「館山新世紀発展プラン」における「にぎわいと憩いと癒しの観光地づくり」として「観光振興拠点の整備」を、また、「商業発展都市館山の再構築」として「流通機能の整備」を、「地域をはぐくむ産業の活性化」として「農林業の活性化」を掲げており、それぞれの計画事業の中に「旧公設卸売市場用地の利活用」を盛り込んでいる。

公設卸売市場用地（跡地）の活性化は、第 3 期基本計画における「観光」「商業」「農業」の整備・発展をそれぞれを結びつける役割を担っているといえる。

(2) 館山市地域農業活性化計画との関連について

① 館山市地域農業活性化計画

館山市をはじめ農業を取り巻く環境は、農業従事者の平均年齢が 65 歳を超え，後継者不足もあり，耕作放棄地が広がるなど、幾多の難問を抱えている。さらに、消費者ニーズや流通販売形態の多様化、産地間競争が激化している。

そこで、地域農業を活性化することを目的として、地域における農業の現状や課題を把握し、先進地事例などとの比較分析を行い、多方面から検証し、農村交流拠点の整備に重点を置き、地域農業の活性化に向けた具体的な方策の検討を行うこととした。

主な地域農業活性化策の内容は、地産地消を推進し市内で生産された農産物の消費拡大を図るため、現状の地域内及び首都圏における流通実態の把握と需給関係並びに地域農業の 6 次産業化として館山産加工・業務用農作物や観光農産物の需要調査を行うとともに、館山産農産物のブランドの実態及び周辺環境に関する調査を実施し本市農業の活性化に具体的な方策を提案し、あわせて、農村交流拠点の整備を計画し、その拠点を核とした、地域農業活性化策を含んだ計画を策定するというものである。

同計画の策定期間は平成 24 年度内としている。

② 地域農業活性化計画策定に関連するポイント

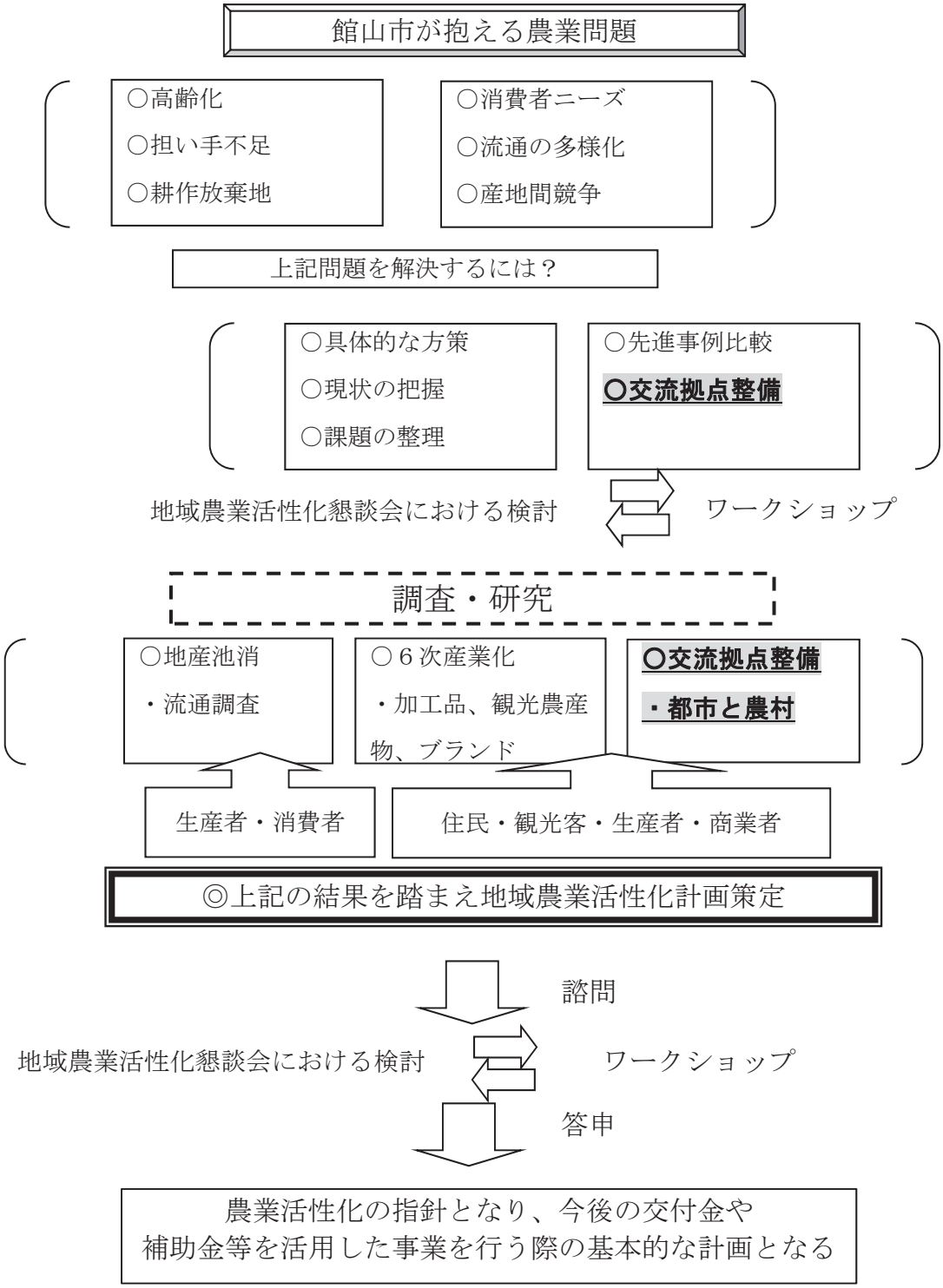
◆交流拠点整備のため、農業関係機関、農業者、体験農業関係、市民などで構成される検討組織（以下、「地域農業活性化懇談会」という。）が平成 23 年 7 月に設置された

◆計画内容について地域農業活性化懇談会に諮問

◆地域農業活性化懇談会の構成機関の担当者レベルで構成するワークショップを設置

公設卸売市場用地（跡地）の様子（平成 24 年 12 月撮影）

図表 2-4 館山市 地域農業活性化計画策定フロー



出所）館山市農水産課

第３章　アンケート調査結果

第３章　アンケート調査結果

１　アンケート調査の概要

（1）目的

本アンケートは南房総を訪れる観光客、館山市民、館山市内農家を対象に、観光客には南房総の観光の目的や手段、道の駅に対する考えや興味のある拠点機能を、館山市民には農業との関わりや農産物の購入場所、拠点機能についての考えや自由意見を、館山市内農家には農業の経営意向や農産物の出荷意向、拠点についての考えや自由意見を問うことで、それぞれの意向や考え方を把握し、公設卸売市場用地（跡地）を都市農村交流拠点として整備するために必要な事項の整理、基礎資料とすることを目的とする。

（2）調査対象、調査項目、調査方法

本アンケート調査は対象別に３種類実施した。

実施したアンケートの調査対象者、対象抽出方法、調査項目、調査方法及び調査時期、アンケート回収状況は図表 3-1 に示すとおり。

図表 3-1　各アンケート調査の概要

調査種別	観光客アンケート	市民アンケート	農家アンケート
調査対象者	観光客（20 歳以上男女）	館山市民（20 歳以上男女）	館山市内農家（20 歳以上男女、販売農家以外も含む）
抽出方法	アンケート実施会社のモニターから、過去 3 年以内に南房総地区（館山、南房総）に観光目的で訪れたことのある方を抽出	無作為抽出（800 人）	無作為抽出（1,480 人）
調査項目	(1) 回答者の属性 (2) 南房総への観光について ・同伴者 ・交通手段 ・交通ルート ・滞在日数 ・宿泊場所 ・往訪の目的 ・立ち寄った施設（道の駅等） ・南房総地区への旅行で楽しみたいこと ・その他国内観光・旅行で楽しみたいこと (3) 館山市で新たに整備するもので、興味のある施設 ・興味のある施設 ・興味のある施設を利用したいか	(1) 回答者の属性 (2) 市民と農業との関わり (3) 農産物の購入について ・購入場所 ・購入基準 (4) 農産物への考え方 ・館山産農産物について ・規格外農産物について (5) 用地の附帯機能に関する考え方・意見 (6) 自由意見	(1) 回答者の属性 (2) 経営の現況や経営意向 ・農業形態・農業経営形態 ・経営面積規模 ・経営規模 ・後継者 ・主要な出荷先 ・農地の賃借について ・10 年後の農業経営 ・今後の館山市の農業のあるべき姿 (3) 農産物等の出荷意向 ・学校給食について ・出荷可能量 ・出荷条件 (4) 用地の附帯機能に関する考え方・意見 ・直売所の整備について ・出荷意向 ・売り上げ ・出荷可能頻度 ・出荷条件 (5) 自由意見
調査方法及び調査時期	調査会社に委託し、Web サイトにアンケートを掲載。（委託先：株式会社　野村総合研究所） 平成 24 年 8 月実施。	郵送による配布、返信用封筒による回収。 平成 24 年 8 月～9 月実施。	郵送による配布、返信用封筒による回収。 平成 24 年 8 月～9 月実施。
アンケート回収状況	回答者：363 回収率（%）：――	回答者：329 回収率（%）：41.1	回答者：663 回収率（%）：44.7

(3) その他

集計結果は一部四捨五入の関係で合計が 100%にならないものがある。

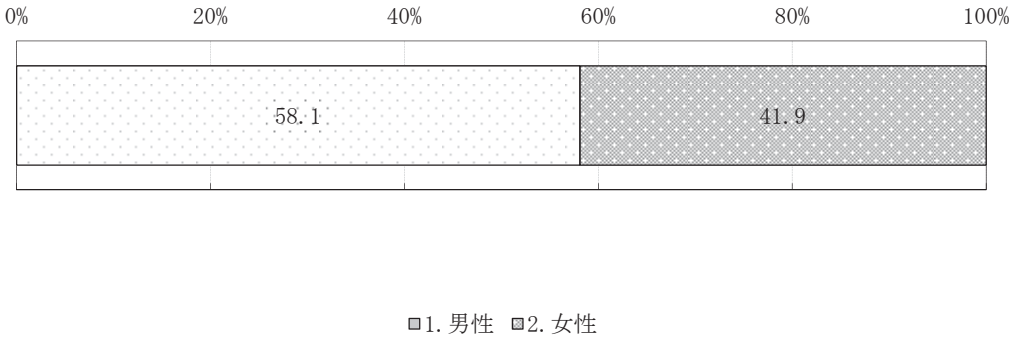
２　観光客アンケート調査結果

（1）回答者の属性

① 性別

回答者は「男性」が 58.1%、「女性」が 41.9%であった。

図表 3-2　回答者の性別（SA）



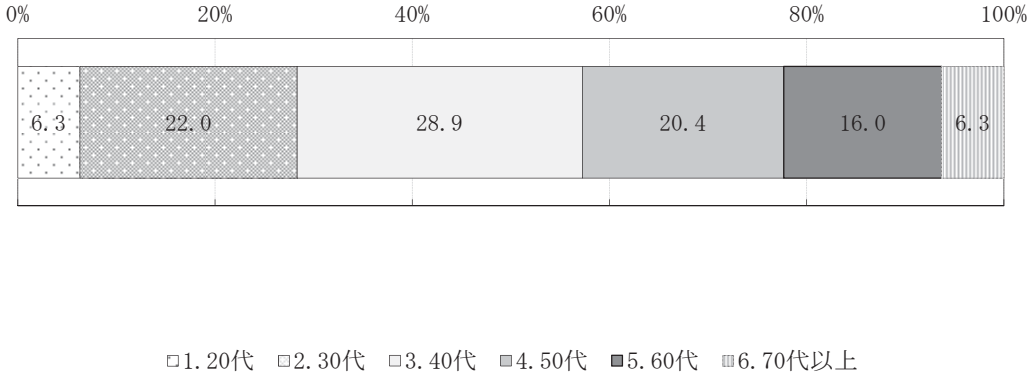
	回答数	%
1.男性	211	58.1
2.女性	152	41.9
合計値(N 値)	363	100.0

※単純集計については不明分を除く。以下同様。

② 年代別

年代は「40 代」が 28.9%と最も多く、次いで「30 代」が 22.0%、「50 代」が 20.4%、「60 代」が 16.0%と続く。回答数が少ないのは「20 代」と「70 代以上」で、ともに 6.3%となっている。

図表 3-3　回答者の年代（SA）



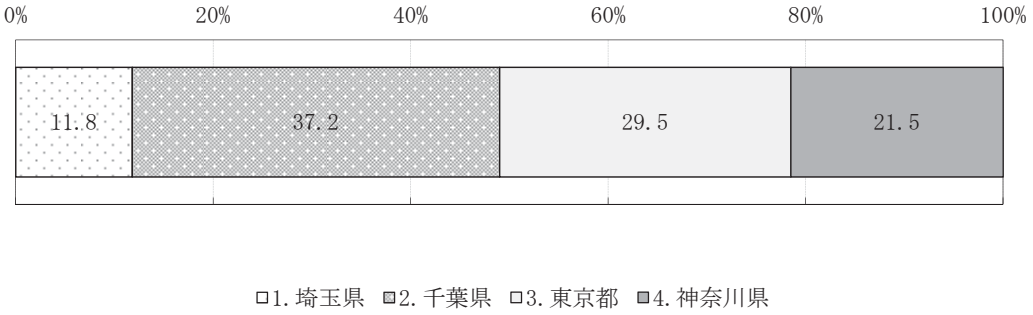
	回答数	%
1.20 代	23	6.3
2.30 代	80	22.0
3.40 代	105	28.9
4.50 代	74	20.4
5.60 代	58	16.0
6.70 代以上	23	6.3
合計値(N 値)	363	100.0

③ 居住地域別

居住地域を見ると、「千葉県」の人からの回答が最も多く 37.2%、次いで「東京都」が 29.5%、「神奈川県」が 21.5%、「埼玉県」が 11.8%になっている。

千葉県在住の人からの回答がやや多い結果となった。

図表 3-4　回答者の居住地域（SA）



	回答数	%
1. 埼玉県	43	11.8
2. 千葉県	135	37.2
3. 東京都	107	29.5
4. 神奈川県	78	21.5
合計値(N 値)	363	100.0

(2) 南房総への観光について

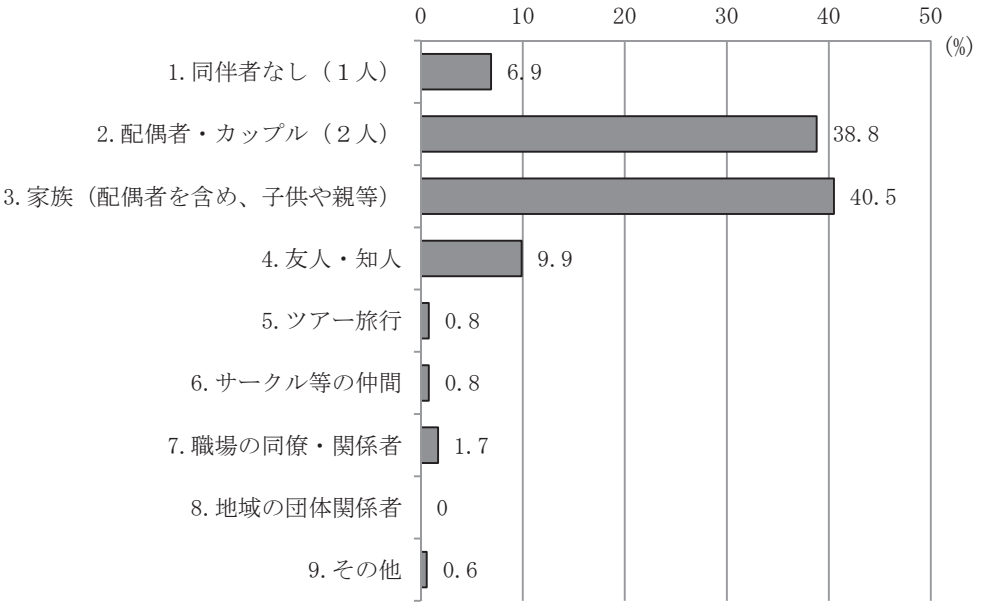
① 同伴者

問１　一番最近の南房総地区への観光では、どなたと旅行しましたか。

旅行の同伴者については、「家族（配偶者を含め、子供や親等）」が最も多い 40.5%で、次いで「配偶者・カップル（2 人）」が 38.8%となっており、この 2 つの回答が全体の 7 割以上を占める。

他には「友人・知人」が 9.9%、「同伴者なし（1 人）」が 6.9%と続く。

図表 3-5　旅行の同伴者（SA）



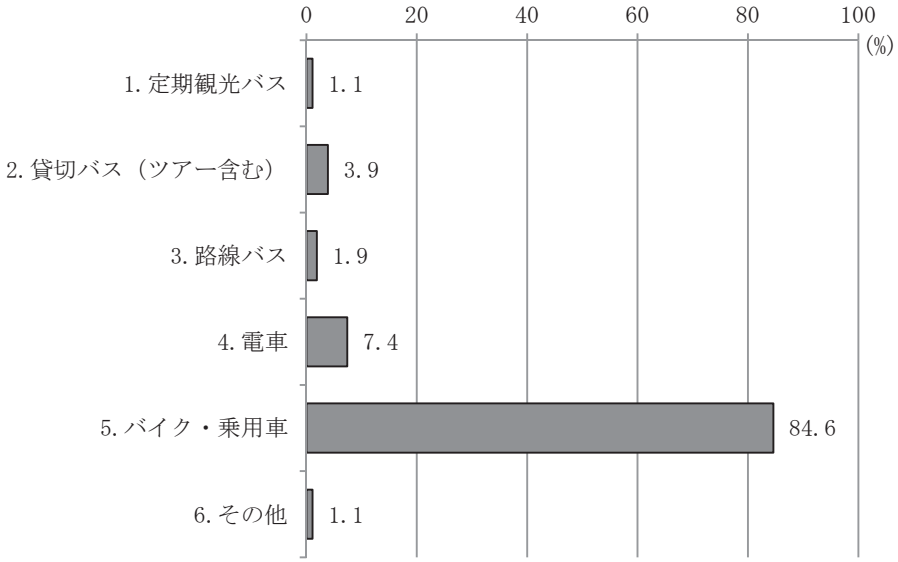
	回答数	%
1.同伴者なし（１人）	25	6.9
2.配偶者・カップル（２人）	141	38.8
3.家族（配偶者を含め、子供や親等）	147	40.5
4.友人・知人	36	9.9
5.ツアー旅行	3	0.8
6.サークル等の仲間	3	0.8
7.職場の同僚・関係者	6	1.7
8.地域の団体関係者	0	0.0
9.その他	2	0.6
合計値(N 値)	363	100.0

② 交通手段

問２　一番最近に、南房総地区に観光で訪れた際の交通手段についてお知らせください。

南房総を訪れる交通手段では、「バイク・乗用車」が 84.6%と大部分を占める。「電車」が 7.4%、「貸切バス（ツアー含む）」が 3.9%と続く。他には「定期観光バス」が 1.1%、「路線バス」が 1.9%で、これらは全体で占める割合は少ない。

図表 3-6　南房総を訪れた際の交通手段（SA）



	回答数	%
1. 定期観光バス	4	1.1
2. 貸切バス（ツアー含む）	14	3.9
3. 路線バス	7	1.9
4. 電車	27	7.4
5. バイク・乗用車	307	84.6
6. その他	4	1.1
合計値(N 値)	363	100.0

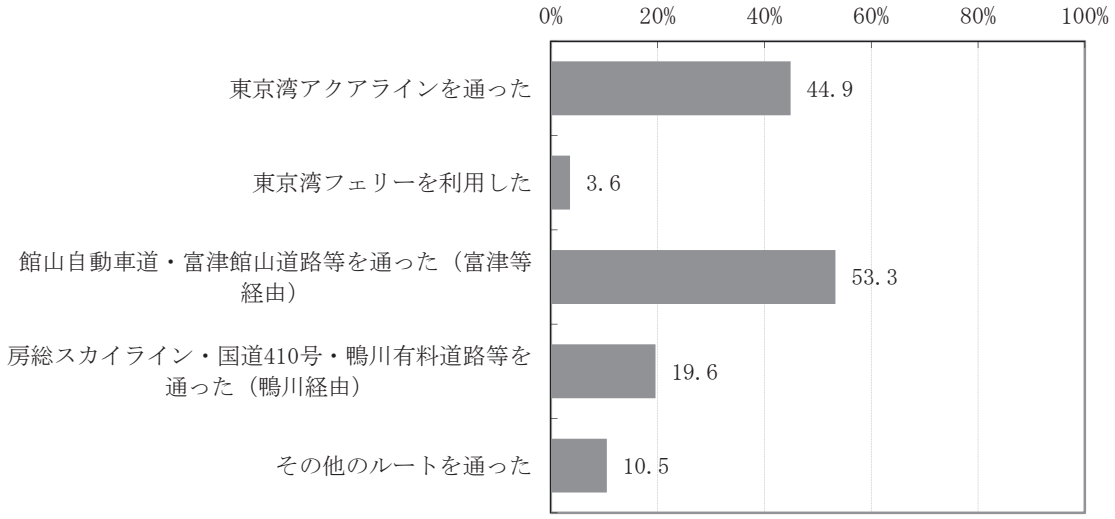
③ 交通ルート

問 3-1　問 2 で「1.定期観光バス」「2.貸切バス（ツアー含む）」「3.路線バス」「5.バイク･乗用車」と回答した方にお伺いします。
ご自宅から南房総地区へはどのようなルートで行きましたか。（いくつでも）

南房総へ向かうルートでは、「館山自動車道・富津館山道路等を通った（富津等経由）」が 53.3%と最も多く、次いで「東京湾アクアラインを通った」が 44.9%と続く。

東京湾アクアラインを利用するのは主に東京都・神奈川県・埼玉県在住の人であった。

図表 3-7　南房総へのルート（往路）(MA)

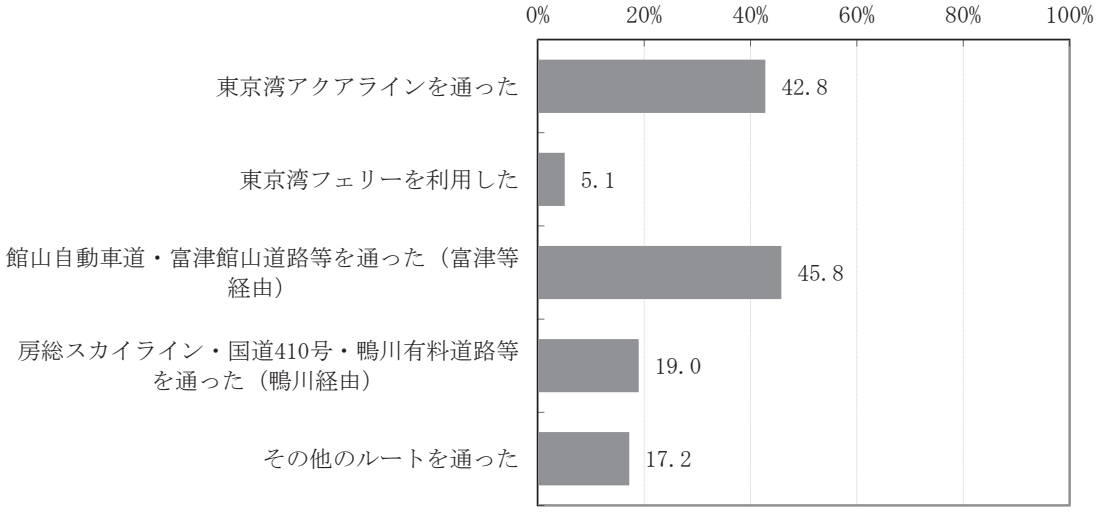


	回答数	%
東京湾アクアラインを通った	149	44.9
東京湾フェリーを利用した	12	3.6
館山自動車道・富津館山道路等を通った（富津等経由）	177	53.3
房総スカイライン・国道 410 号・鴨川有料道路等を通った（鴨川経由）	65	19.6
その他のルートを通った	35	10.5
回答者数（N 値）	332	100.0

問 3-2　問 2 で「1. 定期観光バス」「2. 貸切バス（ツアー含む）」「3. 路線バス」「5. バイク･乗用車」と回答した方にお伺いします。
南房総地区からご自宅へはどのようなルートで帰りましたか。（いくつでも）

南房総から帰路に着くルートでは、「館山自動車道・富津館山道路等を通った（富津等経由）」が 45.8%と最も多く、次いで「東京湾アクアラインを通った」が 42.8%と続く。往路（問 3-1）よりも、復路では館山自動車道・富津館山道路等（富津等経由）のルートを取る人が少なかった。

図表 3-8　南房総からのルート（復路）(MA)



	回答数	%
東京湾アクアラインを通った	142	42.8
東京湾フェリーを利用した	17	5.1
館山自動車道・富津館山道路等を通った（富津等経由）	152	45.8
房総スカイライン・国道 410 号・鴨川有料道路等を通った（鴨川経由）	63	19.0
その他のルートを通った	57	17.2
回答者数（N 値）	332	100.0

④ 滞在日数

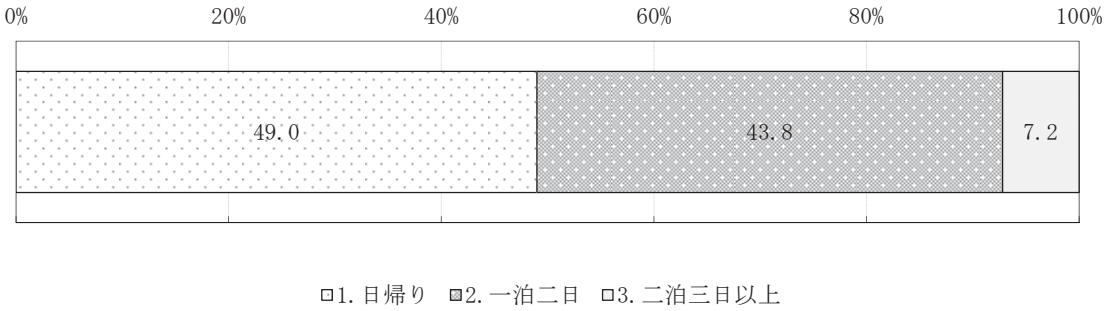
問 4-1　あなたが南房総地区を観光した日数をお知らせください。（ひとつだけ）

南房総の滞在日数は、「日帰り」が 49.0%、「一泊二日」が 43.8%と、「二泊三日以上」の 7.2%と比べて高い割合を占める。

「日帰り」の回答が多い点については、近年の東京湾アクアラインの整備や館山道の開通をはじめとした首都圏からの交通網の発達もその理由の一つとして考えられる。

居住地別で見ると、千葉県在住の人は他の地域の人と比べて滞在期間が短い傾向にあった。

図表 3-9　滞在日数（SA）



	回答数	%
1. 日帰り	178	49.0
2. 一泊二日	159	43.8
3. 二泊三日以上	26	7.2
合計値(N 値)	363	100.0

⑤ 宿泊場所

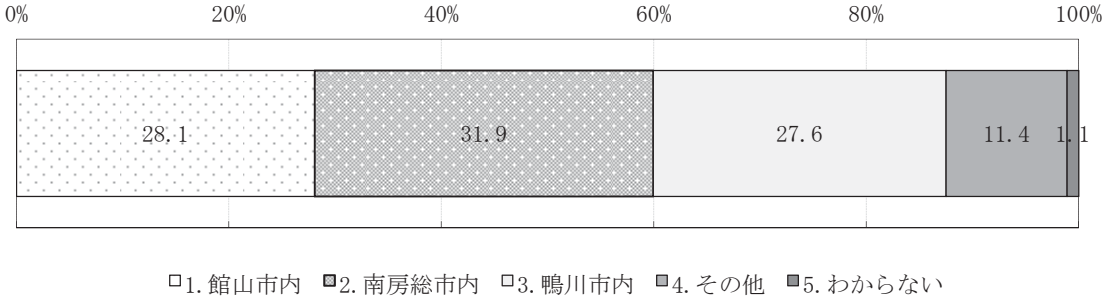
問 4-2　問 4-1 で「2. 一泊二日」「3. 二泊三日以上」と回答された方にお伺いします。

あなたが南房総地区に宿泊した際に宿泊した場所をお知らせください。（ひとつだけ）

南房総を訪れた際の宿泊場所としては、「南房総市内」が 31.9%と最も多く、次いで「館山市内」が 28.1%、「鴨川市内」が 27.6%と続く。

主要な 3 市のうちでの割合の差はあまりなく、宿泊先の偏りは大きくない。

図表 3-10　宿泊場所（SA）



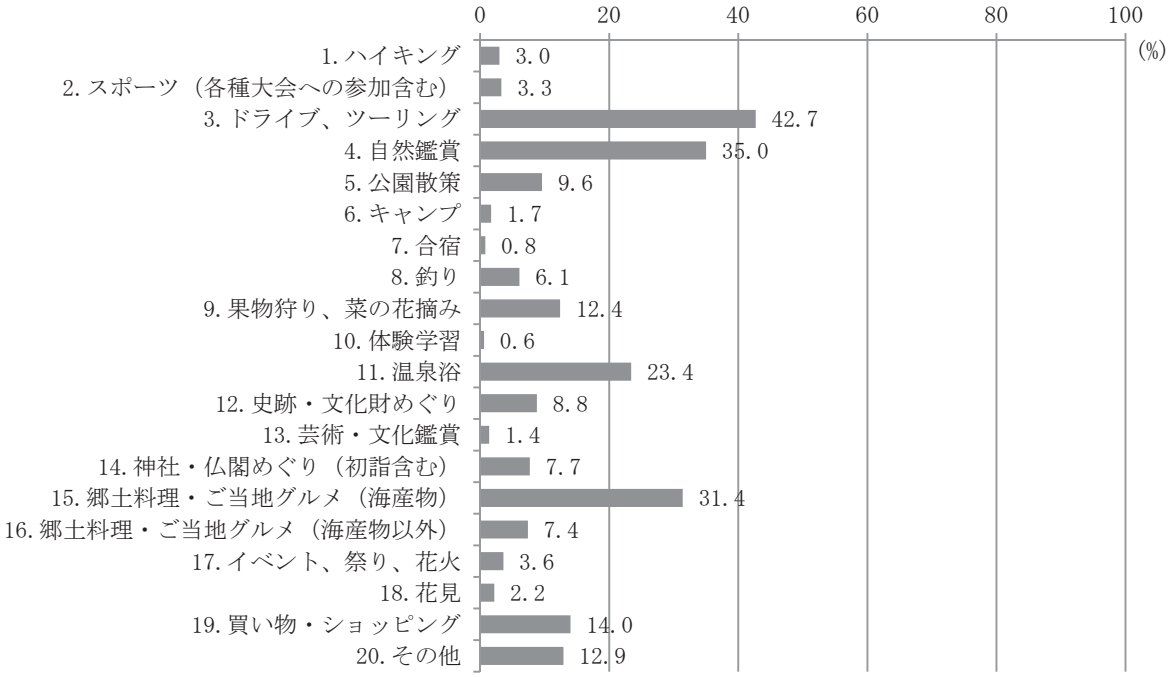
	回答数	%
1.館山市内	52	28.1
2.南房総市内	59	31.9
3.鴨川市内	51	27.6
4.その他	21	11.4
5.わからない	2	1.1
合計値(N 値)	185	100.0

⑥ 往訪の目的

問 5-1　一番最近に南房総地区に観光に訪れた際の目的をお知らせください。（いくつでも）

南房総を訪れた目的は、「ドライブ・ツーリング」が 42.7%で最も多く、「自然観賞」が 35.0%、「郷土料理・ご当地グルメ（海産物）」が 31.4%、「温泉浴」が 23.4%と続く。

図表 3-11　往訪の目的（MA）



	回答数	%
1. ハイキング	11	3.0
2. スポーツ（各種大会への参加含む）	12	3.3
3. ドライブ、ツーリング	155	42.7
4. 自然鑑賞	127	35.0
5. 公園散策	35	9.6
6. キャンプ	6	1.7
7. 合宿	3	0.8
8. 釣り	22	6.1
9. 果物狩り、菜の花摘み	45	12.4
10. 体験学習	2	0.6
11. 温泉浴	85	23.4
12. 史跡・文化財めぐり	32	8.8
13. 芸術・文化鑑賞	5	1.4
14. 神社・仏閣めぐり（初詣含む）	28	7.7
15. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物）	114	31.4
16. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物以外）	27	7.4
17. イベント、祭り、花火	13	3.6
18. 花見	8	2.2
19. 買い物・ショッピング	51	14.0
20. その他	47	12.9
回答者数（N 値）	363	100.0

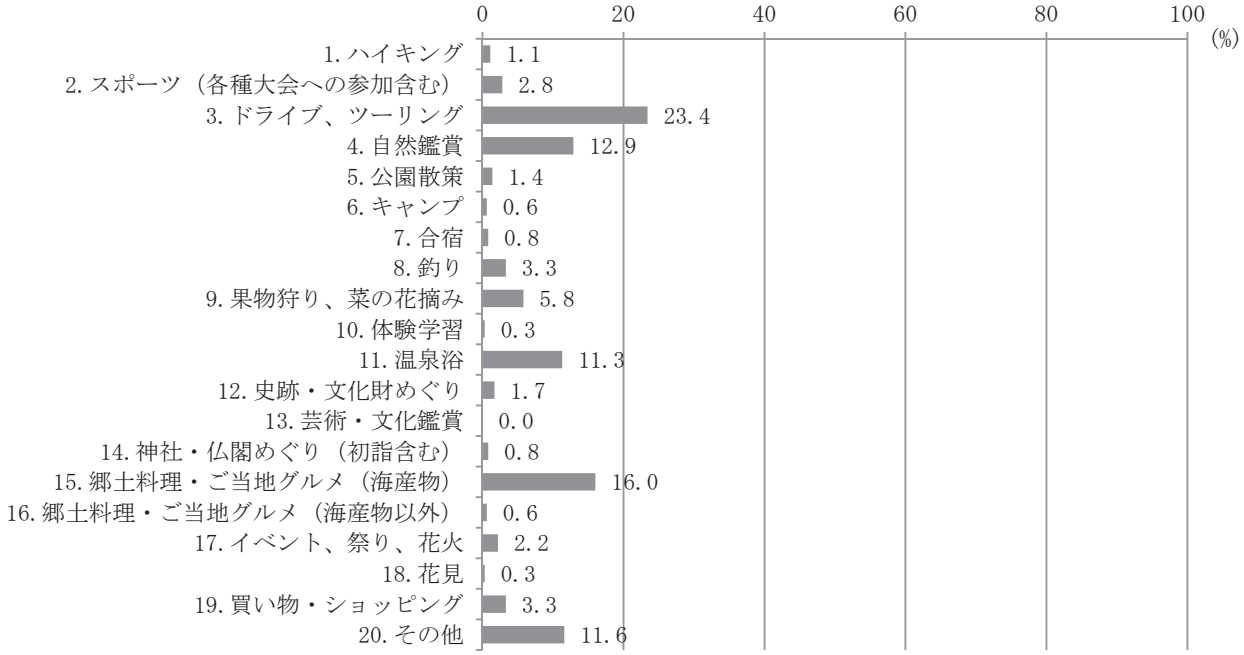
⑦ 往訪の一番の目的

問 5-2　一番最近に南房総地区に観光に訪れた際の一番の目的をお知らせください。

（問 5-1 で回答した選択肢からひとつだけ）

南房総を訪れた一番の目的では、「ドライブ・ツーリング」が 23.4%で最も多く、「郷土料理・ご当地グルメ（海産物）」が 16.0%、「自然観賞」が 12.9%、「温泉浴」が 11.3%と続く。

図表 3-12　往訪の一番の目的（SA）



	回答数	%
1. ハイキング	4	1.1
2. スポーツ（各種大会への参加含む）	10	2.8
3. ドライブ、ツーリング	85	23.4
4. 自然鑑賞	47	12.9
5. 公園散策	5	1.4
6. キャンプ	2	0.6
7. 合宿	3	0.8
8. 釣り	12	3.3
9. 果物狩り、菜の花摘み	21	5.8
10. 体験学習	1	0.3
11. 温泉浴	41	11.3
12. 史跡・文化財めぐり	6	1.7
13. 芸術・文化鑑賞	0	0.0
14. 神社・仏閣めぐり（初詣含む）	3	0.8
15. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物）	58	16.0
16. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物以外）	2	0.6
17. イベント、祭り、花火	8	2.2
18. 花見	1	0.3
19. 買い物・ショッピング	12	3.3
20. その他	42	11.6
合計値(N 値)	363	100.0

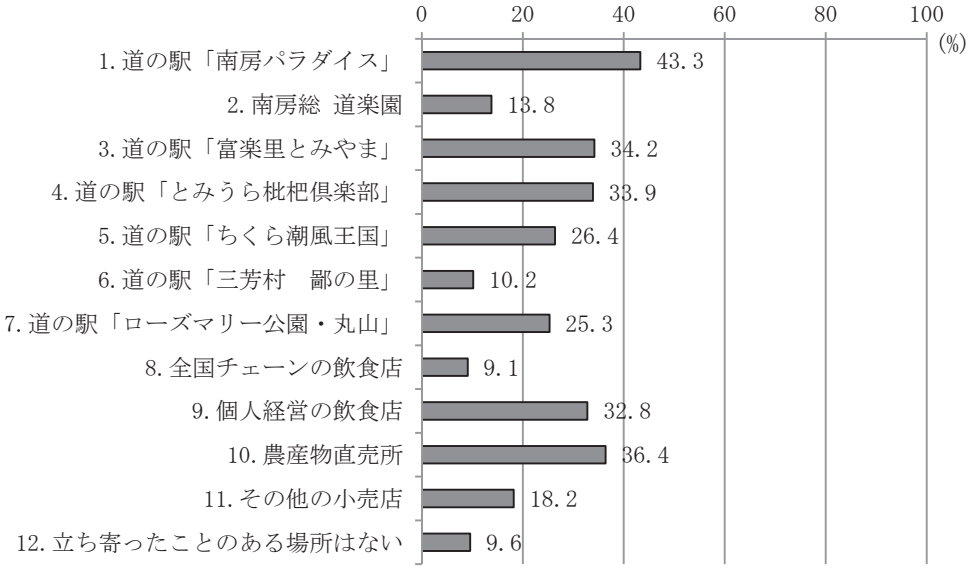
⑧ 立ち寄った施設

問 6-1　あなたが南房総地区観光の際に立ち寄ったことのある、飲食店・土産物屋・農産物直売所をお知らせください。（いくつでも）

南房総を訪れた際に立ち寄った直売所・道の駅等の施設では、「南房パラダイス」が 43.3%と最も割合が高く、次いで「農産物直売所」が 36.4%、その後に「富楽里とみやま」が 34.2%、「とみうら枇杷倶楽部」が 33.9%と続いている。

南房総には多くの道の駅があるが、館山市の南房パラダイスにも観光客の足は向いていることが分かった。また、回答者数(N 値)が 363 であることを考慮すると、１回の往訪で複数の道の駅に立ち寄る観光客も多いことが推測される。

図表 3-13　立ち寄った施設（MA）



	回答数	%
1. 道の駅「南房パラダイス」	157	43.3
2. 南房総 道楽園	50	13.8
3. 道の駅「富楽里とみやま」	124	34.2
4. 道の駅「とみうら枇杷倶楽部」	123	33.9
5. 道の駅「ちくら潮風王国」	96	26.4
6. 道の駅「三芳村　鄙の里」	37	10.2
7. 道の駅「ローズマリー公園・丸山」	92	25.3
8. 全国チェーンの飲食店	33	9.1
9. 個人経営の飲食店	119	32.8
10. 農産物直売所	132	36.4
11. その他の小売店	66	18.2
12. 立ち寄ったことのある場所はない	35	9.6
回答者数（N 値）	363	100.0

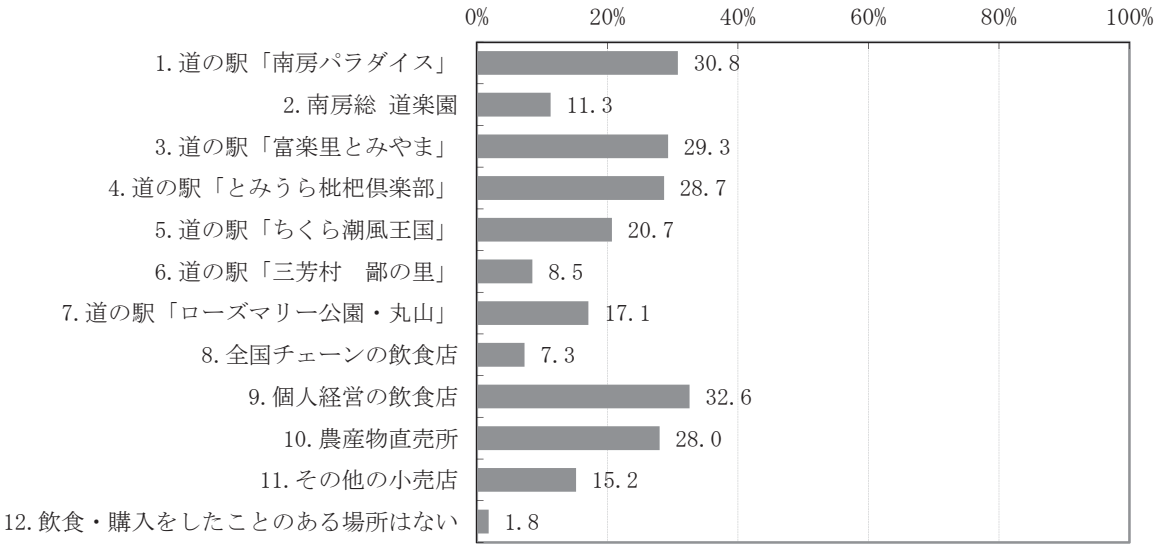
⑨ 実際に飲食した施設

> 問 6-2　立ち寄った飲食店・土産物屋・農産物直売所の中で、あなたが実際に飲食・購入をしたことのある場所をお知らせください。
>
> （問 6-1 で回答した 12. 以外の選択肢からいくつでも）

実際に飲食した店を見ると、「個人経営の飲食店」が 32.6%と最も多く、「南房パラダイス」が 30.8%、「富楽里とみやま」が 29.3%、「とみうら枇杷倶楽部」が 28.7%、「農産物直売所」が 28.0%と続く。

問 6-1 の回答と見比べると、観光客が立ち寄る頻度が高くても、「農産物直売所」や「南房パラダイス」など、実際に飲食をする割合がやや低い場所もあることが分かる。

図表 3-14　実際に飲食をした施設（MA）



	回答数	%
1. 道の駅「南房パラダイス」	101	30.8
2. 南房総 道楽園	37	11.3
3. 道の駅「富楽里とみやま」	96	29.3
4. 道の駅「とみうら枇杷倶楽部」	94	28.7
5. 道の駅「ちくら潮風王国」	68	20.7
6. 道の駅「三芳村　鄙の里」	28	8.5
7. 道の駅「ローズマリー公園・丸山」	56	17.1
8. 全国チェーンの飲食店	24	7.3
9. 個人経営の飲食店	107	32.6
10. 農産物直売所	92	28.0
11. その他の小売店	50	15.2
12. 飲食・購入をしたことのある場所はない	6	1.8
回答者数（N 値）	328	100.0

⑩ 実際に飲食した施設の満足度

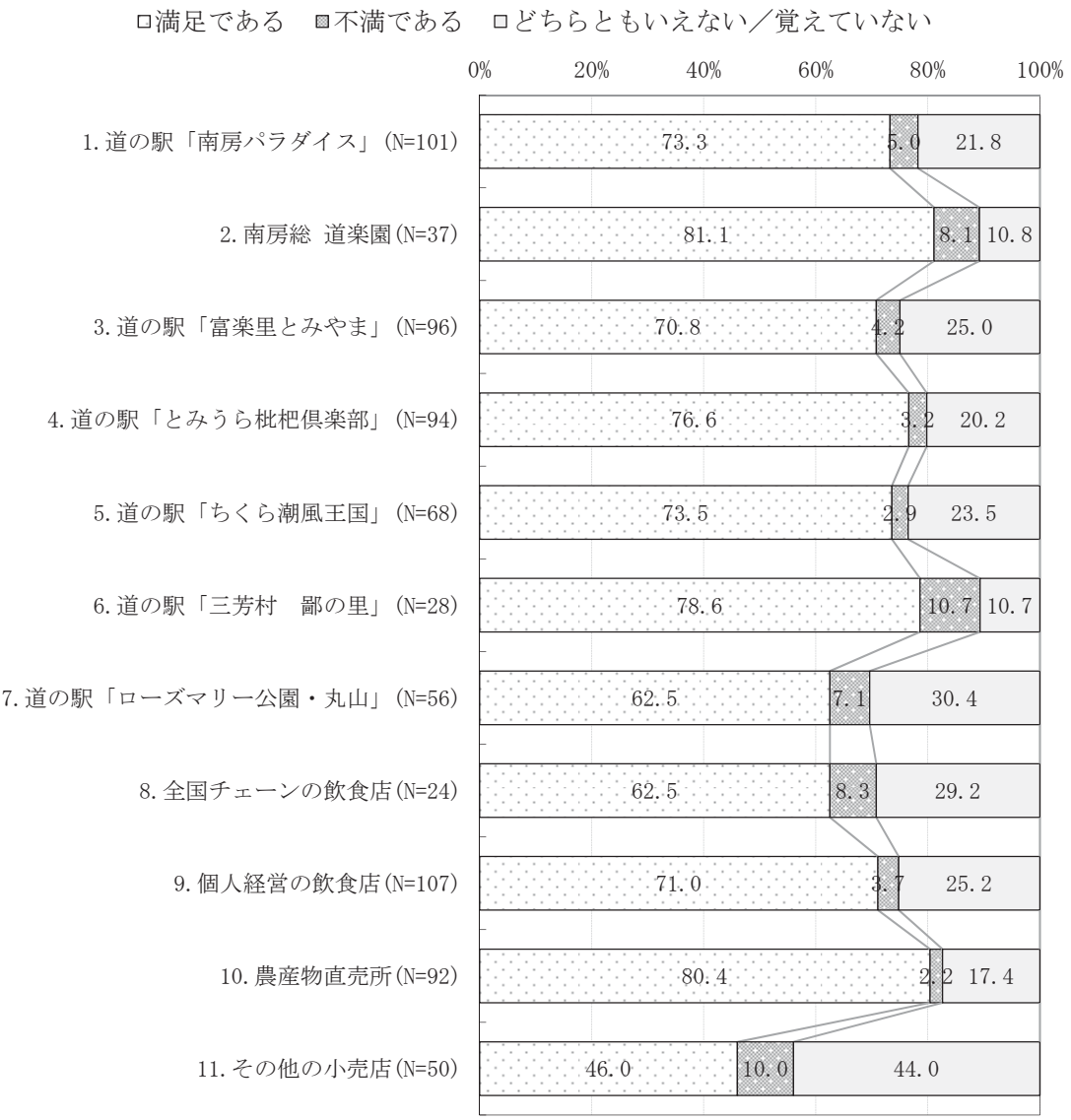
問 6-3　あなたが実際に飲食・購入をしたことのある場所についてあてはまるものをお知らせください。

（問 6-2 で回答した 12. 以外の選択肢のそれぞれにつきひとつだけ）

実際に飲食した場所の評価については、不満に感じた人はかなり少なく、どの施設でも一割程度からそれ未満に留まることが分かった。

満足した人の割合が特に高い「南房総 道楽園」（81.1%）と「農産物直売所」（80.4%）については、それぞれ不満に思った人は 8.1%、2.2%となっている。

図表 3-15　飲食した場所への満足度（SA）



図表 3-15　飲食した場所への満足度（SA）　-続き-

Ｎ表

	合計値（N 値）	満足である	不満である	どちらともいえない／覚えていない
1. 道の駅「南房パラダイス」	101	74	5	22
2. 南房総 道楽園	37	30	3	4
3. 道の駅「富楽里とみやま」	96	68	4	24
4. 道の駅「とみうら枇杷倶楽部」	94	72	3	19
5. 道の駅「ちくら潮風王国」	68	50	2	16
6. 道の駅「三芳村　鄙の里」	28	22	3	3
7. 道の駅「ローズマリー公園・丸山」	56	35	4	17
8. 全国チェーンの飲食店	24	15	2	7
9. 個人経営の飲食店	107	76	4	27
10. 農産物直売所	92	74	2	16
11. その他の小売店	50	23	5	22

%表

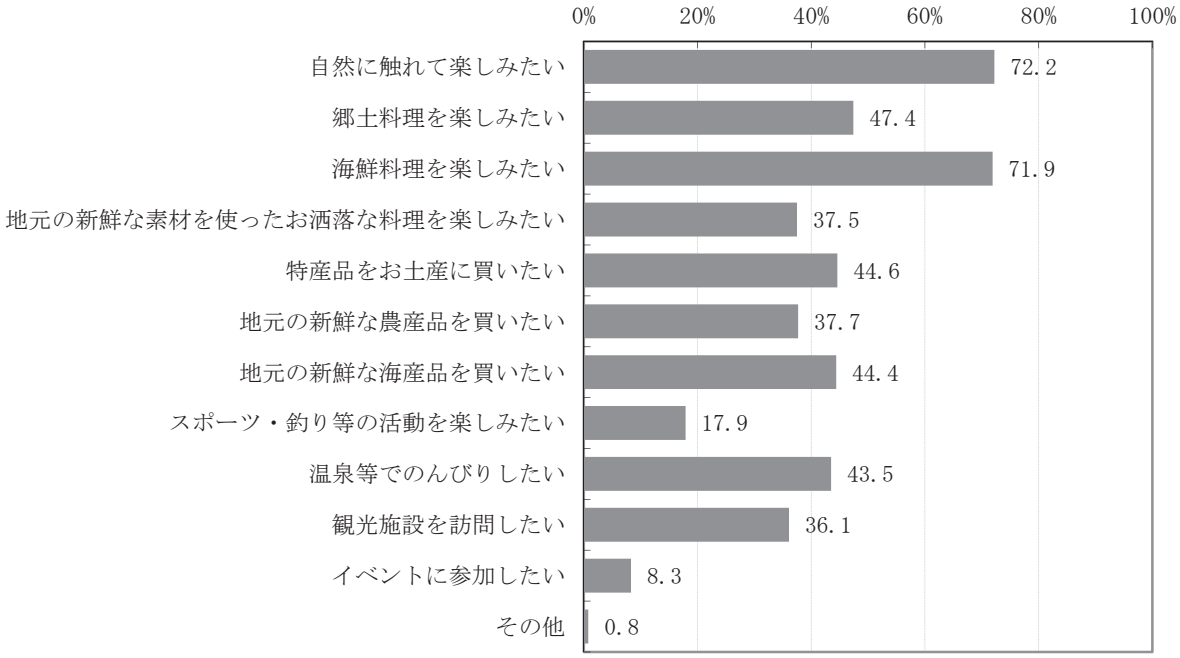
	合計値（N 値）	満足である	不満である	どちらともいえない／覚えていない
1. 道の駅「南房パラダイス」	101	73.3	5.0	21.8
2. 南房総 道楽園	37	81.1	8.1	10.8
3. 道の駅「富楽里とみやま」	96	70.8	4.2	25.0
4. 道の駅「とみうら枇杷倶楽部」	94	76.6	3.2	20.2
5. 道の駅「ちくら潮風王国」	68	73.5	2.9	23.5
6. 道の駅「三芳村　鄙の里」	28	78.6	10.7	10.7
7. 道の駅「ローズマリー公園・丸山」	56	62.5	7.1	30.4
8. 全国チェーンの飲食店	24	62.5	8.3	29.2
9. 個人経営の飲食店	107	71.0	3.7	25.2
10. 農産物直売所	92	80.4	2.2	17.4
11. その他の小売店	50	46.0	10.0	44.0

⑪ 南房総地区への旅行で楽しみたいこと

> 問 7-1　あなたが、南房総地区の観光・旅行で楽しみたいと思うことをお知らせください。
>
> （それぞれいくつでも）

南房総地区へ観光する際に楽しみたいとするものでは、「自然に触れて楽しみたい」（72.2%）、「海鮮料理を楽しみたい」（71.9%）と回答した割合が他と比べて高く、南房総地区の豊かな自然や海産物に対して期待を持っていることが分かる。

図表 3-16　南房総地区への旅行で楽しみたいこと（MA）



	回答数	%
自然に触れて楽しみたい	262	72.2
郷土料理を楽しみたい	172	47.4
海鮮料理を楽しみたい	261	71.9
地元の新鮮な素材を使ったお洒落な料理を楽しみたい	136	37.5
特産品をお土産に買いたい	162	44.6
地元の新鮮な農産品を買いたい	137	37.7
地元の新鮮な海産品を買いたい	161	44.4
スポーツ・釣り等の活動を楽しみたい	65	17.9
温泉等でのんびりしたい	158	43.5
観光施設を訪問したい	131	36.1
イベントに参加したい	30	8.3
その他	3	0.8
回答者数（N 値）	363	100.0

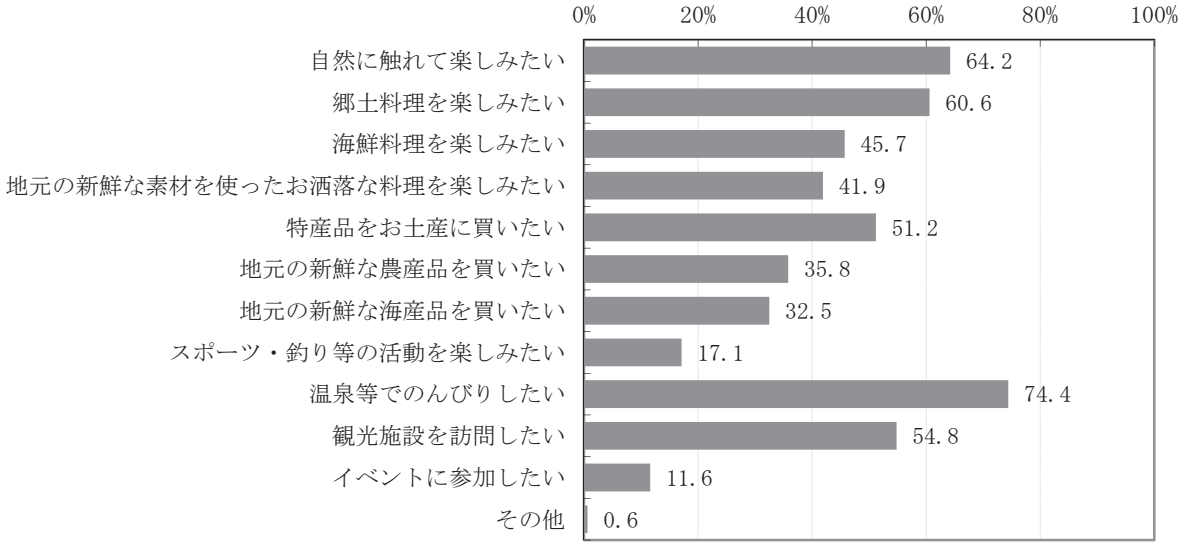
(2) その他の国内観光・旅行で楽しみたいこと

問 7-2　あなたが、その他の国内観光・旅行で楽しみたいと思うことをお知らせください。

（それぞれいくつでも）

一方で国内のその他の地域への旅行で楽しみたいものは「温泉等でのんびりしたい」(74.4%)、「自然に触れて楽しみたい」(64.2%)、「郷土料理を楽しみたい」(60.6%) の順で挙げられている。また、「観光施設を訪問したいと答えた」人は 54.8%であるが、問 7-1 と比較すると、南房総地区へ観光する際の回答では 36.1%となっていることから、南房総地区の観光施設に対する関心は他地域よりも少ない傾向にある。また、南房総地域については、温泉や観光施設に期待して訪れる人が少ないこと、郷土料理よりも海鮮料理が期待されていることがうかがえる。

図表 3-17　その他の国内観光・旅行で楽しみたいこと (MA)



	回答数	%
自然に触れて楽しみたい	233	64.2
郷土料理を楽しみたい	220	60.6
海鮮料理を楽しみたい	166	45.7
地元の新鮮な素材を使ったお洒落な料理を楽しみたい	152	41.9
特産品をお土産に買いたい	186	51.2
地元の新鮮な農産品を買いたい	130	35.8
地元の新鮮な海産品を買いたい	118	32.5
スポーツ・釣り等の活動を楽しみたい	62	17.1
温泉等でのんびりしたい	270	74.4
観光施設を訪問したい	199	54.8
イベントに参加したい	42	11.6
その他	2	0.6
回答者数（N 値）	363	100.0

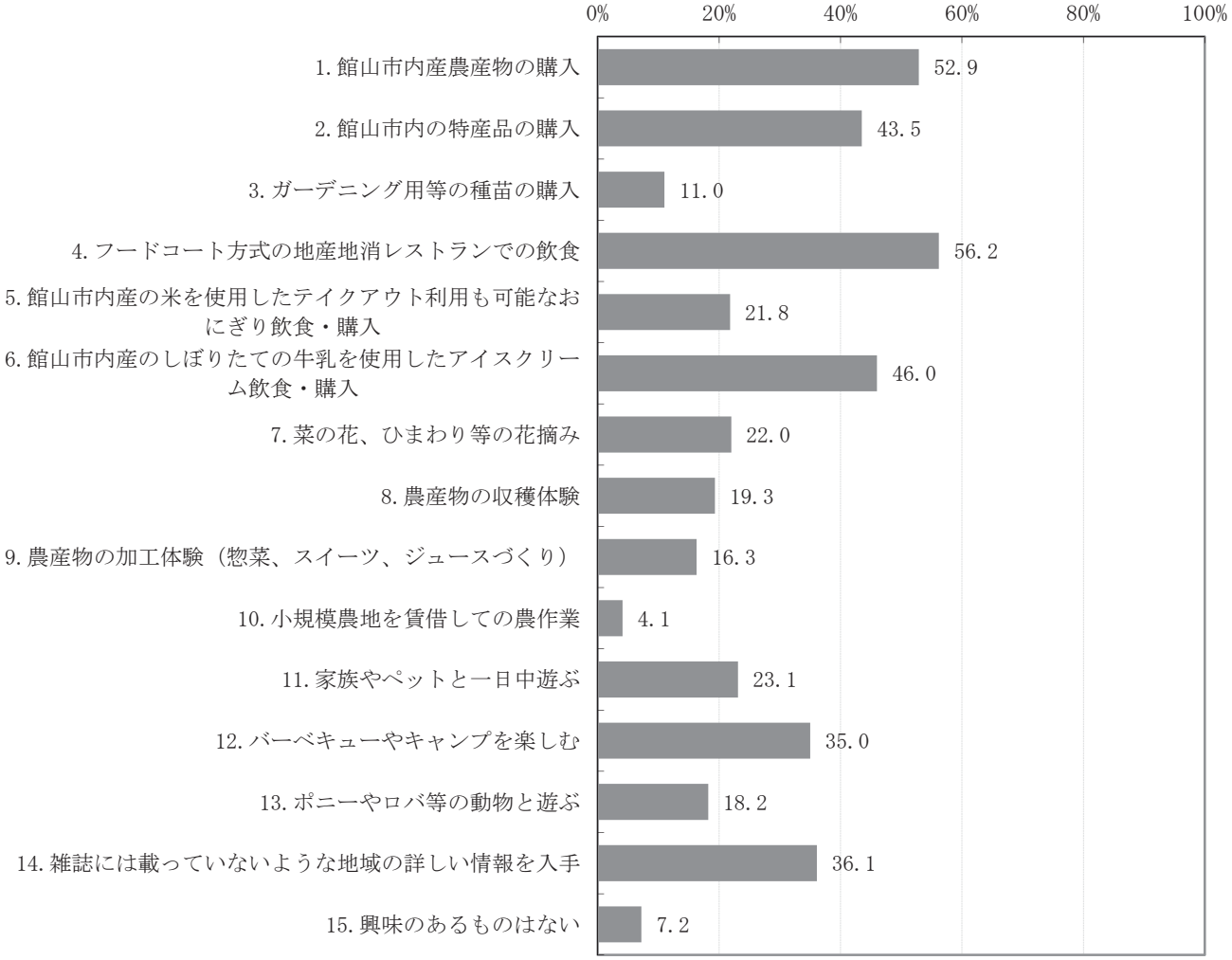
(3) 館山市に新たに整備するもので、興味のある施設

① 興味のある施設

問 8-1　あなたは、以下のどのような施設に興味がありますか。(いくつでも)

興味がある施設（機能）として「フードコート方式の地産地消レストランでの飲食」が 56.2%と最も割合が高く、次いで「館山市内産農産物の購入」(52.9%)、「館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入」(46.0%)、と続く。

図表 3-18　興味のある施設・機能（MA）



図表 3-18　興味のある施設・機能（MA）　-続き-

	回答数	%
1.館山市内産農産物の購入	192	52.9
2.館山市内の特産品の購入	158	43.5
3.ガーデニング用等の種苗の購入	40	11.0
4.フードコート方式の地産地消レストランでの飲食	204	56.2
5.館山市内産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり飲食・購入	79	21.8
6.館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入	167	46.0
7.菜の花、ひまわり等の花摘み	80	22.0
8.農産物の収穫体験	70	19.3
9.農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）	59	16.3
10.小規模農地を賃借しての農作業	15	4.1
11.家族やペットと一日中遊ぶ	84	23.1
12.バーベキューやキャンプを楽しむ	127	35.0
13.ポニーやロバ等の動物と遊ぶ	66	18.2
14.雑誌には載っていないような地域の詳しい情報を入手	131	36.1
15.興味のあるものはない	26	7.2
回答者数（N 値）	363	100.0

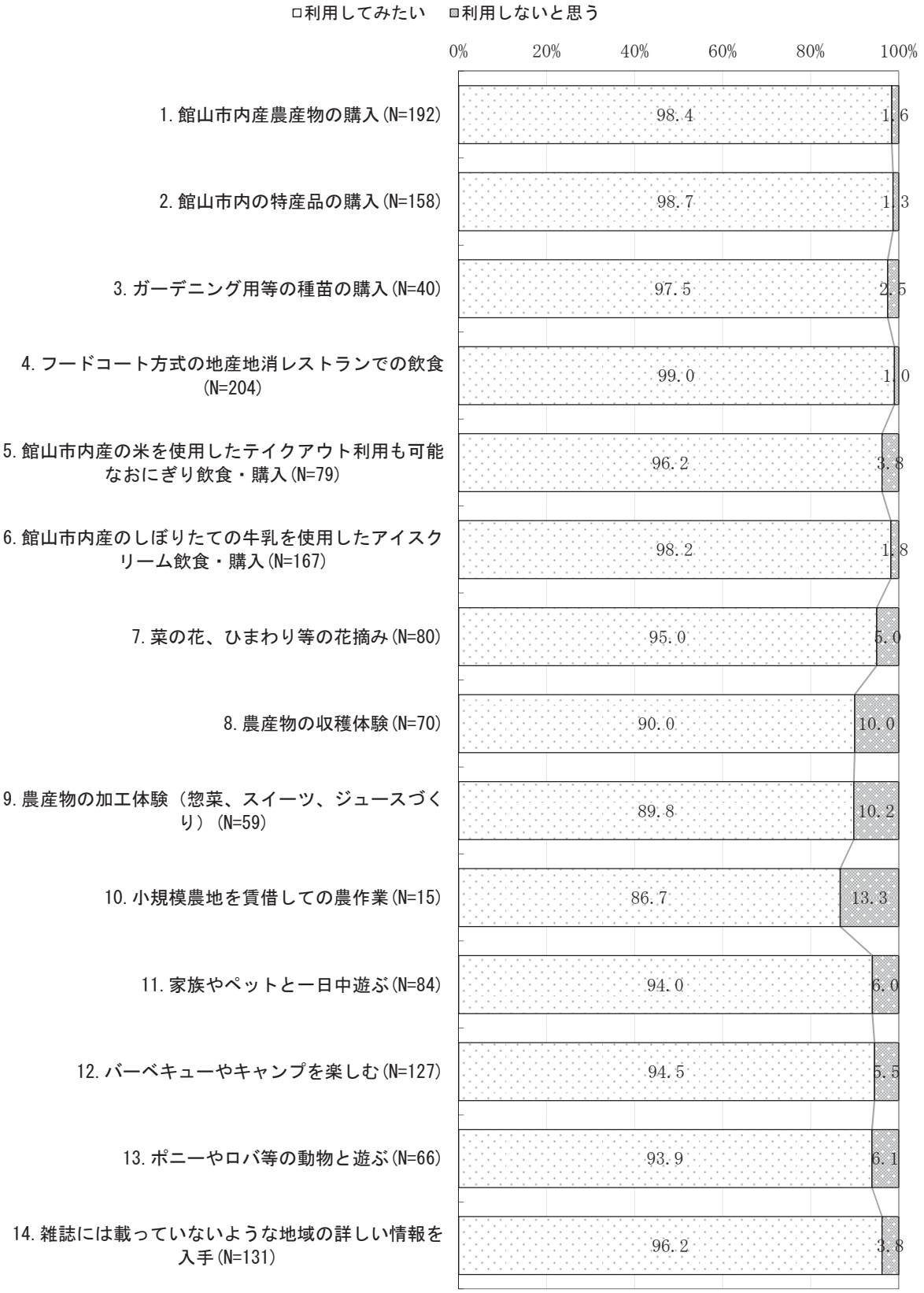
② 興味のある施設を利用したいか

問 8-2　問 8-1 でお答えいただいた施設を、実際に利用したいと思いますか。（いくつでも）

興味があると回答した施設（機能）を実際に利用してみたいと思うかどうかについては、どれも 85%以上の人が利用してみたいと回答している。全ての選択肢で高い比率で興味のある施設を利用したいという意向が伺え、観光客は、興味を持つものについては積極的な姿勢が見られる。

一方、「利用しないと思う」と答えた割合が高かったのは、「小規模農地を賃借しての農作業」が 13.3%、「農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）」が 10.2%、「農産物の収穫体験」が 10.0%と、比較的時間のかかるものが挙がっている。

図表 3-19　興味のある施設・機能を利用したいか（MA）



図表 3-19　興味のある施設・機能を利用したいか（MA）　-続き-

N表

	回答数(N 値)	利用してみたい	利用しないと思う
1. 館山市内産農産物の購入(N=192)	192	189	3
2. 館山市内の特産品の購入(N=158)	158	156	2
3. ガーデニング用等の種苗の購入(N=40)	40	39	1
4. フードコート方式の地産地消レストランでの飲食(N=204)	204	202	2
5. 館山市内産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり飲食・購入(N=79)	79	76	3
6. 館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入(N=167)	167	164	3
7. 菜の花、ひまわり等の花摘み(N=80)	80	76	4
8. 農産物の収穫体験(N=70)	70	63	7
9. 農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）(N=59)	59	53	6
10. 小規模農地を賃借しての農作業(N=15)	15	13	2
11. 家族やペットと一日中遊ぶ(N=84)	84	79	5
12. バーベキューやキャンプを楽しむ(N=127)	127	120	7
13. ポニーやロバ等の動物と遊ぶ(N=66)	66	62	4
14. 雑誌には載っていないような地域の詳しい情報を入手(N=131)	131	126	5

図表 3-19　興味のある施設・機能を利用したいか（MA）　-続き-

%表

	回答数(N 値)	利用してみたい	利用しないと思う
1.館山市内産農産物の購入(N=192)	192	98.4	1.6
2.館山市内の特産品の購入(N=158)	158	98.7	1.3
3.ガーデニング用等の種苗の購入(N=40)	40	97.5	2.5
4.フードコート方式の地産地消レストランでの飲食(N=204)	204	99.0	1.0
5.館山市内産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり飲食・購入(N=79)	79	96.2	3.8
6.館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入(N=167)	167	98.2	1.8
7.菜の花、ひまわり等の花摘み(N=80)	80	95.0	5.0
8.農産物の収穫体験(N=70)	70	90.0	10.0
9.農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）(N=59)	59	89.8	10.2
10.小規模農地を賃借しての農作業(N=15)	15	86.7	13.3
11.家族やペットと一日中遊ぶ(N=84)	84	94.0	6.0
12.バーベキューやキャンプを楽しむ(N=127)	127	94.5	5.5
13.ポニーやロバ等の動物と遊ぶ(N=66)	66	93.9	6.1
14.雑誌には載っていないような地域の詳しい情報を入手(N=131)	131	96.2	3.8

3　市民アンケート調査結果

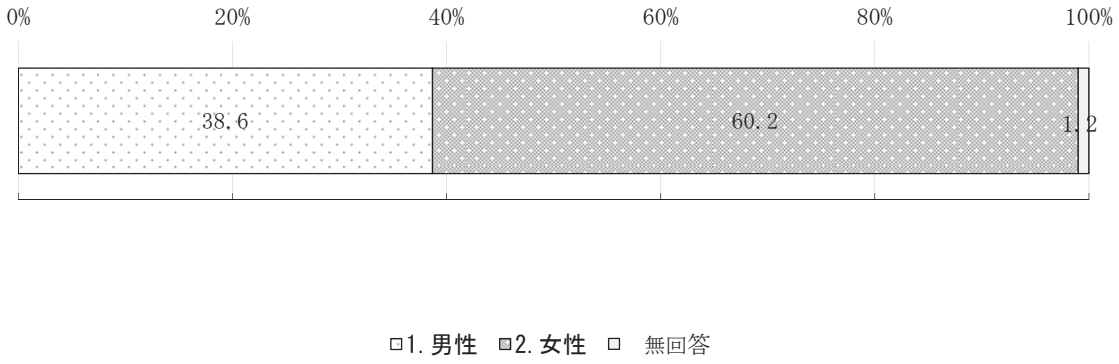
(1) 回答者の属性

① 性別

回答者は「男性」が 38.6%、「女性」が 60.2%であった。

女性の意向を反映している度合がやや強い。

図表 3-20　回答者の性別（SA）



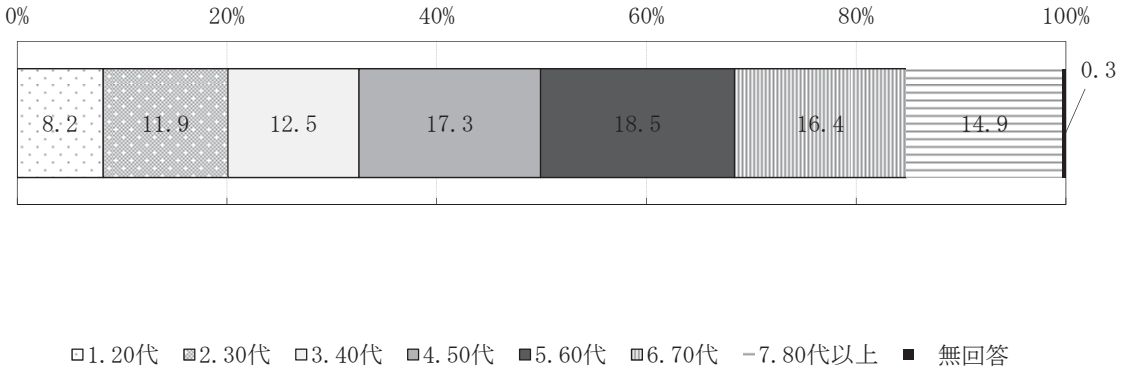
	回答数	%
1.男性	127	38.6
2.女性	198	60.2
無回答	4	1.2
合計値（N 値）	329	100.0

② 年代別

年代は「60 代」が 18.5%と最も多く、次いで「50 代」が 17.3%、「70 代」が 16.4%、「80 代以上」が 14.9%と続く。回答数が少ないのは「20 代」で、8.2%となっている。

回答者の年齢層はやや高い。

図表 3-21　回答者の年代（SA）



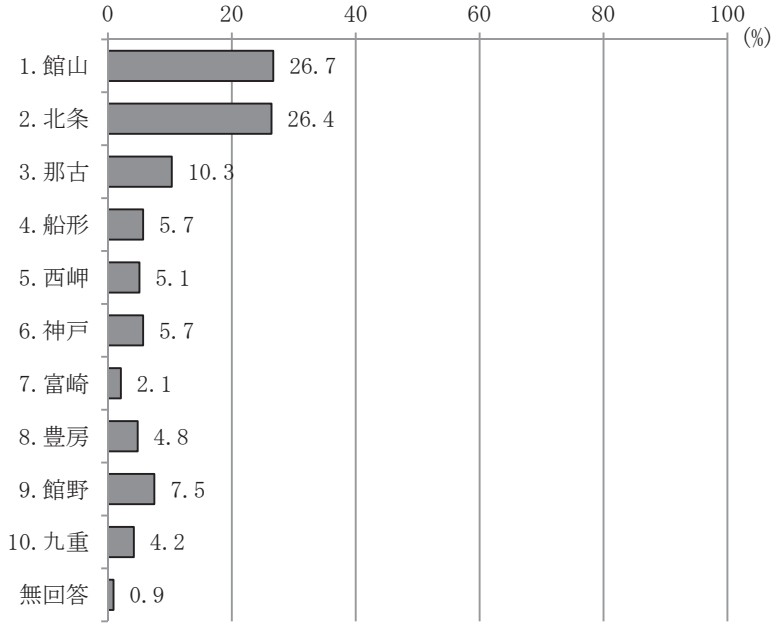
	回答数	%
1.20 代	27	8.2
2.30 代	39	11.9
3.40 代	41	12.5
4.50 代	57	17.3
5.60 代	61	18.5
6.70 代	54	16.4
7.80 代以上	49	14.9
無回答	1	0.3
合計値(N 値)	329	100.0

③ 居住地域別

居住地域を見ると、「館山」地域が 26.7%と最も多く、次いで「北条」が 26.4%、「那古」が 10.3%となっている。

その他の地域では回答数が比較的少なく、「富崎」では回答者の割合は 2.1%で、10 人未満となった。

図表 3-22　回答者の居住地（SA）



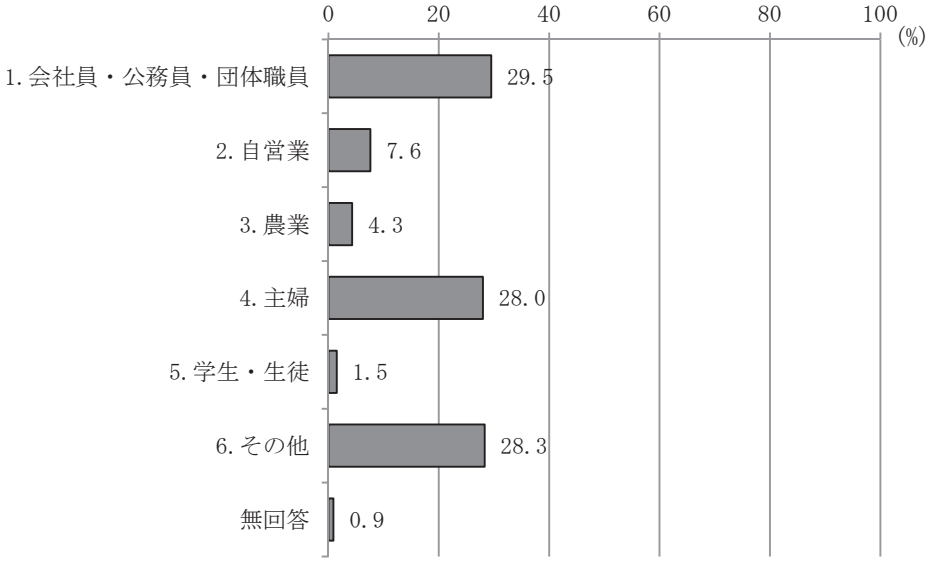
	回答数	%
1. 館山	88	26.7
2. 北条	87	26.4
3. 那古	34	10.3
4. 船形	19	5.7
5. 西岬	17	5.1
6. 神戸	19	5.7
7. 富崎	7	2.1
8. 豊房	16	4.8
9. 館野	25	7.5
10. 九重	14	4.2
無回答	3	0.9
合計値(N 値)	329	100.0

④ 職業

職業を見ると、最も多いのは「会社員・公務員・団体職員」の 29.5%となっており、次いで「その他」が 28.3%、「主婦」が 28.0%となっている。

回答者数が少ないのは、「学生・生徒」の 1.5%や「農業」の 4.3%などであった。

図表 3-23　回答者の職業（SA）

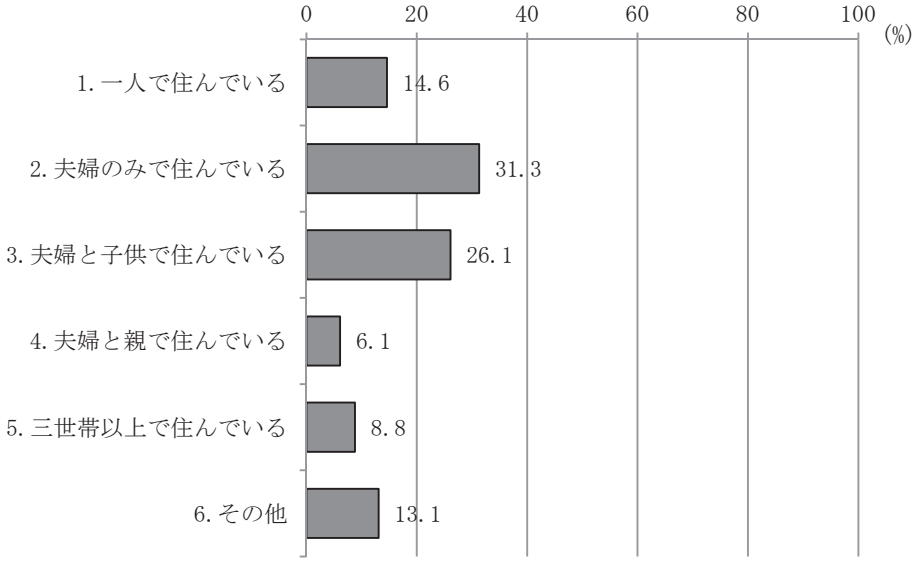


	回答数	%
1.会社員・公務員・団体職員	97	29.5
2.自営業	25	7.6
3.農業	14	4.3
4.主婦	92	28.0
5.学生・生徒	5	1.5
6.その他	93	28.3
無回答	3	0.9
合計値(N 値)	329	100.0

⑤ 世帯構成

世帯構成は、最も多いのは「夫婦のみで住んでいる」の 31.3%で、次いで「夫婦と子供で住んでいる」の 26.1%となっている。

図表 3-24　回答者の世帯構成（SA）



構成	回答数	%
1. 一人で住んでいる	48	14.6
2. 夫婦のみで住んでいる	103	31.3
3. 夫婦と子供で住んでいる	86	26.1
4. 夫婦と親で住んでいる	20	6.1
5. 三世帯以上で住んでいる	29	8.8
6. その他	43	13.1
合計値（N 値）	329	100.0

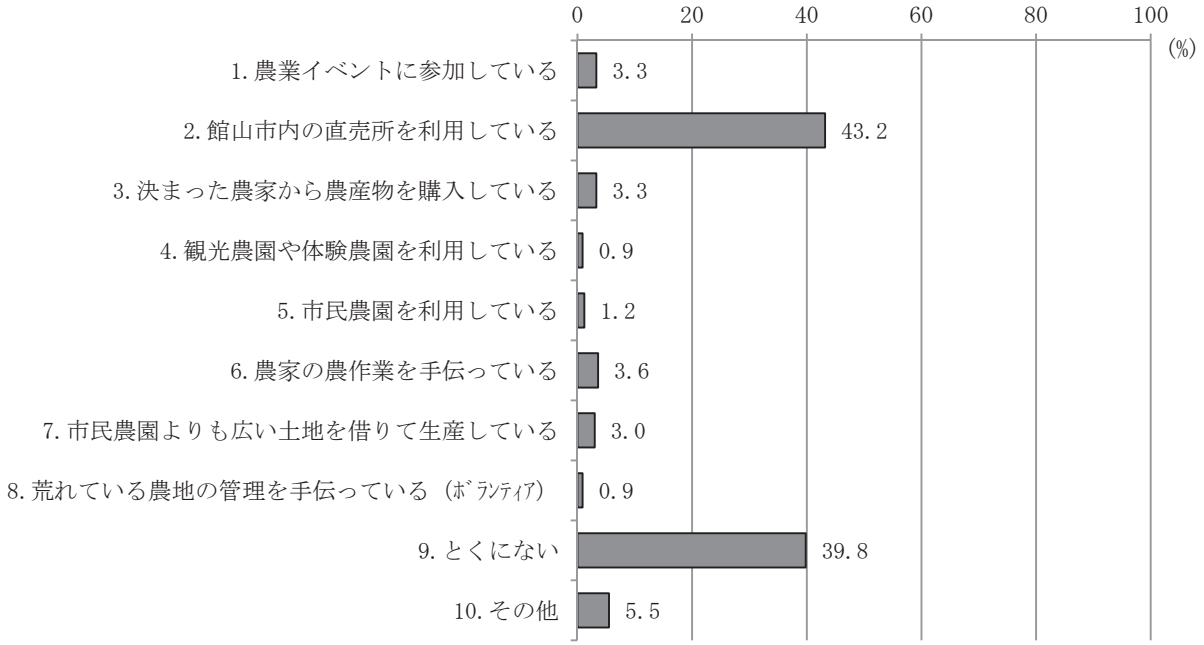
(2) 市民と農業との関わり

問６　あなたの世帯と農業の関わりをお答えください。（いくつでも）

市民と農業の関わりについては、「館山市内の直売所を利用している」が 43.2%と最も多かった。次いで「とくにない」が 39.8%となっており、その他の回答は割合が少ない。

館山市民は、直売所の利用という形での農業との関わりが最も多いといえるが、とくにないという回答も多かったので、今後は積極的に関わりを持つことができるようにしていかなければならない。

図表 3-25　農業との関わり（MA）



	回答数	%
1. 農業イベントに参加している	11	3.3
2. 館山市内の直売所を利用している	142	43.2
3. 決まった農家から農産物を購入している	11	3.3
4. 観光農園や体験農園を利用している	3	0.9
5. 市民農園を利用している	4	1.2
6. 農家の農作業を手伝っている	12	3.6
7. 市民農園よりも広い土地を借りて生産している	10	3.0
8. 荒れている農地の管理を手伝っている(ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ)	3	0.9
9. とくにない	131	39.8
10. その他	18	5.5
回答者数(N 値)	312	100.0

(3) 農産物の購入について

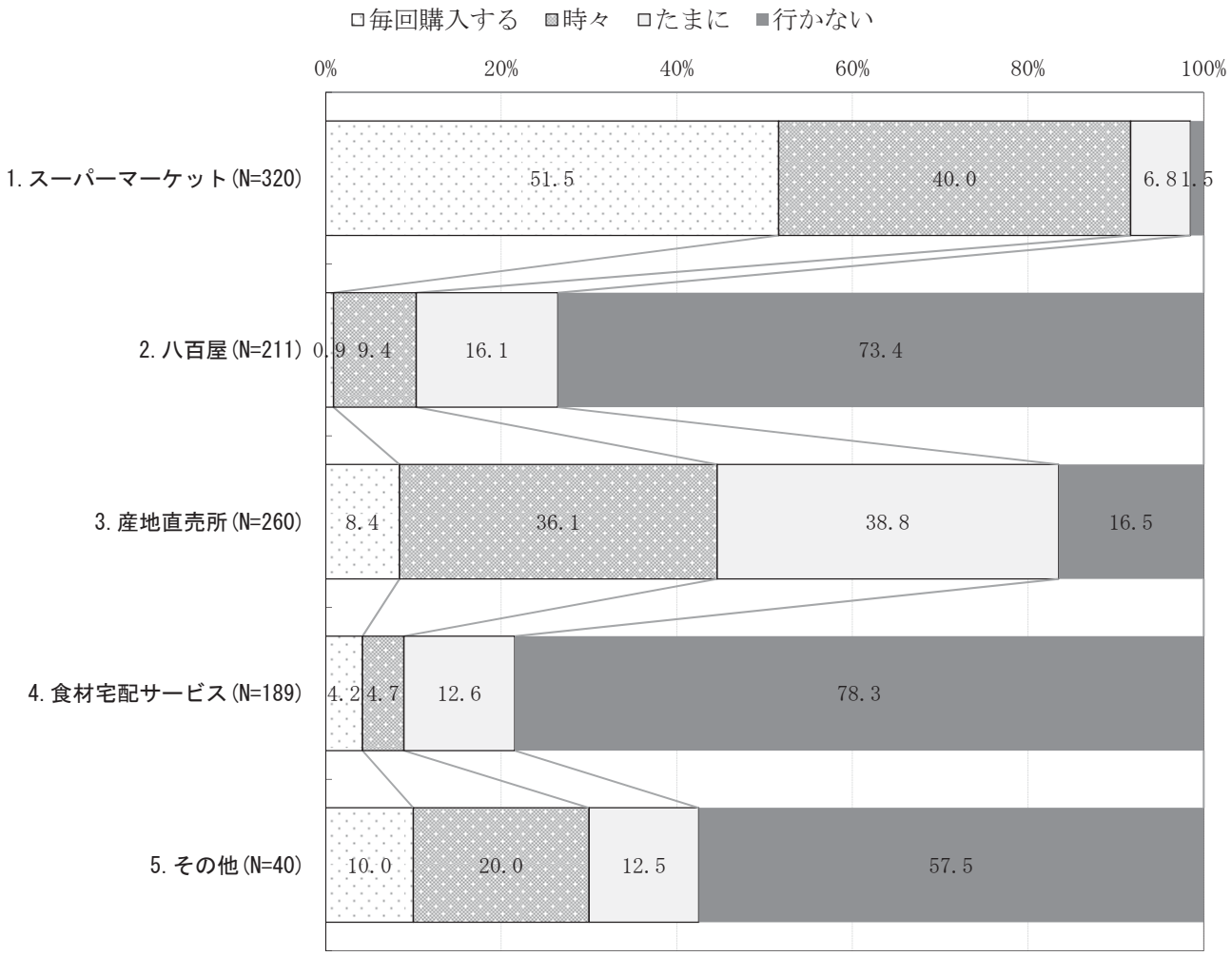
① 購入場所

> 問７　あなたの家では、主に野菜をどこで購入していますか。
>
> 「毎回購入する」～「行かない」まで、それぞれお答えください。

野菜の購入場所では、毎回購入する場所としては 165 人が「スーパーマーケット」と回答した。「産地直売所」は毎回購入するとの回答は少なかったが、時々、あるいはたまにと回答した人がそれぞれ 94 人、101 人と他の場所よりも多くみられた。

「八百屋」と「食材宅配サービス」は利用の頻度が低いことが分かる。

図表 3-26　農産物の購入場所（MA）



図表 3-26　農産物の購入場所（MA）　-続き-

Ｎ表

	回答者数 (N 値)	毎回購入する	時々	たまに	行かない
1. スーパーマーケット	320	165	128	22	5
2. 八百屋	211	2	20	34	155
3. 産地直売所	260	22	94	101	43
4. 食材宅配サービス	189	8	9	24	148
5. その他	40	4	8	5	23

%表

	回答者数 (N 値)	毎回	時々	たまに	行かない
1. スーパーマーケット	320	51.5	40.0	6.8	1.5
2. 八百屋	211	0.9	9.4	16.1	73.4
3. 産地直売所	260	8.4	36.1	38.8	16.5
4. 食材宅配サービス	189	4.2	4.7	12.6	78.3
5. その他	40	10.0	20.0	12.5	57.5

② 購入基準

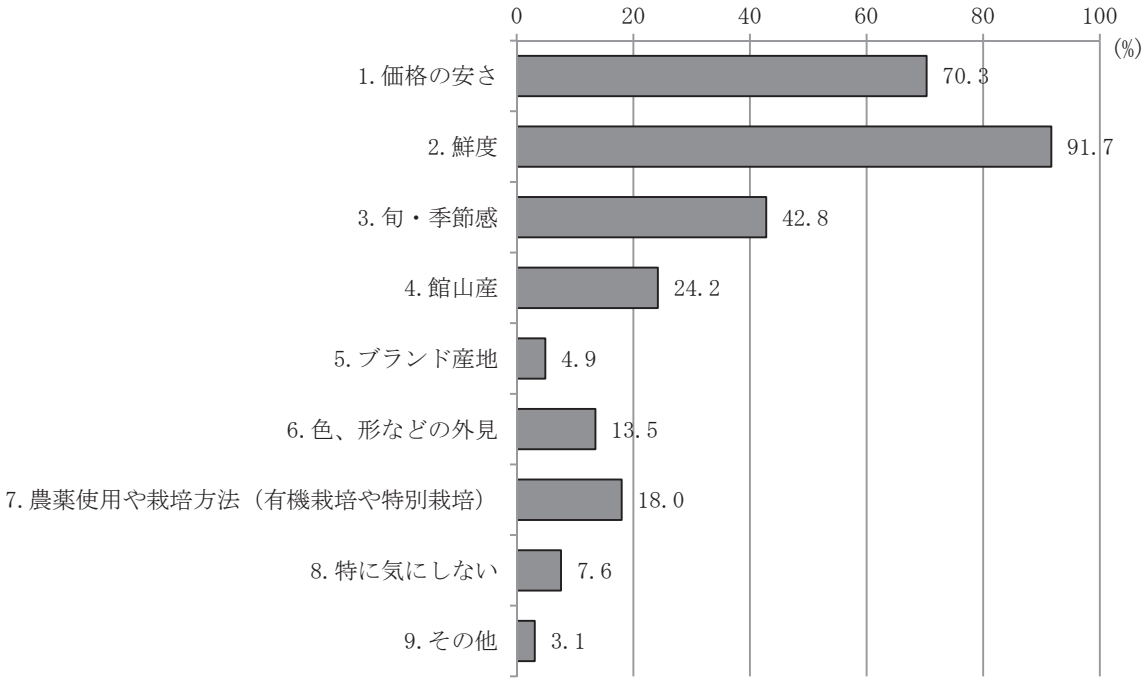
問８　あなたの家が「農産物」を買うときの、判断基準はどれですか。

当てはまるものを３つまでお答えください。

農産物を購入するときの判断基準を見ると、「鮮度」が 91.7%と最も多く、「価格の安さ」が 70.3%、「旬・季節感」が 42.8%と続く。「ブランド産地」や「色、形などの外見」を重視する人はそれほど多くない。

「館山産」については 24.2%と、市民は農産物が館山産かどうかにはそれほどこだわらないことが分かる。

図表 3-27　農産物の購入基準（MA）



	回答数	%
1. 価格の安さ	230	70.3
2. 鮮度	300	91.7
3. 旬・季節感	140	42.8
4. 館山産	79	24.2
5. ブランド産地	16	4.9
6. 色、形などの外見	44	13.5
7. 農薬使用や栽培方法（有機栽培や特別栽培）	59	18.0
8. 特に気にしない	25	7.6
9. その他	10	3.1
回答者数(N 値)	327	100.0

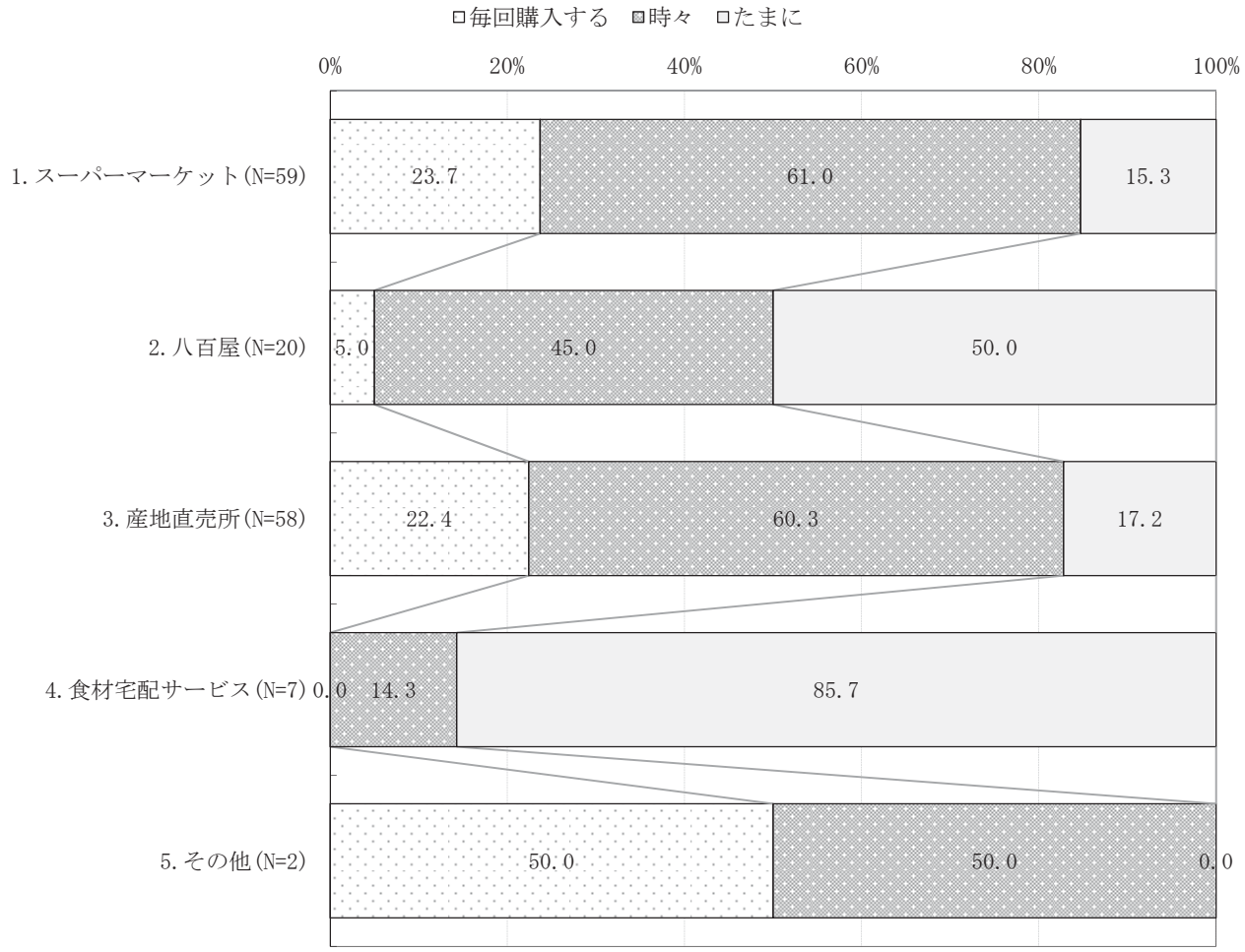
(4) 農産物への考え方

① 館山産農産物について

> 問９　問８で「4.館山産」と回答された方にお伺いします。
>
> あなたの世帯は、どこで館山産の農産物や農産物加工品を購入しましたか。
>
> 「毎回購入する」～「たまに」まで、それぞれ○をつけてください。

「館山産」を農産物購入時の判断基準にすると回答した人の中では、「スーパーマーケット」と「産地直売所」の割合が高い。「館山産」と回答した人は、「産地直売所」を利用する人の割合が問７の結果よりも高くなっている。

図表 3-28　館山産農産物の購入場所（MA）



図表 3-28　館山産農産物の購入場所（MA）-続き-

N表

	回答者数 (N 値)	毎回	時々	たまに
1.スーパーマーケット	59	14	36	9
2.八百屋	20	1	9	10
3.産地直売所	58	13	35	10
4.食材宅配サービス	7	0	1	6
5.その他	2	1	1	0

%表

	回答者数 (N 値)	毎回	時々	たまに
1.スーパーマーケット	59	23.7	61.0	15.3
2.八百屋	20	5.0	45.0	50.0
3.産地直売所	58	22.4	60.3	17.2
4.食材宅配サービス	7	0.0	14.3	85.7
5.その他	2	50.0	50.0	0.0

② 館山産農産物の評価している点

問 10　問 8 で「4. 館山産」と回答された方にお伺いします。

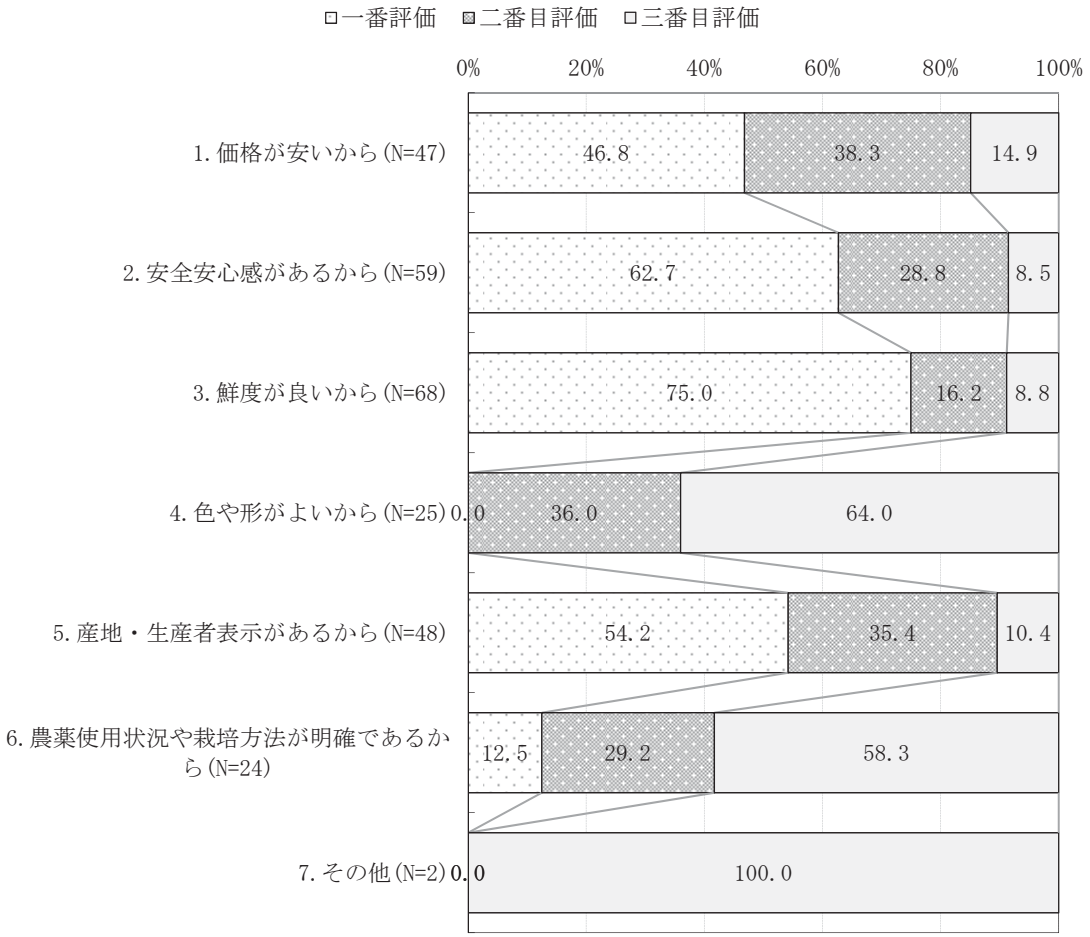
あなたの家が購入している館山産農産物のどのようなところを評価していますか。

当てはまるものすべてをお答えください。

「館山産」を農産物購入時の判断基準にすると回答した人の中では、館山産の農産物については「鮮度がよいから」を一番評価している人が最も多い。「安全安心感があるから」や「価格が安いから」についても高い割合で一番評価していると回答されている。

「色が形がよいから」については一番に評価している人はいなかった。見た目よりも鮮度や安心感、価格を優先に評価されているといえる。

図表 3-29　館山産農産物の評価している点（MA）



図表 3-29　館山産農産物の評価している点（MA）　-続き-

N表

	回答数 (N 値)	一番 評価している	二番目に 評価している	三番目に 評価している
1. 価格が安いから	47	22	18	7
2. 安全安心感があるから	59	37	17	5
3. 鮮度が良いから	68	51	11	6
4. 色や形がよいから	25	0	9	16
5. 産地・生産者表示があるから	48	26	17	5
6. 農薬使用状況や栽培方法が明確であるから	24	3	7	14
7. その他	2	0	0	2

%表

	回答数 (N 値)	一番 評価している	二番目に 評価している	三番目に 評価している
1. 価格が安いから	47	46.8	38.3	14.9
2. 安全安心感があるから	59	62.7	28.8	8.5
3. 鮮度が良いから	68	75.0	16.2	8.8
4. 色や形がよいから	25	0.0	36.0	64.0
5. 産地・生産者表示があるから	48	54.2	35.4	10.4
6. 農薬使用状況や栽培方法が明確であるから	24	12.5	29.2	58.3
7. その他	2	0.0	0.0	100.0

③ 規格外農産物について

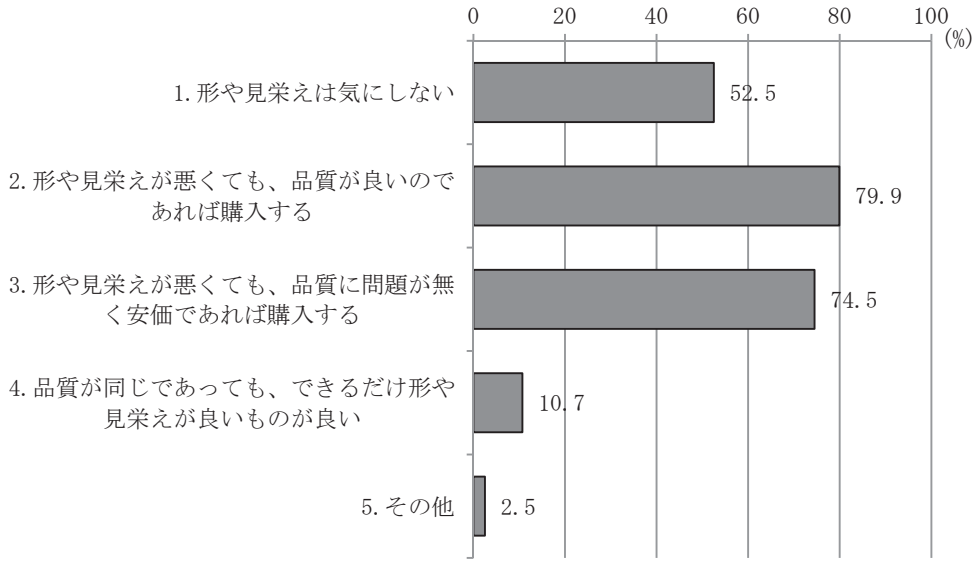
問 11　あなたは規格外の農産物について、どのようなイメージをお持ちですか。

当てはまるものを３つまでお答えください。

規格外農産物について見ると、「形や見栄えが悪くても、品質が良いのであれば購入する」が 79.9%と最も多く、次いで「形や見栄えが悪くても、品質に問題が無く安価であれば購入する」が 74.5%と続いた。

品質が良ければ、見た目にはこだわらない人が多いことが分かる。

図表 3-30　規格外農産物への考え方（MA）



	回答数	%
1.形や見栄えは気にしない	167	52.5
2.形や見栄えが悪くても、品質が良いのであれば購入する	254	79.9
3.形や見栄えが悪くても、品質に問題が無く安価であれば購入する	237	74.5
4.品質が同じであっても、できるだけ形や見栄えが良いものが良い	34	10.7
5.その他	8	2.5
回答者数(N 値)	318	100.0

(5) 用地の附帯機能に関する考え方・意見

① 想定される主な機能について

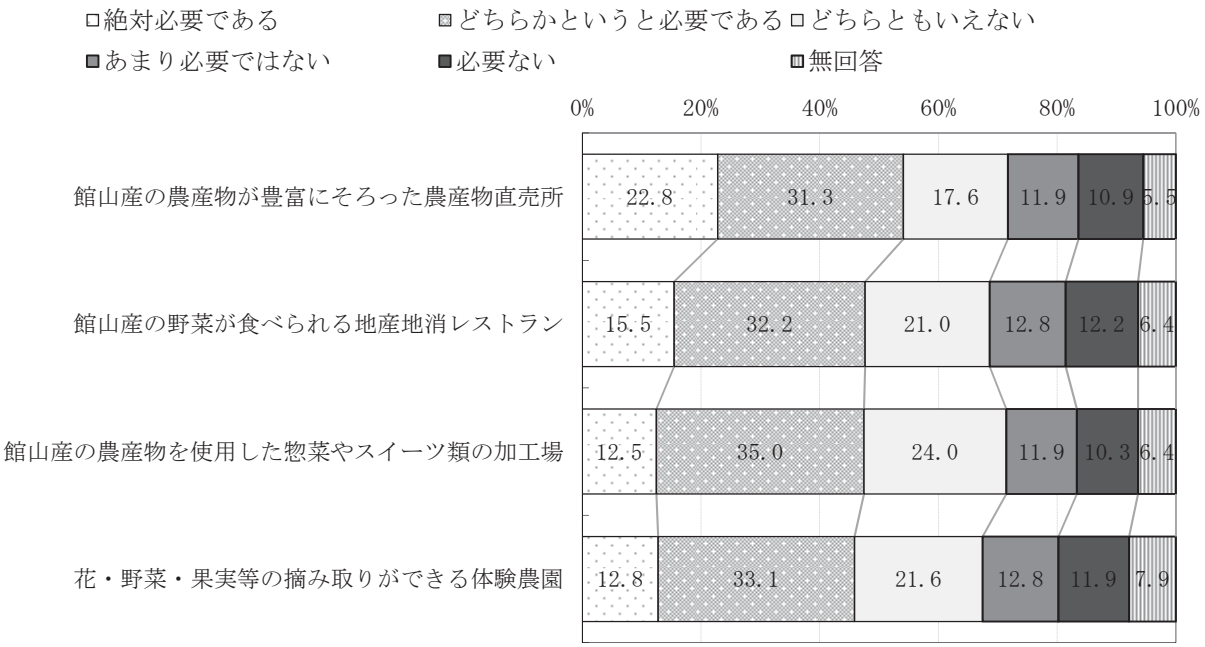
> 問 12　公設卸売市場用地（跡地）についてお伺いします。
>
> この用地で整備する施設で想定される主な機能についてどのようにお考えですか。
>
> それぞれの機能についてもっともよく当てはまるものをお答えください。

公設卸売市場用地についての主な機能の意向については、どの施設も「絶対必要である」又は「どちらかというと必要である」と回答した人の割合が「あまり必要ではない」又は「必要ない」と回答した人の割合よりも多かった。

「どちらともいえない」と回答した人の割合は、それぞれの項目で 17.6%から 24.0%となっているが、全体の回答傾向に大きな違いはない。

「館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所」については、「絶対必要である」と回答した人の割合が他の３つの機能と比べると高い。

図表 3-31　想定される主な機能についての考え（SA）



図表 3-31　想定される主な機能についての考え（SA）　-続き-

・館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所

	市民(N=329)		
1.絶対必要である	75	22.8%	計 54.1%
2.どちらかというと必要である	103	31.3%	
3.どちらともいえない	58	17.6%	---
4.あまり必要ではない	39	11.9%	計 22.8%
5.必要ない	36	10.9%	
無回答	18	5.5%	---

・館山産の野菜が食べられる地産地消レストラン

	市民(N=329)		
1.絶対必要である	51	15.5%	計 47.7%
2.どちらかというと必要である	106	32.2%	
3.どちらともいえない	69	21.0%	---
4.あまり必要ではない	42	12.8%	計 25.0%
5.必要ない	40	12.2%	
無回答	21	6.4%	---

・館山産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場

	市民(N=329)		
1.絶対必要である	41	12.5%	計 47.5%
2.どちらかというと必要である	115	35.0%	
3.どちらともいえない	79	24.0%	---
4.あまり必要ではない	39	11.9%	計 22.2%
5.必要ない	34	10.3%	
無回答	21	6.4%	---

・花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園

	市民(N=329)		
1.絶対必要である	42	12.8%	計 45.9%
2.どちらかというと必要である	109	33.1%	
3.どちらともいえない	71	21.6%	---
4.あまり必要ではない	42	12.8%	計 24.7%
5.必要ない	39	11.9%	
無回答	26	7.9%	---

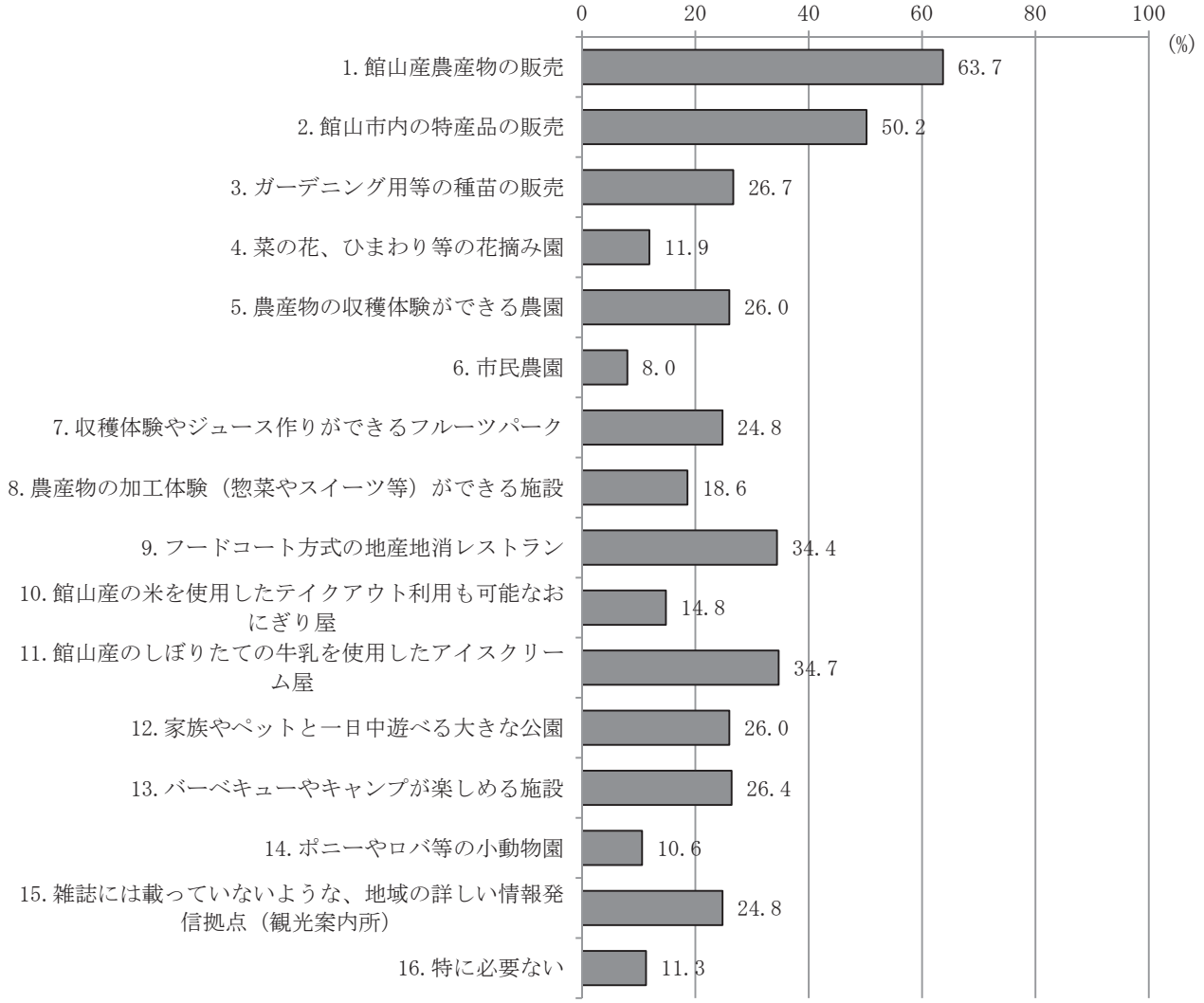
② 附帯機能で必要と思うもの

> 問 13　この用地で整備する施設の付帯機能として必要と思うものについてお聞かせください。
>
> 当てはまるものすべてをお答えください。

拠点で整備する施設の附帯機能の意向について見ると、「館山産農産物の販売」が 63.7%と最も多かった。次いで「館山市内の特産品の販売」が 50.2%、「館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋」が 34.7%、「フードコート方式の地産地消レストラン」が 34.4%、「ガーデニング用等の種苗の販売」が 26.7%、「バーベキューやキャンプが楽しめる施設」が 26.4%と続く。

館山の農産物や特産品を望む意向が多いこと、レストランやアイスクリームやバーベキューなど、食に関するニーズもあることが分かった。

図表 3-32　附帯機能で必要と思うもの（MA）



図表 3-32　附帯機能で必要と思うもの（MA）　-続き-

	回答数	%
1.館山産農産物の販売	198	63.7
2.館山市内の特産品の販売	156	50.2
3.ガーデニング用等の種苗の販売	83	26.7
4.菜の花、ひまわり等の花摘み園	37	11.9
5.農産物の収穫体験ができる農園	81	26.0
6.市民農園	25	8.0
7.収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク	77	24.8
8.農産物の加工体験（惣菜やスイーツ等）ができる施設	58	18.6
9.フードコート方式の地産地消レストラン	107	34.4
10.館山産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり屋	46	14.8
11.館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋	108	34.7
12.家族やペットと一日中遊べる大きな公園	81	26.0
13.バーベキューやキャンプが楽しめる施設	82	26.4
14.ポニーやロバ等の小動物園	33	10.6
15.雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）	77	24.8
16.特に必要ない	35	11.3
回答者数(N 値)	311	100.0

(6) 自由意見

自由意見では、「子ども（若者）向け」や「市民も利用できる施設」の声が比較的多く挙がった。

体験農園や観光地としての利用は支持されている傾向にある。一方、直売所等の既にある施設を作るような考え方はあまり支持されない傾向にあった。

回答者層が高齢になるにつれ、交通の便について懸念する声が多くみられた。

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）

性別	年代	回答
男性	20 代	わくわく広場等の既存の農産物直売所と差別化できなければ、施設を整備する必要はないと思う。土地全体を市営農園として整備し、市内の幼稚園～中学校までが利用する体験農場にして、子供の農業教育に活用できたらいいと思う。農産物直売所の経営を、館山総合高校商業科の生徒が行えば、生徒の学習にもなり話題性もありマスコミに取り上げてもらえるのでは？
男性	20 代	施設を作るのになるべくお金がかからないことが第一条件だと思います。それと地域の活性化及び雇用の確保が出来れば館山の発展にもつながると思います。市民第一で考えて欲しい。
女性	20 代	若者も参加できる場、ボランティア、紹介、展示コーナー、フリマ、表現、ライブ
女性	20 代	問 13 について、せっかく広大な土地を確保したなら、1 度来たらもういいや、と言われるのでなく、また来たいと思えるような施設を作るべき。様々な店舗、コーナーをつくることは、人も金もかかって大変なことだが、近隣地域の雇用の拡大や建設業者等の地域貢献にもつながると思う。
女性	20 代	地産地消で旬の野菜を使ったレシピがあるといいと思います。
女性	20 代	子供がいるので、子供が喜ぶ様な物が良いと思った。農業にふれる機会がない子供達に、スーパーに並んでいる野菜や果物がどの様に育っているのか、収穫する楽しさ、大変さを学習でき、自分で収穫する事によって、野菜嫌いがなくなる事もあるだろうし、収穫体験はすごく良いと思った。公園も、今はどんどん減ってきているので必要だと思う。
男性	30 代	フリーマーケットの常設、他店舗(飲食店)等が併設されると嬉しいです。他店舗(フードコート)も年令層のはばを考えてくれると良いと思います。
男性	30 代	民間の直売所と共存できる施設にすること。・販売よりも加工飲食に力を入れる。・稲村城跡の情報発信・渚の駅との対局←→農の駅 etc
男性	30 代	企業などを増やしてもっと就職出来る場所が欲しいです。
男性	30 代	収穫体験の出来る場所は、必要だと思います。休耕地などの利用にもなると思います。花摘みの時期は、館山は通りすぎるだけで、止まってもらえない事をなんとか足を止めてもらえる様な場所が必要だと思います。
男性	30 代	中途半端に道の駅化しない方が良いのでは。城山公園、渚の駅等との役割、機能の差別化をはかった方がいいと思う。役割、機能をそれぞれ明確にして連携のとれた観光スポットになると良いと思う。⇒どこも手入れがいまいち、3 流スポットではさみしい。館山に来たら、「ここと、ここをまわると絶対いいよ」といえる場所があるといい。
男性	30 代	館山市は子供が遊べる場所が少ないと思うので、いつでも子供が楽しめる場所を考えて頂きたいです。たとえば、農園と、公園の併設、つまらない公園しかありません…。

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
女性	30 代	問 13 にのっているような施設ができたら子供もよろこぶのでぜひ作ってほしいです。水あそびができるようなのもあるといいです。遊具も少しあるといいです。館山は子供があそぶ施設が少ないのでぜひ作ってください。観光にもとてもいいと思います。館山にある地産の商品はセンスがなく、あまりおいしくないので、洗練された見た目のいいものをつくってほしいです。館山の接客の悪さは有名なので、お店をつくるとしたら接客をよくして観光客の方にはずかしくないものにして館山の良さをアピールしてほしい。渚の駅もなんか残念な感じなので、このような素敵な施設ができるのをたのしみにしています。
女性	30 代	問 13 の「12. 家族やペットと一日中遊べる大きな公園」のような子供と遊べる場所がほしいです。
女性	30 代	公園がほしいという声は、子供の親同士で良く話す。観光視点も捨てられないと思うが…。市民が楽しんで使える施設を作り上げてほしい。
女性	30 代	ハコものをつくっても集客できない。
女性	30 代	場所が市街地から距離があるので、観光用に利用すべき。館山は道の駅ぐらいで特にメインの観光施設がない。友人が来てもココって言える場所や食事処がない。
女性	30 代	観光客をよび込む為だけが目的になる施設にするのではなく、ぜひ市民が主に利用できる市民寄りの施設にすべき！いつも三芳の道の駅を利用する。農産物だけでなく、飲食や手作り品の雑貨他も売っていて楽しい。館山には小さい直売所は沢山あるけれどこういう施設はない。中途半端な物ではなく、造るのならば、観光客を呼びこめる施設にしないと意味がないと思う。特に体験は絶対必要だと思う。子供連れ(都会の)の親子に受ける設備が絶対だと思う。
女性	30 代	無理に整備しなくてもと思ってしまいます。一番の集客がイオン等で、反対方向には買い物にわざわざ行こうとも思わないので、何ができても一度行ったら行かない結果になると思います。今あるスーパー内に館山･南房総産の野菜コーナーを拡大してもらえれば充分です。
女性	30 代	広い土地の有効活用として、私が考える所「家族やペットと一日中遊べる大きな公園」は非常に良いと思います。近所や遠方の利用者はもちろん、ペットがいなくても健康作りの為に歩きに来る方、たくさんの利用者がいると思います。利用者の用途をさまざまにする為には、行けば楽しく何か必ず行ったかいがあると、次に又利用したいとリピーターをつける為の工夫が必要です。例えば、ペットと来た方は一緒に走り周ったりするので、のどが乾きます。館山産のアイスクリームは絶対に食べます。それもリーズナブルでちょっと印象に残る様なアイスを考案した方がいいでしょう。遠方から来る方はペットを車に乗せて来るでしょう。きっときれいな花や野菜の苗も車に乗せて買って行くでしょう。朝から一日中いれば、お腹もすきます。地産地消レストランでお昼を食べ、野菜がおいしければ、農産物を買って行くでしょう。料理レシピ等も紹介すると良いのではないでしょうか？！おにぎりはテイクアウトも可能なので、近くの方が便利に思い、お持ち帰りするのではないでしょうか。この様な流れをつくるには、しっかりとした管理者をおき、サービス業にたけている人物を探し、スタッフ教育を徹底的にする事が絶対条件です。
男性	40 代	安房グリーンラインと JR の交わる踏切の部分で渋滞が発生して、不便が生まれませんか？
男性	40 代	何を作ろうが市外、県外の客を寄らせる呼ぶ手段を取らなければ企画倒れ、赤字でおわる！地元を意識する事など無意味！

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
男性	40 代	館山の農産物及び特産物の活性化には、賛成であります。又、その為の設備投資も必要であるのも理解出来るが、今迄のように何を実行するにも、中途半端で終る様なモノではなく、館山ならではの独創的で、他には真似出来ない、施設を創ってほしい。是非頑張って下さい。
女性	40 代	観光にもっと力を入れて下さい。海があって、山があって都心から近いのに売り出せる力が館山にはなさすぎる！
女性	40 代	目的がよくわからない。観光客の為か市民の為かによって異なる。葬儀場が近いのでどうでしょうか。用地があるからと言って必要のない施設を作っても仕方ない。
女性	40 代	地元の人が毎回買い物として、館山産の農産物のみの販売だと、そこだけでは用がすまないので､たまに時間の余裕のある時のみの利用となってしまいそう。また、自分の住まいからは遠いので、よけい利用回数は少ないと思います。地元の人ターゲットではなく、道の駅みたいに観光客や休みの日の地元の人が家族などとくつろげる場所、楽しめる場所として利用した方がよいと思う。その市場跡まで行かなくとも館山産の農産物を買いに行くのなら、近くの店で購入できるところがあるので、そこで十分で今はあります。
女性	40 代	市が経営する農園が良いと思う。特産物などを作り、販売したら良いと思う。
男性	50 代	県内でも高齢化が最も進んでいる地域であり、将来を考えた場合農業振興の施設の設置はしない方が良いと思う。それよりもその土地は処分してしまった方が良い。処分に伴う費用は 1 回ですむが、事業をおこし赤字となった場合は毎年税金を使うこととなる。
男性	50 代	どの様な施設を作るにしても、観光客をどの様にそこへ誘導するか、又リピーターをどの様に作るか、他の施設との差別化をどの様にするか。ただ施設を作って、品物を並べただけでは投資にみあうだけの収益を上げることが出来ないだろうから。そこにプラスαの魅力が無ければいけないだろう。
男性	50 代	県内外の人達が集う観光施設を作り、観光の目玉としてはいかがなものか。観光施設が少ないため、観光客が減っているのではないか。
男性	50 代	他の施設にお金を掛けるべきであり、必要の無い施設は無駄である！これからは老人が増える中、観光施設など後回しではないのか？本当に館山に必要な物を作ってもらわないと、館山市の人口は減る一方です。
男性	50 代	観光客でなく、市民が何度でも立ち寄りたくなる施設を希望します。
男性	50 代	この施設が完成し、稼働するのであれば、この地域の方々の生活に大きな利益と安心が生まれます。地産地消の産物を購入し消費する事は、地域の活性化にもなります。ですが、その分、地域の八百屋、スーパー等との共存も必要です。相互に利益が生まれる様な方法を考えて下さい。あとは営業時間の問題ですが、どこの施設でも営業時間が短く、購入したいが、すでに閉まっている事が多々あります(道の駅など、その他 etc)。せっかく立地条件がいいのですから、8：00～20：00 位までやっていただければ、利益は生まれると思います。
男性	50 代	館山にはいくつか農産物直売所がある。公有地が余っているからといって安易に公共(もしくは民間委託等含む)で、そういった施設を作るべきでは無い。地元企業を優先しつつ民間の競争にまかせ、それを後押しする施策を求める。
男性	50 代	地元住民だけでは、限りがあるので、観光客が 1 日遊べる施設を考えてほしい。
女性	50 代	館山には、使われていない施設があり、それを有効に利用したら良いと思います。もっと、もっと館山の良い所をアピールすると良いと思います。

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
女性	50 代	若い人の雇用が増えてほしいと思います。
女性	50 代	問 12 に関して大きな施設を作っても、館山近辺の人達だけの利用では、まず収入が無理だと思います。まずは多くの観光客が来て利用してくれなければ…館山を通過点とするのではなく拠点とするような地域の活性化が望まれる。館山を観光地とする目玉は現在何かしら、在中して 30 年すぎますが、あまり見当たりません。(住んでいると当たり前になる事も否めませんが)
女性	50 代	高速バスのバス停として、利用できる様な広い駐車場、館山にほしいです。現在、富浦まで行っています。
女性	50 代	農家の方が多い地域なので、県内外から来てもらうために、他にない絶対的なものを考えてみてはいかがですか。マイカーで遠くからでも、安房のあの食べ物があのスイーツ、あのフルーツがどうしても買いたいというものを考えて下さい。地元はもとより、若い夫婦が子どもやペットをつれて、1 日お金をそこそこつかって夕食やその後の食材をもって帰れるような、連絡をとり合って他の施設ともコラボしませんか？大自然を利用しましょう。
女性	50 代	私は時々「健人館」を利用しています。地元の新鮮な野菜･果物･生花等が手に入り、スーパーなどで購入した時より、満足感で満たされます。こうした直売所プラスおいしいアイスクリームや収穫体験ができる施設があると家族みんなで楽しめて、満足できると思います。
女性	50 代	道の駅にすることは、無理でしょうか？南房パラダイスも渚の駅も今ひとつ中途半端な気がします。バスごと来てもらえれば、集客力も増加するし、レストランや、魚介のバーベキューなどがあれば、地元の人も集まると思います。子犬やうさぎなどの小動物と遊べるコーナーもあればいいですね。夏みかん、よく食べないで地面に落ちていますね。栽培が簡単なら、たくさん作って、りんごジュースと混ぜてジュースにしてはどうでしょうか？
女性	50 代	何をどの様に作っても、どの様に集客するか、どの様に活用するかしっかりしたプランの上、市場を作るべきだと思います。後日、こんなにりっぱなのに、もったいないですねと言うことのないようにとなまいきながら思います。
女性	50 代	用地に施設を作った場合、マイカーの人なら行けるが、電車で来た人は又は市内で車を持っていない人の足はどうするのか？農産物の販売をするにも､｢これは｣ここでしか買えないメインの品物等をそろえないと、人が集まらない。又、インターネット販売も出来るか？いろいろ課題はあると思います。
男性	60 代	公設卸売市場用地(跡地)について、財政がひっ迫している館山市の現状から売却処分した方がいいと思う。同跡地に農業振興及び活性化関連の施設を整備しても繁栄は長続きするとは思えない。
男性	60 代	既に類似施設が多数あるので殊更新設は不要と思います。地域振興も大切ですが、農産物のクオリティーを高めることが先決です。
男性	60 代	観光事業や各種のイベント等に関して、他の市町村よりも数少なく、活気が無いように思われる。多くの観光客が館山へ来てくれるように観光施設に力を注ぎ、元気で明るい町になって欲しい。
男性	60 代	館山産にこだわると経営は成り立ちません。産地直送、産地直売、地産地消、言葉にすると聞えは良いが、年間を通して館山産が安定供給できるものは少なく、経営は成り立たない。県外からの入り込みを見込むなら市民農園を提案します。アウトドア指向、健康指向、設備投資、運営等を考えると最適。(1 区画の広さを複数段階にする。10 坪○○区画、20 坪○○区画等々賃貸期間を複数年も考える。2 年、3 年…等々。)
男性	60 代	農業関連施設については、道の駅や民間の産地直売所、各種体験施設等が数多くできており過当競争になるのではないかということが気になります。現在の経済情勢、或いは市の財政状況を考えたとき、市民にとって何が必要なのか、市民が何を求めているのかということも気になります。従いまして、多くの市民が納得できるような、後々整備してよかったといえるような計画を期待します。

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
男性	60 代	交通の整備もしてほしい(バス等)
男性	60 代	休日、連休等 128 号の道路混雑、緩和の為に一時的にプールできる、休憩所として農産物、特産品販売等の施設を考えてほしい。
男性	60 代	簡単に考え、今までにある物をお造りになったら、競合するだけです。どうせお造りになるなら、今までにない物、どこにもない物を考えて造るべきです。
女性	60 代	公設卸売市場の用地として購入した経緯がありますので、元地権者及び周辺の農家とのトラブルの発生しない使い方(利用)が求められると思います。又これらの施設で雇用の拡大が図れると大変良いではないかと思います。
女性	60 代	荒らしてある畑を貸してくれる様な仲介があると良いと思います。
女性	60 代	その土地でしか味わえない農産物(野菜･果物)を使用して､そこに行かなければ食べられないという事が地域活性化に繋がっていくのではないでしょうか。
女性	60 代	館山市内には農産物の販売所がたくさんありますが、家族が一日中遊べるような公園が少いので芝があり､いろいろな施設が整っていれば最高だと思います。
女性	60 代	南房総には、子供が遊べる場所が全くありません。収穫体験や農産物の販売は他にもあります｡それを目的に､あの場所にわざわざは出かけては行きません｡･子供が行く場所には､親は必ずお金を落とします｡(動物は､維持費が高いので､いりません)ターゲットを、子連れの家族にし、今までにない、公園、プール、飲食の総合施設が必要です。孫が遊びに来ても、連れて行く所がありませんので、よろしくお願いします。
女性	60 代	車社会を考えると、土地が約 3600 坪で何を作るかにより付帯機能がきまる。農業振興のための有効利用を考えているとのことですが、現在の農業従事年令を平均すると 60～80 才以上が 80%以上。ここ数年 3 年～5 年は良いとしてもその先がどうか？
女性	60 代	ある程度お金をかけて、センスのよい施設にしないと、埋没してしまう。市民参加型のガーデニングパーク。
女性	60 代	館山産といえども、農薬をあたり前に使用した農産物はもういりません。除草剤を使わず、土作りにこだわった野菜がほしいため、生協二ヶ所を利用しています。しかし、茨城産など他県のものが多く、やはり館山産無農薬野菜が食べたい｡そうした研究をするための施設やレストラン(大多喜のベジタブルレストランのような)があったらいいなと思います。)
女性	60 代	苺狩り、花つみ等のように外部からの観光客や団体客を呼べる様な施設、地元の住人相手だけでは大変だと思います。旅行業者さん等にも売り込んで集客力のある施設そして市民も家族で遊べる様な所があればいいと思います。
男性	70 代	出来る事なら魚等(肉なども)有ればよろしいかと思いますよ！
男性	70 代	問 12,13 に掲示されている設備はすばらしいものがありますが、それらの施設が確実に採算がとれ、継続できるか否かを十二分に検討する必要がある。途中で、中止することがあれば予算のむだづかいである。責任を持って計画するのでなければ実施しない方が良い。絶対ペイできることがない限り実施してはならない。
男性	70 代	産直店に時々買物に行っていますが、館山の産直店は価格が高く、品質も良くないので、鴨川で買って来ます。産直品特に野菜は富楽里やみんなみの里、道楽園で買います。館山で産直品が買いたいです。
女性	70 代	高齢者の方がスーパーへ行かなくても移動スーパーの様なものがあればよいと思います。
女性	70 代	例として、南房総地区の枇杷倶楽部を中心とした地域は多くの人も集まり、にぎわいを見せている。館山市ではそのようなものが見当らない。今南房パラダイスも下火となって来ている。館山市として工業団地を予定して購入した土地はどうなっているか。その土地を今後どのような型で利用するか考える必要がある。公設卸売市場用地を中心とした地域の活用を考えること。

図表 3-33　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
女性	70 代	3,600 坪の広大な土地を緑豊かな森とし、その中に市民農園や館山の温暖な土地の利を活かした農作物を作って欲しい。お花は農薬を使用することが多く、千倉のお花畑もあるので、余り感心しない。豊かな緑の中に小川を作り、子供たちが魚を観察したり、ホタルを楽しんだりする単に営利目的のために利用するのでなく、未来の子供たち、失われゆく自然を守るために時間をかけて、里山を再生して欲しい。
女性	70 代	住宅よりはなれている。交通の便が悪い。
男性	80 代以上	乗り物で送迎してもらえるなら何が出来ても良いです。年寄りにはつらいです。
男性	80 代以上	趣旨については、賛成ですが、私共 80 才をこえておりますので、九重まで、農産物の購入に行くことは、よほどのことがなければ、行けません。
男性	80 代以上	私の住んでいる那古近辺に出来れば、大賛成ですが、高齢者で足がない人は九重では遠すぎます。もっと近くに出来れば活用したいと思います。
男性	80 代以上	家族連れ、若物に魅力のある施設をつくってほしい。
女性	80 代以上	市はいつもいつも先の見通し等が悪く、計画性が余りにも無さすぎる。1 人 1 人の血税のことをもっともっと深く考慮し対処をして戴きたい。
女性	80 代以上	買物送迎バスを出して下さい。最低の料金は払う事。注文をした品を届ける様にして下さい。
女性	80 代以上	観光の方も、地元の方も利用できる、直売所を中心にした広々とした公園のような施設が良いのではないかと思います。以前から思っておりましたが、観光案内は南房総市と合わせてできないものなのでしょうか？今回の施設の場所を考えても、エリア全体の案内ができれば、大変便利になるかと思います。
女性	80 代以上	ラーメンや、食事の出来る場所、安価で新鮮なものが、食べられる場所が必要、休憩所等に利用出来る様な所、九重方面には、そういう場所が少ないので、また観光客も入りそうな案内場&食堂が必要。道の駅的な所等。

4　農家アンケート調査結果

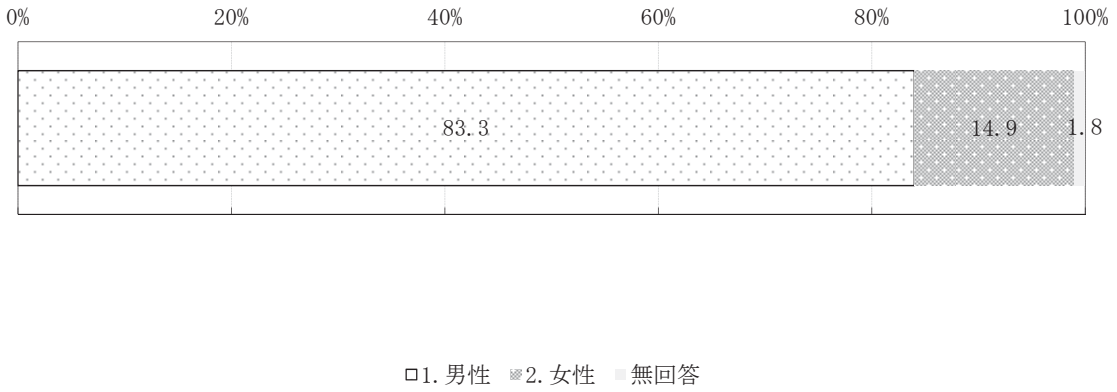
(1) 回答者の属性

① 性別

回答者は「男性」が 83.3%、「女性」が 14.9%であった。

農業従事者における男性の意向を反映している度合が強い。

図表 3-34　回答者の性別（SA）



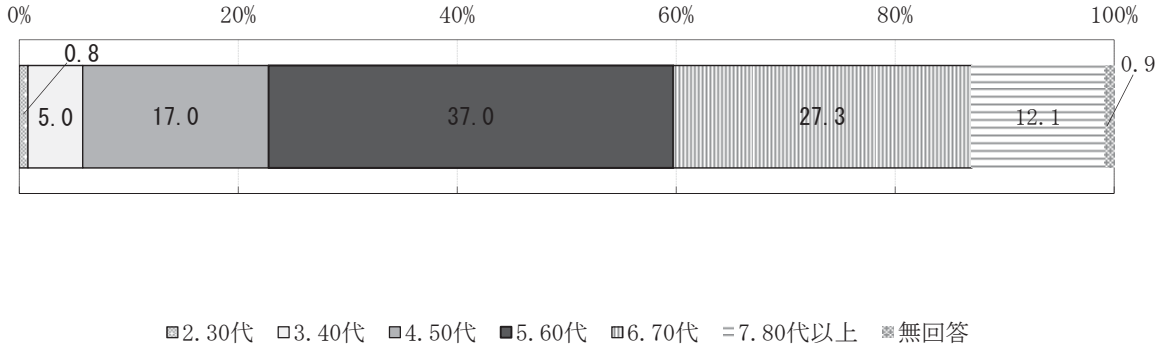
	回答数	%
1.男性	552	83.3
2.女性	99	14.9
無回答	12	1.8
合計値（N 値）	663	100.0

② 年代別

年代は「60 代」が 37.0%と最も多く、次いで「70 代」が 27.3%、「50 代」が 17.0%と続く。

60 代以上の人からの回答は 76.4%にのぼり、一方で「20 代」の人は 0.0%、「30 代」の人は 0.8%であることから、高齢層の意向のあらわれがやや大きいと言える。

図表 3-35　回答者の年代（SA）



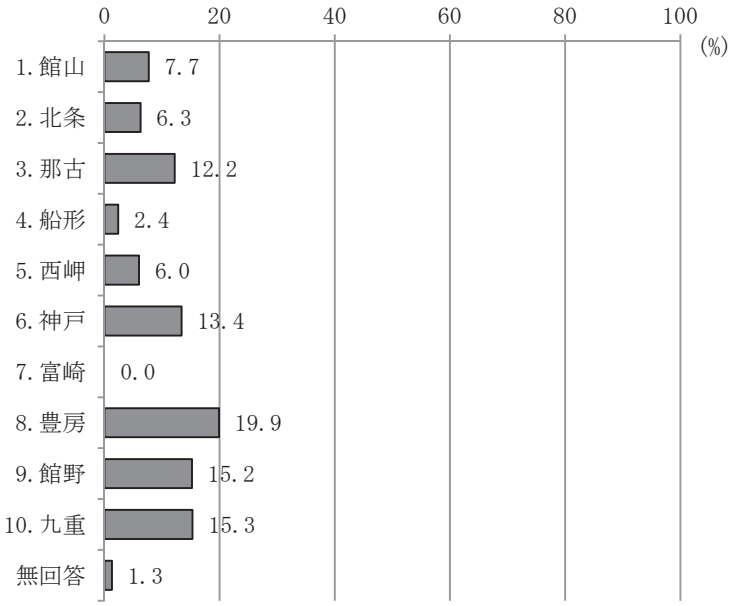
	回答数	%
1.20 代	0	0.0
2.30 代	5	0.8
3.40 代	33	5.0
4.50 代	113	17.0
5.60 代	245	37.0
6.70 代	181	27.3
7.80 代以上	80	12.1
無回答	6	0.9
合計値(N 値)	663	100.0

③ 居住地域別

居住地域を見ると、「豊房」地域が 19.9%と最も多く、次いで「九重」が 15.3%、「館野」が 15.2%となっている。

一方、「富崎」では回答者の割合は 0.0%、「船形」では 2.4%と、低い数値となっている。

図表 3-36　回答者の居住地（SA）



	回答数	%
1.館山	51	7.7
2.北条	42	6.3
3.那古	81	12.2
4.船形	16	2.4
5.西岬	40	6.0
6.神戸	89	13.4
7.富崎	0	0.0
8.豊房	132	19.9
9.館野	101	15.2
10.九重	102	15.3
無回答	9	1.3
合計値(N 値)	663	100.0

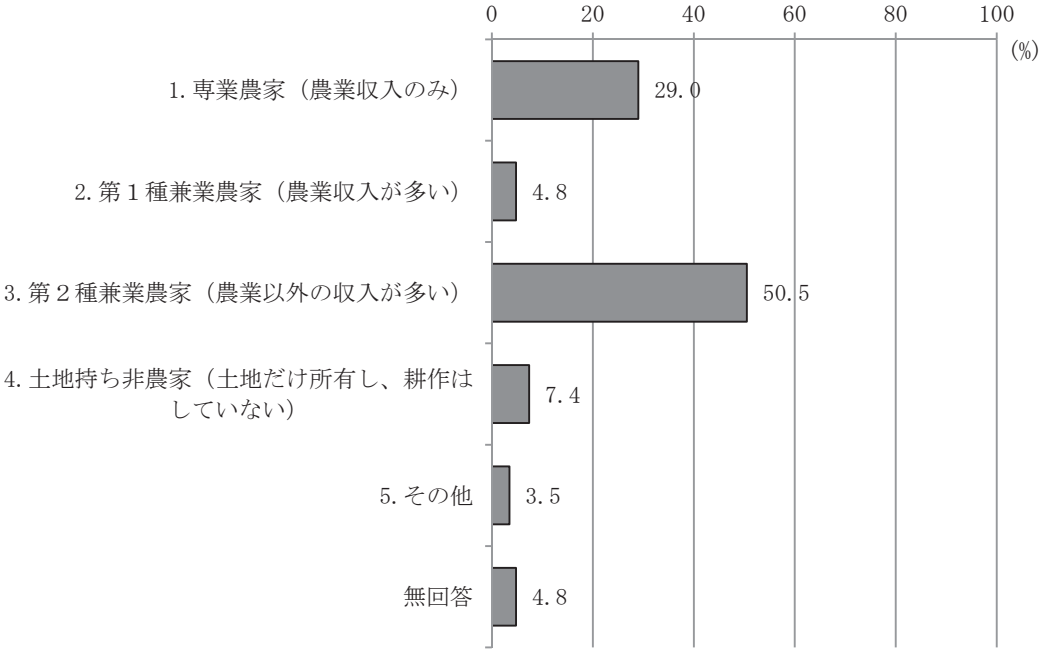
(2) 経営の現況や経営意向

① 農業形態

問 4-1　あなたの農業形態は次のどれですか。

農業形態を見ると、「第２種兼業農家（農業以外の収入が多い）」が 50.5%と半数を占めている。次に「専業農家（農業収入のみ）」が 29.0%と続いており、この２つが館山市内の農家の農業形態として多いことが分かる。

図表 3-37　農業形態（SA）



	回答者数	%
1. 専業農家（農業収入のみ）	192	29.0
2. 第１種兼業農家（農業収入が多い）	32	4.8
3. 第２種兼業農家（農業以外の収入が多い）	335	50.5
4. 土地持ち非農家（土地だけ所有し、耕作はしていない）	49	7.4
5. その他	23	3.5
無回答	32	4.8
合計値(N 値)	663	100.0

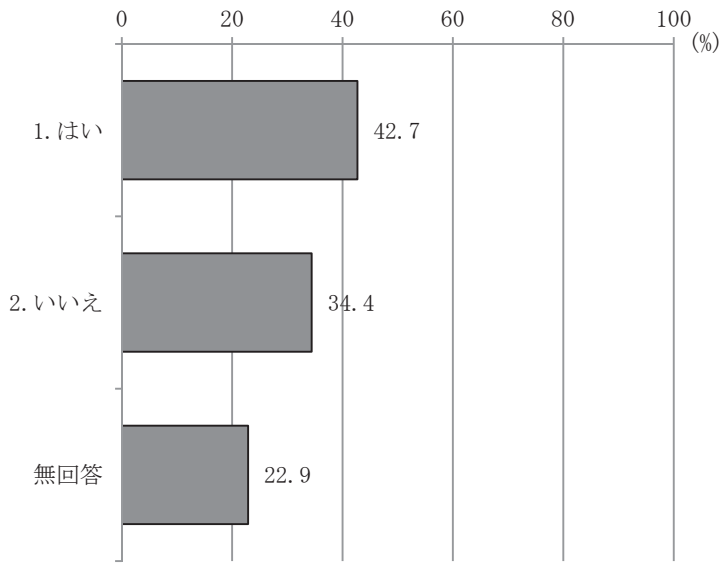
② 認定農家

問 4-2　問 4-1 で「1.専業農家（農業収入のみ）」とお答えした方にお伺いします。

認定農業者ですか。

「専業農家（農業収入のみ)」と回答した人のうち、認定農業者は 42.7%であった。「いいえ」と回答した人は 34.4%と続き、無回答が 22.9%であった。

図表 3-38　認定農業者か否か（SA）



	回答者数	%
1.はい	82	42.7
2.いいえ	66	34.4
無回答	44	22.9
合計値(N 値)	192	100.0

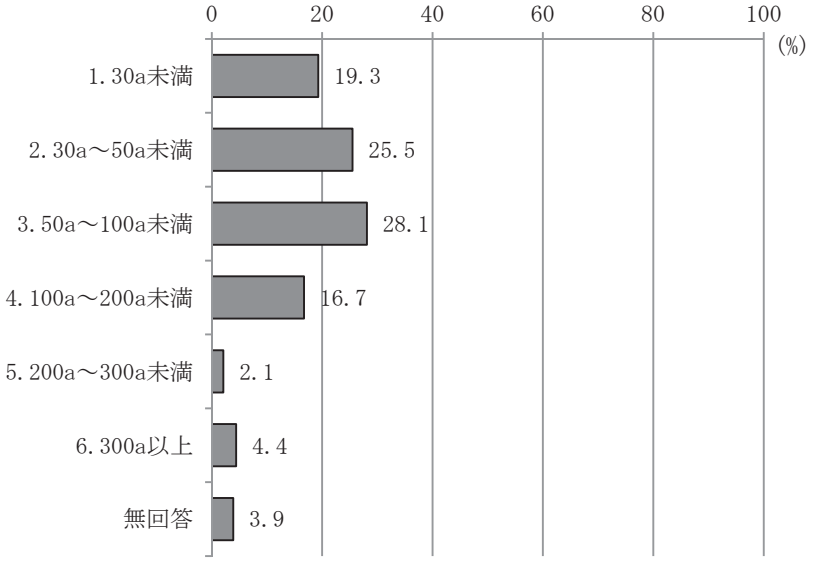
③ 農地経営面積規模

問５　あなたの農業経営面積規模をお答えください。

農業経営面積規模を見ると、最も多いのは「50a～100a 未満」の 28.1%で、次いで「30a～50a 未満」の 25.5%、「30a 未満」の 19.3%と続く。

「100a～200a 未満」の人も 16.7%いるが、傾向としては中小規模の農家が多いことが分かる。

図表 3-39　農地経営面積規模（SA）



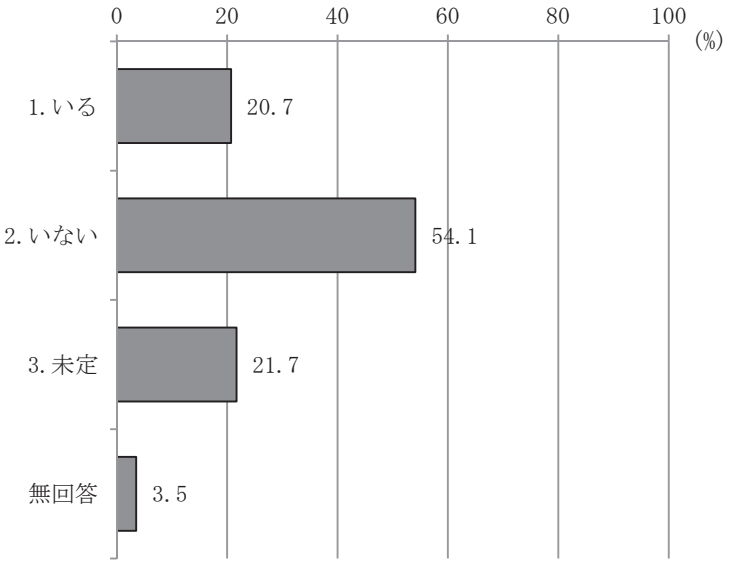
	回答者数	%
1.30a 未満	128	19.3
2.30a～50a 未満	169	25.5
3.50a～100a 未満	186	28.1
4.100a～200a 未満	111	16.7
5.200a～300a 未満	14	2.1
6.300a 以上	29	4.4
無回答	26	3.9
合計値(N 値)	663	100.0

④ 後継者

問 6-1　あなたの農業経営に後継者はいますか。

農業経営の後継者については、「いない」が 54.1%と半数以上を占める。
「未定」の 21.7%も含めて考えると、後継者不足の現状が伺える。

図表 3-40　後継者がいるかどうか（SA）



	回答者数	%
1.いる	137	20.7
2.いない	359	54.1
3.未定	144	21.7
無回答	23	3.5
合計値(N 値)	663	100.0

⑤ 後継者の年代

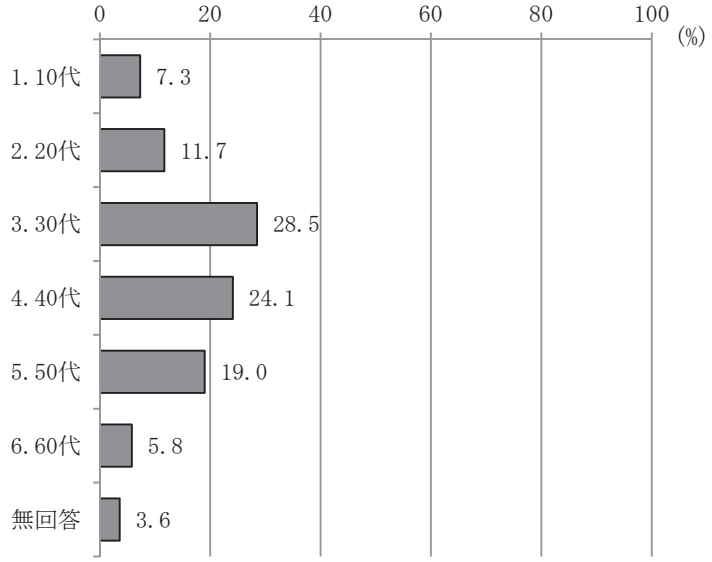
問 6-2　6-1 で「1. いる」とお答えした方にお伺いします。

年代をお答えください。

後継者の年代を見ると、最も多いのが「30 代」の 28.5%、次いで「40 代」の 24.1%、「50 代」の 19.0%となっている。

「10 代」、「20 代」のいわゆる若手の層はそれぞれ 7.3%、11.7%と比率ではそれほど多くない。

図表 3-41　後継者の年代（SA）



	回答者数	%
1. 10 代	10	7. 3
2. 20 代	16	11. 7
3. 30 代	39	28. 5
4. 40 代	33	24. 1
5. 50 代	26	19. 0
6. 60 代	8	5. 8
無回答	5	3. 6
合計値(N 値)	137	100. 0

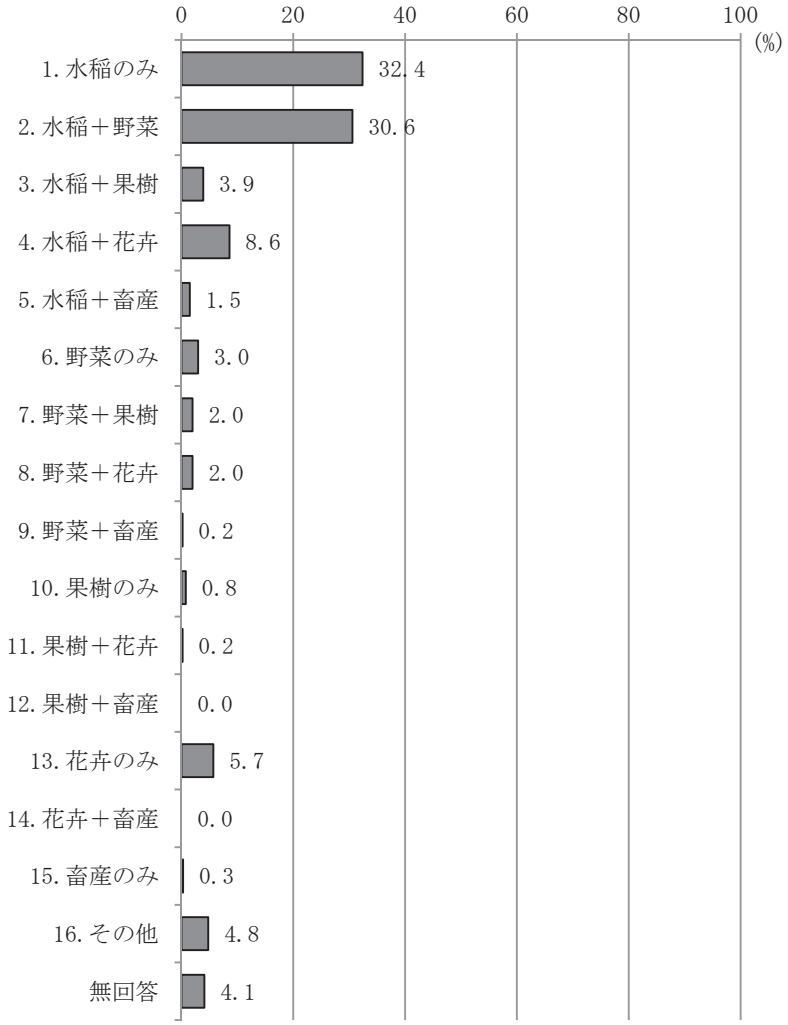
⑥ 農業経営形態

問７　あなたの農業経営形態はどれに当てはまりますか。

農業経営形態を見ると、「水稲のみ」が 32.4%でもっとも多く、「水稲＋野菜」が 30.6%と続く。そのほかには「水稲＋花卉」が 8.6%、「花卉のみ」が 5.7%と続くが、他の経営形態をとっている農家は少ない。

ほとんどの農家は水稲か、水稲＋野菜の経営形態をとっていることが分かる。

図表 3-42　農業経営形態（SA）



図表 3-42　農業経営形態（SA）　-続き-

	回答者数	%
1.水稲のみ	215	32.4
2.水稲＋野菜	203	30.6
3.水稲＋果樹	26	3.9
4.水稲＋花卉	57	8.6
5.水稲＋畜産	10	1.5
6.野菜のみ	20	3.0
7.野菜＋果樹	13	2.0
8.野菜＋花卉	13	2.0
9.野菜＋畜産	1	0.2
10.果樹のみ	5	0.8
11.果樹＋花卉	1	0.2
12.果樹＋畜産	0	0.0
13.花卉のみ	38	5.7
14.花卉＋畜産	0	0.0
15.畜産のみ	2	0.3
16.その他	32	4.8
無回答	27	4.1
合計値(N 値)	663	100.0

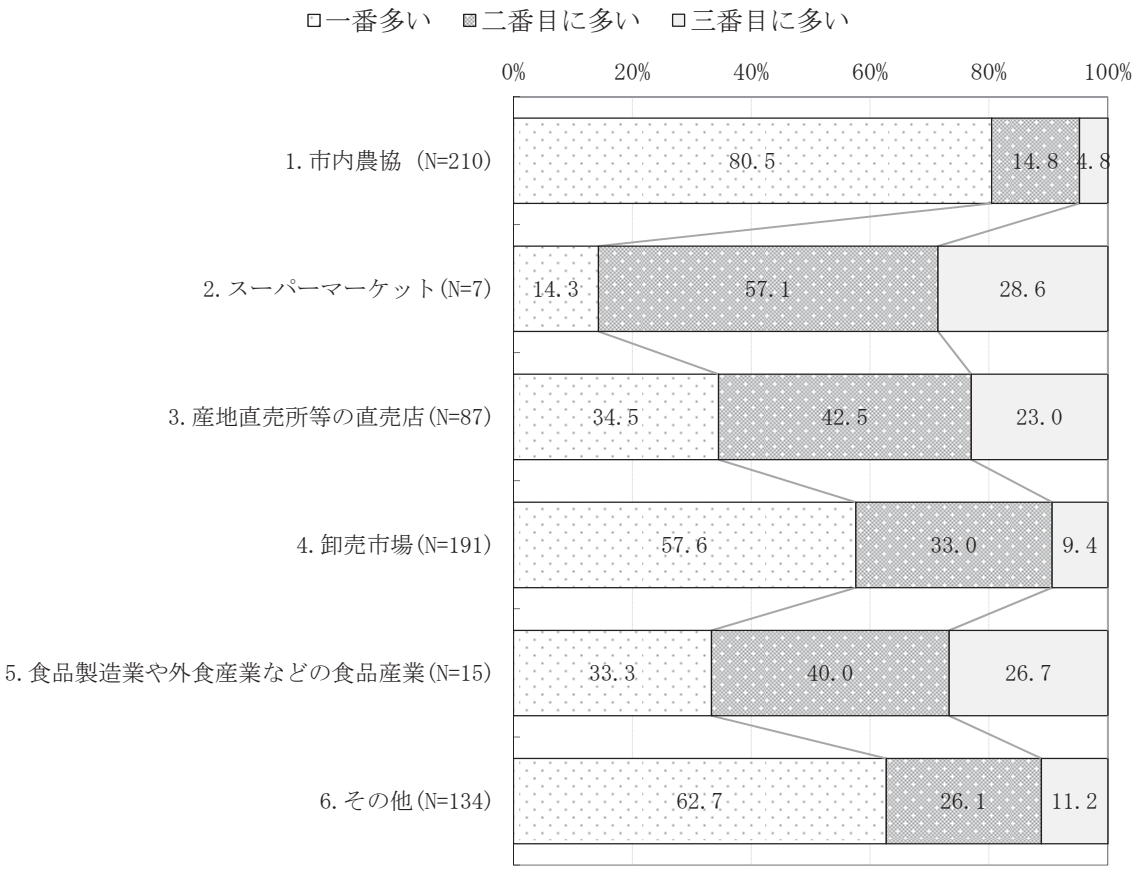
⑦ 主要な出荷先

問 8　おもな農産物（販売額が最も大きな作物）の主要な出荷先はどこですか。

各農家がつくる農産物の主要な出荷先を見ると、回答数が最も多いのは「市内農協」の 210 人で、次いで「卸売市場」の 191 人となっている。「市内農協」と回答した人のうち 80.5%が一番多く出荷しているとしており、「卸売市場」と回答した人のうち 57.6%が一番多く出荷しているとしている。

「直売所」と回答した 87 人については、「二番目に多い」とした人が 42.5%と最も多かった。直売所に出荷する人はある程度いるが、主要な出荷先は市内農協と卸売市場であることが分かる。

図表 3-43　主要な出荷先（MA）



図表 3-43　主要な出荷先（MA）　-続き-

Ｎ表

	回答者数 (N 値)	一番多い	二番目に多い	三番目に多い
1. 市内農協	210	169	31	10
2. スーパーマーケット	7	1	4	2
3. 産地直売所等の直売店	87	30	37	20
4. 卸売市場	191	110	63	18
5. 食品製造業や外食産業などの食品産業	15	5	6	4
6. その他	134	84	35	15

%表

	回答者数 (N 値)	一番多い	二番目に多い	三番目に多い
1. 市内農協	210	80.5	14.8	4.8
2. スーパーマーケット	7	14.3	57.1	28.6
3. 産地直売所等の直売店	87	34.5	42.5	23.0
4. 卸売市場	191	57.6	33.0	9.4
5. 食品製造業や外食産業などの食品産業	15	33.3	40.0	26.7
6. その他	134	62.7	26.1	11.2

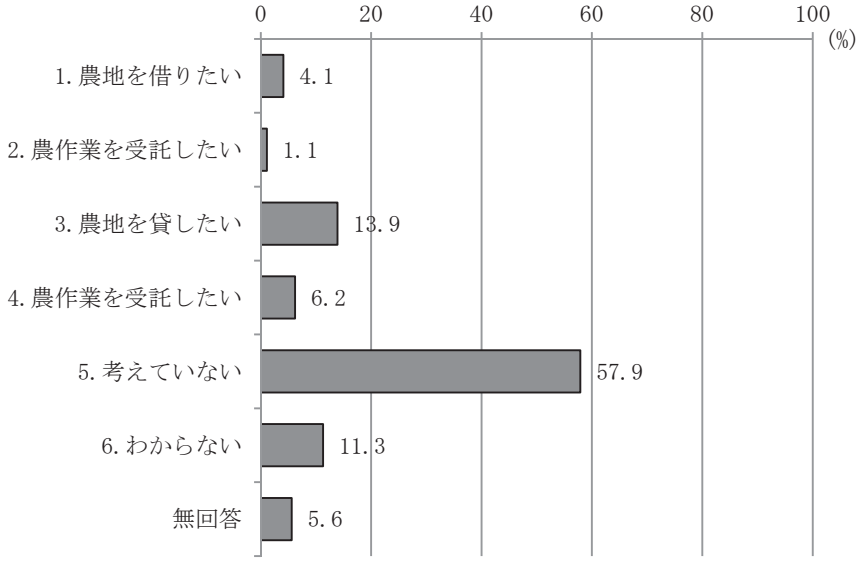
⑧ 農地の賃借について

問 9　あなたは農地の賃借、作業受委託の希望がありますか。

農地の賃借等についての考え方を見ると、最も多かったのは「考えていない」の 57.9%であった。

「農地を貸したい」という人も 13.9%と一定数存在したが、「農地を借りたい」、「農作業を受託したい」と考えている人はそれぞれ 4.1%、1.1%と、その比率は低い。

図表 3-44　農地の賃借等について（SA）



	回答者数	%
1. 農地を借りたい	27	4.1
2. 農作業を受託したい	7	1.1
3. 農地を貸したい	92	13.9
4. 農作業を受託したい	41	6.2
5. 考えていない	384	57.9
6. わからない	75	11.3
無回答	37	5.6
合計値(N 値)	663	100.0

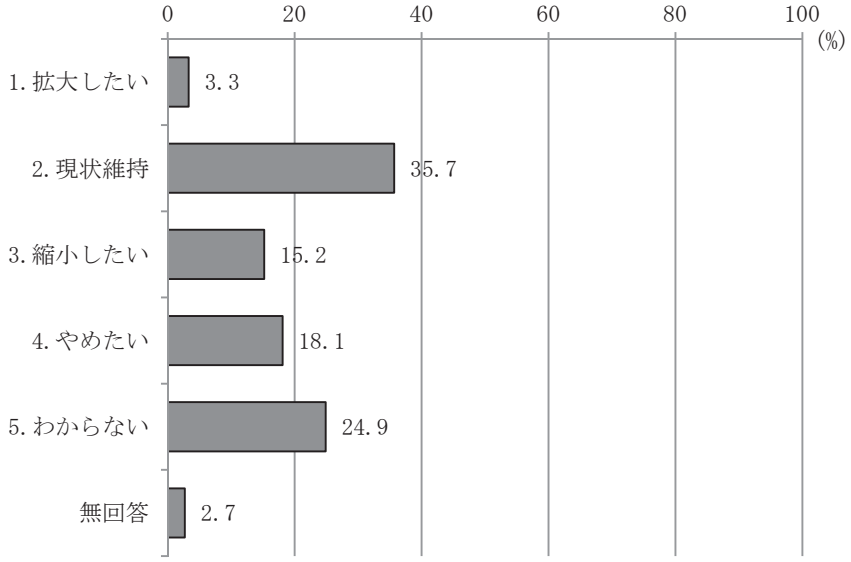
⑨ 10 年後の農業経営

問 10　10 年後の経営形態はどのようにしたいと思いますか。

10 年後の経営形態について見ると、最も多かったのは「現状維持」の 35.7%であった。「縮小したい」は 15.2%、「やめたい」が 18.1%であり、「わからない」が 24.9%であった。

「拡大したい」と回答した人は 3.3%と、その比率は低い。

図表 3-45　10 年後の経営形態について（SA）



	回答者数	%
1. 拡大したい	22	3. 3
2. 現状維持	237	35. 7
3. 縮小したい	101	15. 2
4. やめたい	120	18. 1
5. わからない	165	24. 9
無回答	18	2. 7
合計値(N 値)	663	100. 0

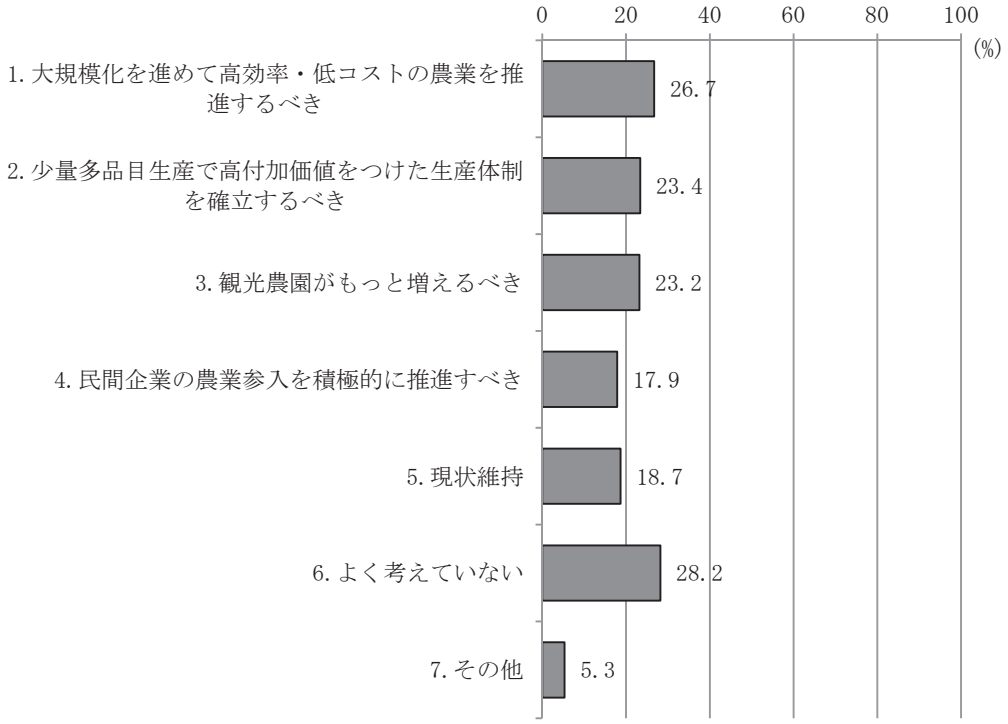
⑩ 今後の館山市の農業のあるべき姿

問 11　10 年後の館山市のあるべき農業の姿についてどのようにお考えですか。

当てはまるものを３つまでお答えください。

10 年後の館山市の農業についての意向をみると、回答内容にばらつきがみられるが、最も多かったのは「よく考えていない」の 28.2%であった。次いで「大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき」が 26.7%、「少量多品目生産で高付加価値をつけた生産体制を確立するべき」が 23.4%と続いた。

図表 3-46　10 年後の館山市の農業のあるべき姿（MA）



	回答者数	%
1. 大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき	177	26.7
2. 少量多品目生産で高付加価値をつけた生産体制を確立するべき	155	23.4
3. 観光農園がもっと増えるべき	154	23.2
4. 民間企業の農業参入を積極的に推進すべき	119	17.9
5. 現状維持	124	18.7
6. よく考えていない	187	28.2
7. その他	35	5.3
回答者数(N 値)	617	100.0

(3) 農産物等の出荷意向

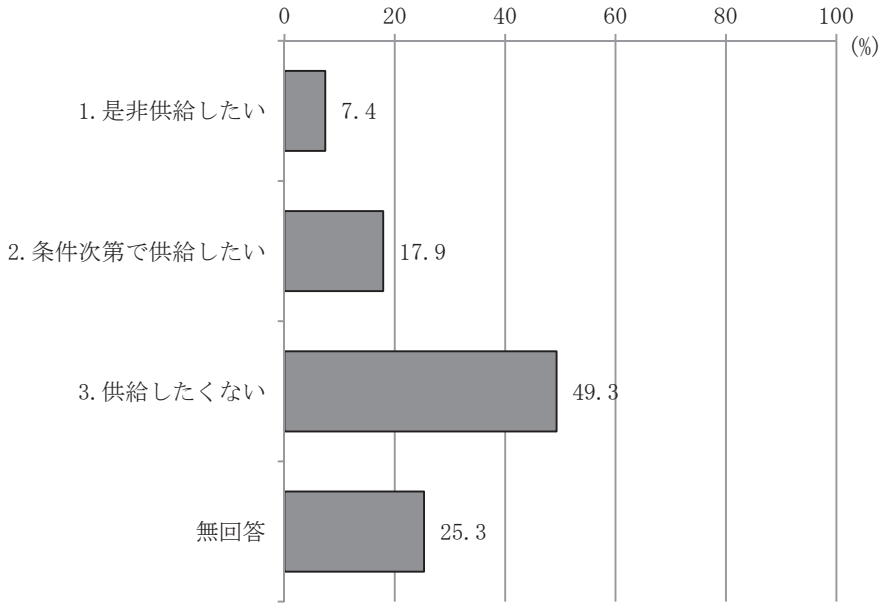
① 学校給食について

問 12　あなたは、学校給食に農産物を供給したいと思いますか。

学校給食に農産物を供給したいかどうかについては、半数近くの 49.3%が「供給したくない」と回答した。「是非供給したい」が 7.4%、「条件次第で供給したい」が 17.9%と、比率では少ないものの、回答者数でみると 150 人超の農家が、学校給食に対して出荷意向を持っていることが分かった。

一方で、無回答が 25.3%あり、回答者数にして 168 人とやや多い。

図表 3-47　給食に農産物を供給したいと思うか（SA）



	回答者数	%
1. 是非供給したい	49	7.4
2. 条件次第で供給したい	119	17.9
3. 供給したくない	327	49.3
無回答	168	25.3
合計値(N 値)	663	100.0

② 出荷季節 - 学校給食

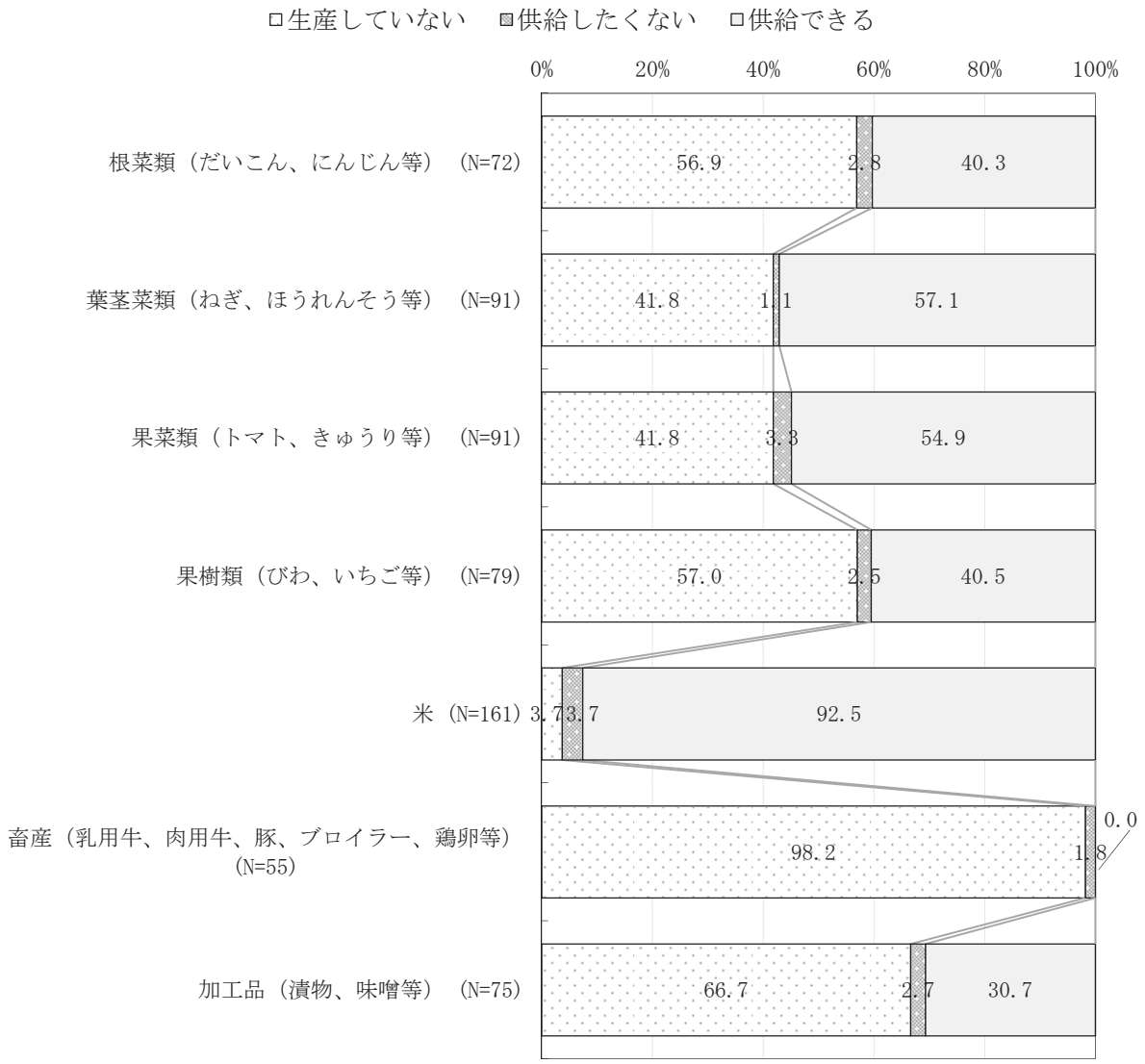
問 13　問 12 で「1.是非供給したい」又は「2.条件次第で供給したい」と回答された方にお伺いします。
作物別に出荷季節はいつごろになりますか。

当てはまるものをお答えください。

作物の出荷季節をみると、「米」を「供給できる」と回答した人が 149 人と多く、その割合は 92.5%となっている。

「葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等)」または「果菜類（トマト、きゅうり等)」を「供給できる」人もそれぞれ 50 人程度いるが、その供給時期には偏りがみられる。

図表 3-48　作物の出荷季節（MA）



図表 3-48　作物の出荷季節（MA）　-続き-

Ｎ表

	合計値（N 値）	生産していない	供給したくない	供給できる（時期）			
				12～１月	3～5 月	6～8 月	9～11 月
根菜類（だいこん、にんじん等）	72	41	2	17	4	1	7
葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等）	91	38	1	29	14	5	4
果菜類（トマト、きゅうり等）	91	38	3	4	7	32	7
果樹類（びわ、いちご等）	79	45	2	1	14	11	6
米	161	6	6	31	16	14	88
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	55	54	1	0	0	0	0
加工品（漬物、味噌等）	75	50	2	6	5	5	7

％表

	合計値（N 値）	生産していない	供給したくない	供給できる（時期）			
				12～１月	3～5 月	6～8 月	9～11 月
根菜類（だいこん、にんじん等）	72	56.9	2.8	23.6	5.6	1.4	9.7
葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等）	91	41.8	1.1	31.9	15.4	5.5	4.4
果菜類（トマト、きゅうり等）	91	41.8	3.3	4.4	7.7	35.2	7.7
果樹類（びわ、いちご等）	79	57.0	2.5	1.3	17.7	13.9	7.6
米	161	3.7	3.7	19.3	9.9	8.7	54.7
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	55	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0
加工品（漬物、味噌等）	75	66.7	2.7	8.0	6.7	6.7	9.3

③ 出荷可能量 - 学校給食

問 14　問 12 で「1.是非供給したい」又は「2.条件次第で供給したい」と回答された方にお伺いします。
作物別にどの程度出荷できますか。

作物別の出荷量は農家ごとにばらばらであるが、小規模な回答が多くある中で、1 トン以上供給できる農家の回答もみられる。

米については、多くの米農家の人が 1,000 kg（約 17 俵弱）以上供給できるとしていた。

図表 3-49　作物の出荷可能量（抜粋）　(FA)

	出荷可能量	
根菜類 （だいこん、にんじん等）	・100 本ほど ・100～200 本 ・200～300 ・300～500 本 ・30ｋｇぐらい ・50 kg ・100 kg ・1000 kg	・にんじん 100kg 未満 ・レタス 30 kg ・大根 50 本 ・大根 100 本 ・大根 200 本 ・大根 300 本、玉ネギ 500 個 ・大根 500～1,000 本 ・大根 2,000 本
葉茎菜類 （ねぎ、 ほうれんそう等）	・20kg ・100kg ・300kg ・500kg ・キャベツ 12 個×5 箱 ・カリフラワー ・キャベツ、ブロッコリー少量 ・ねぎ、ほうれんそう	・ねぎ 300 袋 ・ねぎ 20kg ・ねぎ 1,000kg ・菜花、紅茶花を 1 回につき 4kg 程度 ・必要に応じて供給可能
果菜類 （トマト、 きゅうり等）	・100 個 100 本程 ・10kg ・50～100kg ・300kg ・1,000kg ・15,000kg ・なす(周年栽培なのでオールシーズン) ・きゅうり日量 20kg	・トマト、胡瓜 ・トマト 100kg ・きゅうり 300 本 ・きゅうり 100kg ・ミニトマト 100 ケ ・100 坪から作る分
果樹類（びわ、いちご等）	・50kg ・梅(白賀)(小梅)加工品(カリカリ梅) ・300 ケース ・100 ケース(4 パック入り) ・びわ、50 粒以内 ・かんきつ 1t、カキ 0.5t ・みかん 1～2t	・梨 ・柿、みかん 100kg ・甘夏みかん 50kg ・2Ｌ以上なら 100 個（現在の給食の指定サイズはＬになっている）

図表 3-49　作物の出荷可能量（抜粋）　(FA)　-続き-

	出荷可能量	
米	・10～20 袋 ・30kg 入、20 袋 ・30 袋 ・60kg ・100kg ・150kg ・300kg ・300～400kg ・500 kg位 ・600 kg ・1,000kg ・1,200kg ・1,500kg ・2,000kg ・3,000kg ・5,000kg ・6,000kg	・2 俵 ・3 俵 ・4 俵 ・7 俵 ・5～10 俵 ・10 俵 ・15 俵 ・20 俵 ・30 俵 ・40 俵 ・50 俵 ・60 俵 ・100 俵 ・30 反分 ・いつでも納品できる ・価格により 40 俵位
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	無	無
加工品（漬物、味噌等）	・刀豆(加工品)130kg 位　福神漬 ・20kg	・梅干 50kg 紅ショウガ 15kg ラッキョ 30kg たくわん

④ 出荷条件 - 学校給食

問 15　問 12 で「2.条件次第で供給したい」と回答された方にお伺いします。

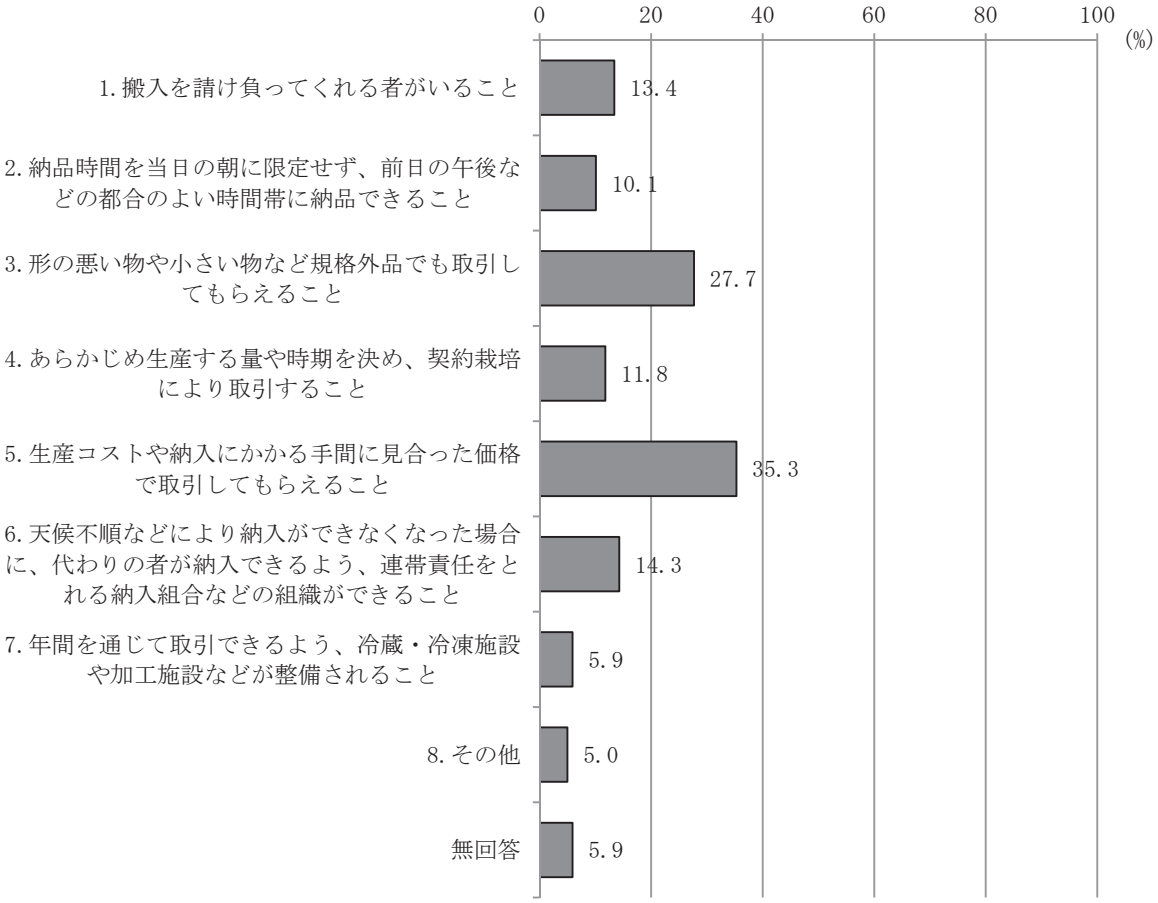
供給するに当たっての主な条件は何ですか。

当てはまるものをお答えください。

農作物を供給するための条件を見ると、最も多かったのは「生産コストや納入にかかる手間に見合った価格で取引してもらえること」の 35.3%であった。次に多かったのは「形の悪い物や小さい物など規格外品でも取引してもらえること」の 27.7%であった。このように、給食に関しては価格及び規格の面からの要望が多かった。

他の選択肢については大きな偏りは見られなかった。

図表 3-50　出荷条件（MA）



図表 3-50　出荷条件（MA）　-続き-

	回答者数	%
1.搬入を請け負ってくれる者がいること	16	13.4
2.納品時間を当日の朝に限定せず、前日の午後などの都合のよい時間帯に納品できること	12	10.1
3.形の悪い物や小さい物など規格外品でも取引してもらえること	33	27.7
4.あらかじめ生産する量や時期を決め、契約栽培により取引すること	14	11.8
5.生産コストや納入にかかる手間に見合った価格で取引してもらえること	42	35.3
6.天候不順などにより納入ができなくなった場合に、代わりの者が納入できるよう、連帯責任をとれる納入組合などの組織ができること	17	14.3
7.年間を通じて取引できるよう、冷蔵・冷凍施設や加工施設などが整備されること	7	5.9
8.その他	6	5.0
無回答	7	5.9
回答者数(N 値)	119	100.0

(4) 用地の附帯機能に関する考え方・意見

① 想定される主な機能について

> 問 16　公設卸売市場用地（跡地）についてお伺いします。
>
> この用地で整備する施設で想定される主な機能についてどのようにお考えですか。
>
> それぞれの機能についてもっともよく当てはまるものをお答えください。

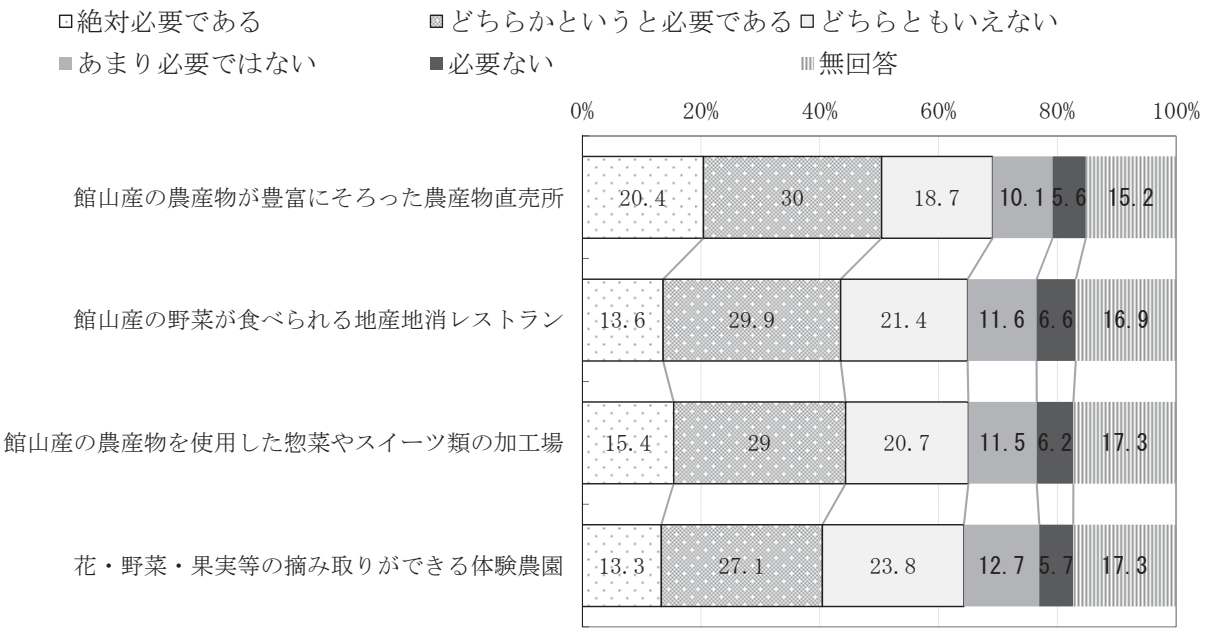
公設卸売市場用地についての主な機能の意向については、どの施設も「絶対必要である」又は「どちらかというと必要である」と回答した人の割合が「あまり必要ではない」又は「必要ない」と回答した人の割合よりも多い。

「どちらともいえない」と回答した人の割合は、それぞれの項目で 18.7%から 23.8%となっているが、全体の回答傾向に大きな違いはない。

「館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所」については、「絶対必要である」と回答した人の割合が他の３つの機能と比べると高い。

一方、無回答が全ての項目で 15%（約 100 人）を上回っており、用地で整備する施設に関心のない農家の層も一定数存在すると推測される。

図表 3-51　想定される主な機能についての考え（SA）



図表 3-51　想定される主な機能についての考え（SA）　-続き-

・館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所

	農家(N=663)		
1.絶対必要である	135	20.4%	計 50.4%
2.どちらかというと必要である	199	30.0%	
3.どちらともいえない	124	18.7%	---
4.あまり必要ではない	67	10.1%	計 15.7%
5.必要ない	37	5.6%	
無回答	101	15.2%	---

・館山産の野菜が食べられる地産地消レストラン

	農家(N=663)		
1.絶対必要である	90	13.6%	計 43.5%
2.どちらかというと必要である	198	29.9%	
3.どちらともいえない	142	21.4%	---
4.あまり必要ではない	77	11.6%	計 18.2%
5.必要ない	44	6.6%	
無回答	112	16.9%	---

・館山産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場

	農家(N=663)		
1.絶対必要である	102	15.4%	計 44.4%
2.どちらかというと必要である	192	29.0%	
3.どちらともいえない	137	20.7%	---
4.あまり必要ではない	76	11.5%	計 17.7%
5.必要ない	41	6.2%	
無回答	115	17.3%	---

・花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園

	農家(N=663)		
1.絶対必要である	88	13.3%	計 40.4%
2.どちらかというと必要である	180	27.1%	
3.どちらともいえない	158	23.8%	---
4.あまり必要ではない	84	12.7%	計 18.4%
5.必要ない	38	5.7%	
無回答	115	17.3%	---

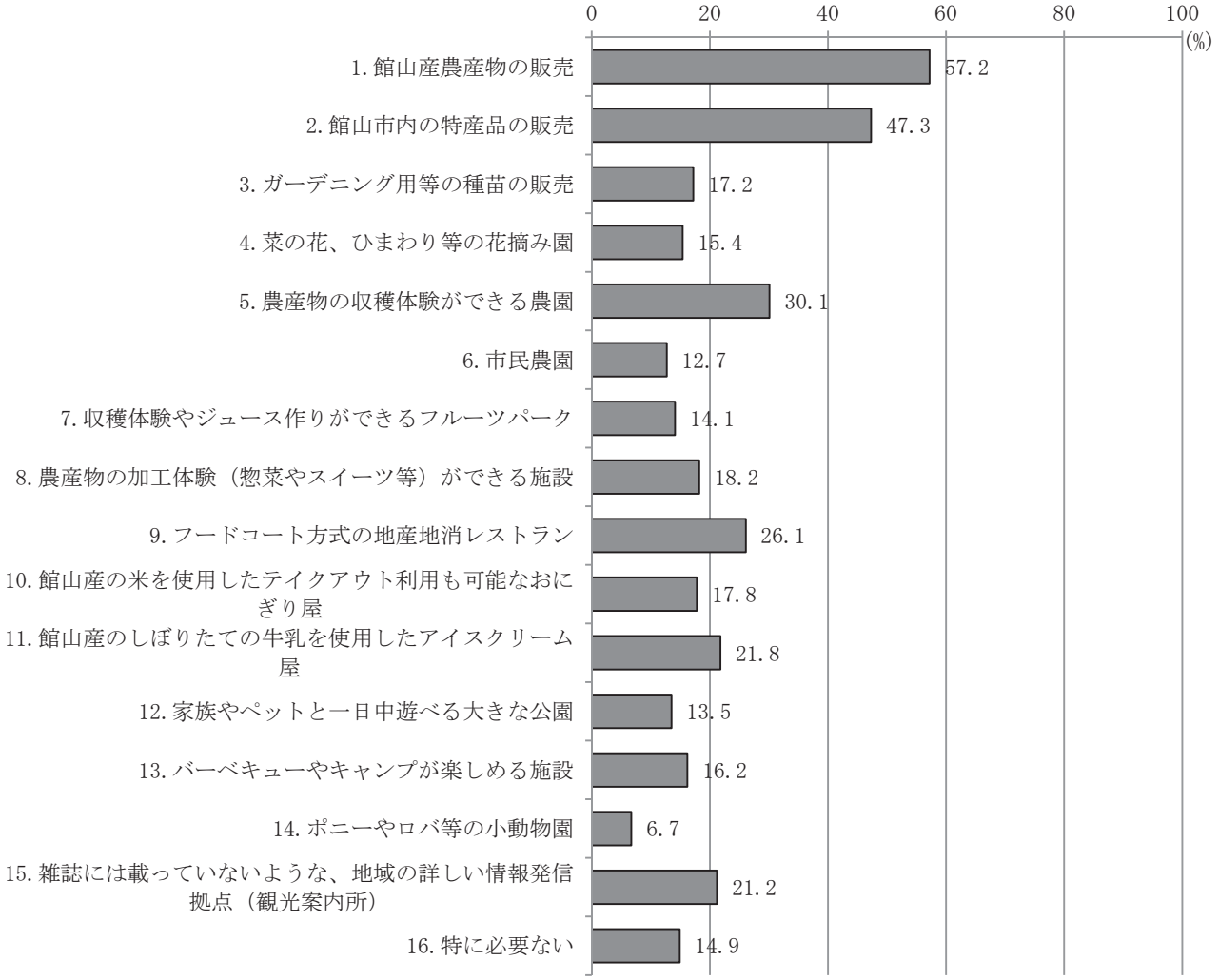
② 附帯機能で必要と思うもの

> 問 17　この用地で整備する施設の付帯機能として必要と思うものについてお聞かせください。
>
> 当てはまるものすべてをお答えください。

拠点で整備する施設の附帯機能の意向について見ると、「館山産農産物の販売」が 57.2%と最も多かった。次いで「館山市内の特産品の販売」が 47.3%、「農産物の収穫体験ができる農園」が 30.1%、「フードコート方式の地産地消レストラン」が 26.1%となっている。

館山の農産物や特産品を望む意向は多く、体験農園や地産地消レストランなど、生産者と関わりの深い施設（機能）もニーズがある。

図表 3-52　想定される主な機能についての考え（MA）



図表 3-52　想定される主な機能についての考え（MA）　-続き-

	回答者数	%
1.館山産農産物の販売	289	57.2
2.館山市内の特産品の販売	239	47.3
3.ガーデニング用等の種苗の販売	87	17.2
4.菜の花、ひまわり等の花摘み園	78	15.4
5.農産物の収穫体験ができる農園	152	30.1
6.市民農園	64	12.7
7.収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク	71	14.1
8.農産物の加工体験（惣菜やスイーツ等）ができる施設	92	18.2
9.フードコート方式の地産地消レストラン	132	26.1
10.館山産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり屋	90	17.8
11.館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋	110	21.8
12.家族やペットと一日中遊べる大きな公園	68	13.5
13.バーベキューやキャンプが楽しめる施設	82	16.2
14.ポニーやロバ等の小動物園	34	6.7
15.雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）	107	21.2
16.特に必要ない	75	14.9
回答者数(N 値)	505	100.0

③ 直売所が整備された場合の出荷意向

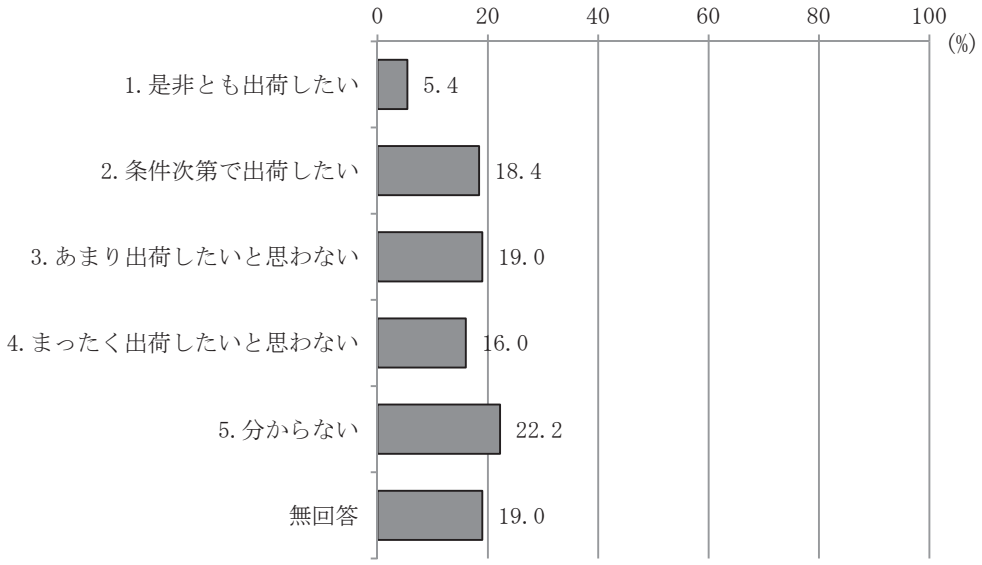
問 18　直売所が新たに整備された場合、出荷したいと思いますか。

直売所に農産物を出荷したいかどうかについては、「分からない」が 22.2%と最も多く、次いで「あまり出荷したいと思わない」の 19.0%と続いた。

「是非とも出荷したい」と「条件次第で出荷したい」はそれぞれ 5.4%と 18.4%あり、人数にして 150 人超になる。一方、「あまり出荷したいと思わない」と「まったく出荷したいと思わない」は合わせて 35.0%となっている。

無回答が 19.0%あり、無回答は回答者数にして 126 人とやや多い。

図表 3-53　直売所に農産物を出荷したいと思うか（SA）



	回答者数	%
1. 是非とも出荷したい	36	5.4
2. 条件次第で出荷したい	122	18.4
3. あまり出荷したいと思わない	126	19.0
4. まったく出荷したいと思わない	106	16.0
5. 分からない	147	22.2
無回答	126	19.0
合計値(N 値)	663	100.0

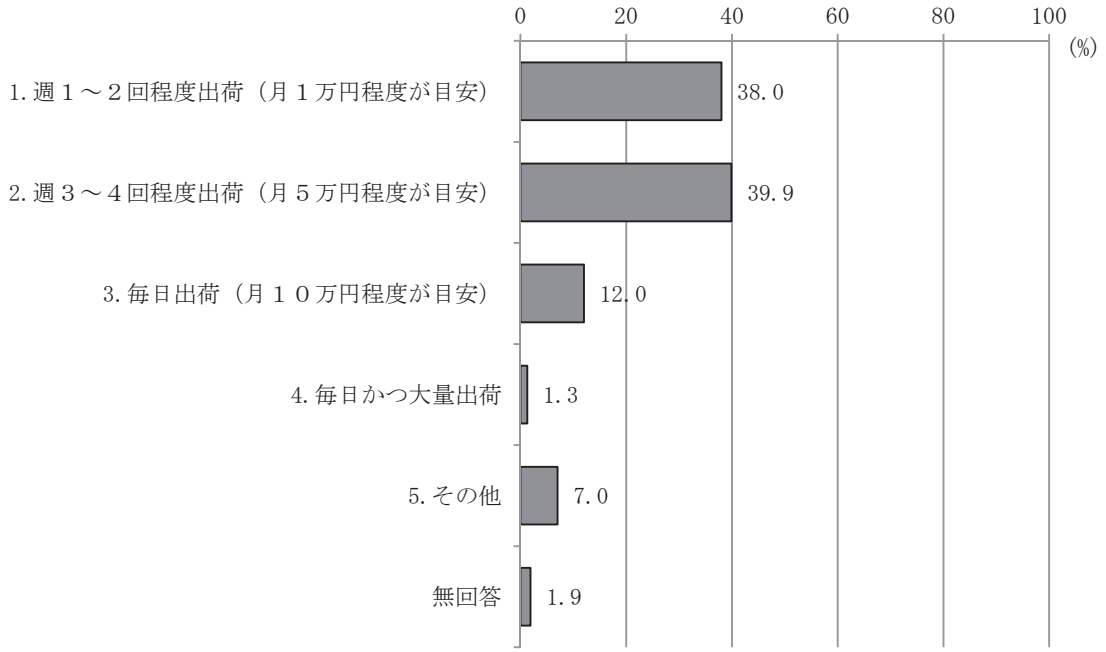
④ 希望する売り上げ　-　直売所

問 19　問 18 で「1. 是非とも出荷したい」又は「2. 条件次第で出荷したい」と回答された方にお伺いします。　直売によってどのくらいの売り上げを上げたいと考えますか。当てはまるものをお答えください。

出荷意向がある農家が直売によってどの程度売り上げを上げたいかについては、「週３～４回程度出荷（月５万円程度が目安)」が 39.9%で最も多く、次いで「週１～２回程度出荷（月１万円程度が目安）と続く。

「毎日かつ大量出荷」の意向がある人は 1.3%と少なかった。

図表 3-54　希望する売り上げ（SA）



	回答者数	%
1. 週１～２回程度出荷（月１万円程度が目安）	60	38.0
2. 週３～４回程度出荷（月５万円程度が目安）	63	39.9
3. 毎日出荷（月１０万円程度が目安）	19	12.0
4. 毎日かつ大量出荷	2	1.3
5. その他	11	7.0
無回答	3	1.9
合計値(N 値)	158	100.0

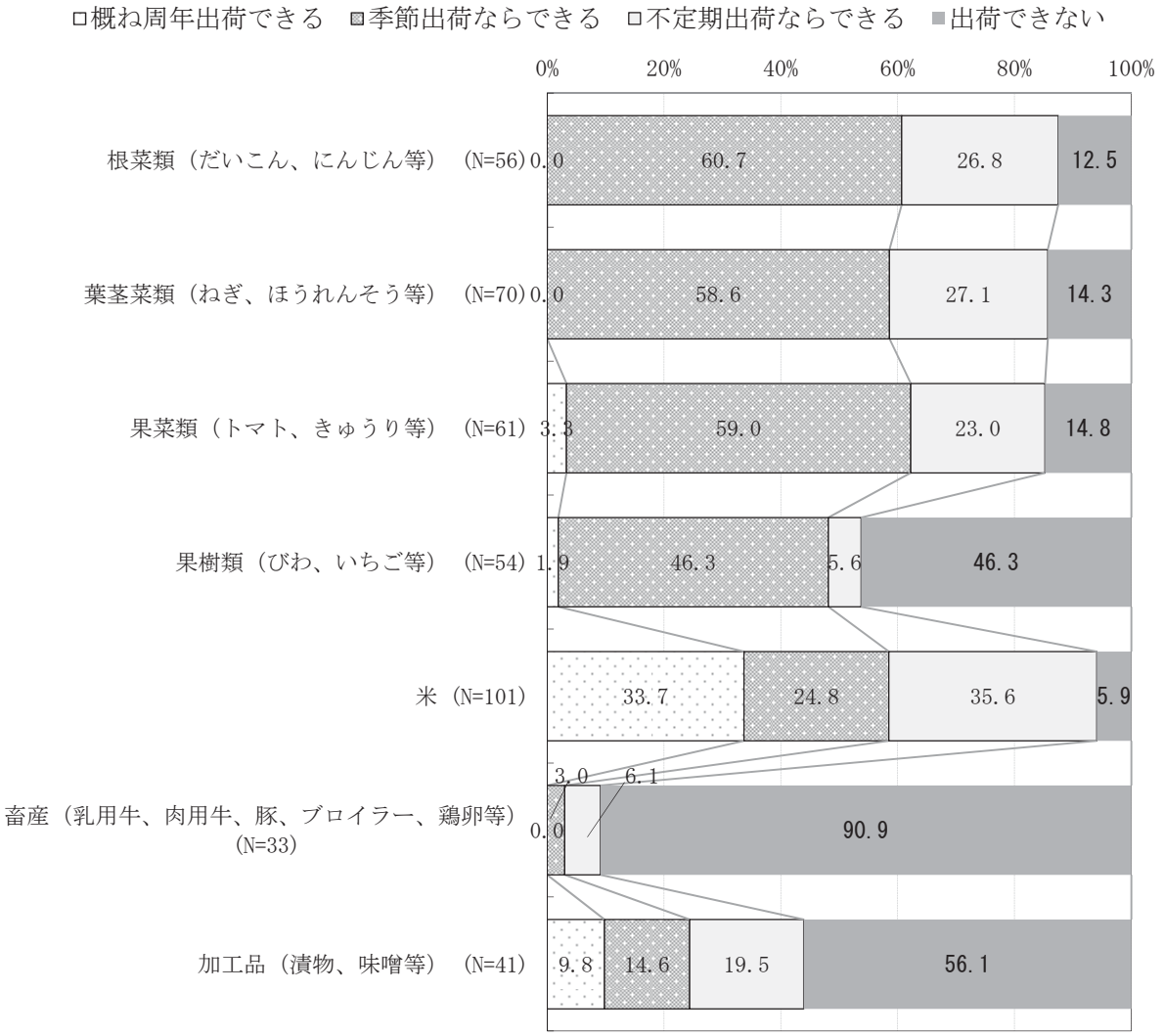
⑤ 出荷可能頻度 - 直売所

問 20　問 18 で「1.是非とも出荷したい」又は「2.条件次第で出荷したい」と回答された方にお伺いします。　作物別にどれくらいの頻度で出荷できますか。
当てはまるものをお答えください。

どれくらいの頻度で出荷できるかについては、各野菜についてそれぞれ「季節出荷ならできる」が回答者の 50%を超えていた。「果樹類（びわ、いちご等）も 46.3%が「季節出荷ならできる」としていた。「米」については「概ね周年出荷できる」が回答者の 33.7%に上り、米の出荷については可能であろうことが推測される。

「果菜類（トマト、きゅうり等)」と「果樹類（びわ、いちご等)」については「概ね周年出荷できる」と回答した人が僅かにいた。

図表 3-55　直売所への出荷可能頻度（MA）



図表 3-55　直売所への出荷可能頻度（MA）　-続き-

Ｎ表

	回答者数（N 値）	概ね周年出荷できる	季節出荷ならできる	不定期出荷ならできる	出荷できない
根菜類（だいこん、にんじん等）	56	0	34	15	7
葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等）	70	0	41	19	10
果菜類（トマト、きゅうり等）	61	2	36	14	9
果樹類（びわ、いちご等）	54	1	25	3	25
米	101	34	25	36	6
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	33	0	1	2	30
加工品（漬物、味噌等）	41	4	6	8	23

%表

	回答者数（N 値）	概ね周年出荷できる	季節出荷ならできる	不定期出荷ならできる	出荷できない
根菜類（だいこん、にんじん等）	56	0.0	60.7	26.8	12.5
葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等）	70	0.0	58.6	27.1	14.3
果菜類（トマト、きゅうり等）	61	3.3	59.0	23.0	14.8
果樹類（びわ、いちご等）	54	1.9	46.3	5.6	46.3
米	101	33.7	24.8	35.6	5.9
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	33	0.0	3.0	6.1	90.9
加工品（漬物、味噌等）	41	9.8	14.6	19.5	56.1

⑥ 出荷条件 - 直売所

問 21　問 18 で「2.条件次第で出荷したい」と回答された方にお伺いします。

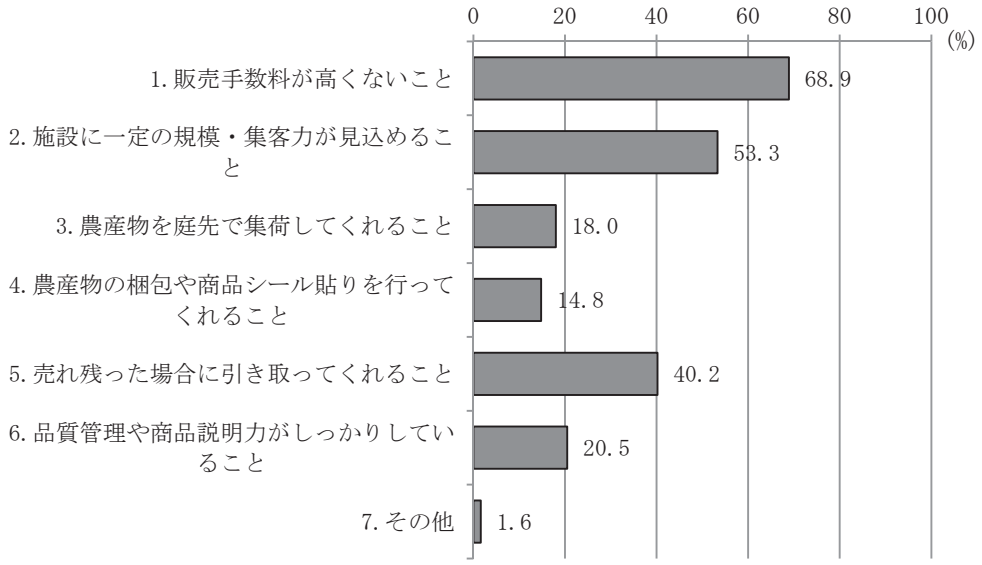
出荷にあたっての主な条件は何ですか。当てはまるものをお選びください。

直売所への出荷条件は、「販売手数料が高くないこと」が 68.9%と最も高く、次いで「施設に一定の規模・集客力が見込めること」が 53.3%となっており、農家は出荷の際にはコスト感や施設規模・集客性を重視していることが伺える。

また、「売れ残った場合に引き取ってくれること」は 40.2%、「農産物を庭先で集荷してくれること」が 18.0%となっており、出荷する農家に対しても利便性の高い仕組みが要求されていることが推測される。

回答者数は 122 人であったが、複数回答の選択数は 265 であったことから、平均して一人につき 2 つ以上の条件を挙げていることになる。

図表 3-56　直売所への出荷条件（MA）



	回答者数	%
1.販売手数料が高くないこと	84	68.9
2.施設に一定の規模・集客力が見込めること	65	53.3
3.農産物を庭先で集荷してくれること	22	18.0
4.農産物の梱包や商品シール貼りを行ってくれること	18	14.8
5.売れ残った場合に引き取ってくれること	49	40.2
6.品質管理や商品説明力がしっかりしていること	25	20.5
7.その他	2	1.6
回答者数(N 値)	122	100.0

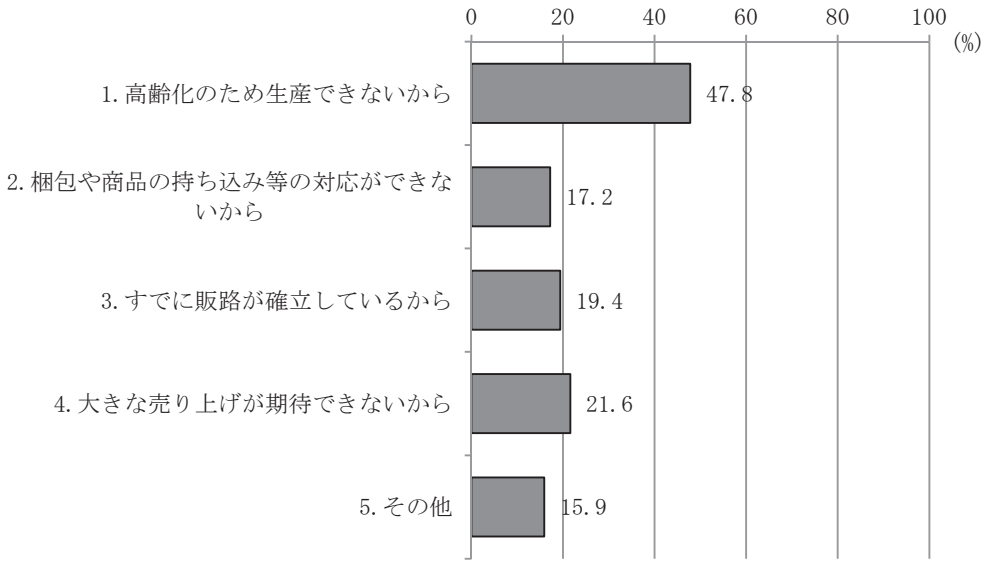
⑦ 出荷したくない理由 - 直売所

問 20　問 18 で「3. あまり出荷したいと思わない」又は「4. まったく出荷したいと思わない」と回答された方にお伺いします。　出荷したいと思わない理由は何ですか。当てはまるものをお答えください。

出荷したくない理由については、最も多かったのが「高齢化のため生産できないから」の 47.8%で、半数近くの人が回答している。

「大きな売り上げが期待できないから」が 21.6%、「すでに販路が確立しているから」が 19.4%、「梱包や商品の持ち込み等の対応ができないから」が 17.2%となっている。

図表 3-57　出荷したくない理由（MA）



	回答者数	%
1. 高齢化のため生産できないから	111	47.8
2. 梱包や商品の持ち込み等の対応ができないから	40	17.2
3. すでに販路が確立しているから	45	19.4
4. 大きな売り上げが期待できないから	50	21.6
5. その他	37	15.9
回答者数(N 値)	232	100.0

(5) 自由意見

自由意見を見ると、道の駅や直売所に関する意見が比較的多い。

近隣他市と異なり館山市は道の駅が少ないため、新たに作ってほしいという要望がある一方、だからこそ作るべきではないとの声や、箱物は作るべきではないとの意見が見受けられる。

直売所（市場）についても、設立してほしいとの意向がある程度存在するほか、他業種（水産・観光等）との連携についても視野にいれた意見があった。

図表 3-58　用地に関する意見（抜粋）

性別	年代	回答
男性	50 代	地産、地消をもっとアピールしてほしい！
男性	50 代	農産物販売所は既にあり、ある程度の収益を上げている。新たに施設を建設する必要性がない。その経費を、大規模化を希望する農業者への補助に使用すべきである。他市町での農産物直売所を見てもそれほど利益をあるとは見えない。一個人当りの収益は少ないと思われる。少量であっても必ず売れる農産物又は、品物がどのようなものが良いかの調査研究をすべきであり、箱物施設は不要である。
男性	50 代	直売所とするなら、運営組織、出荷者組織、店舗管理(店長)等それぞれの部門で良い人材を集める必要があり、準備期間が長くなると思います。特に、スーパーや直売所が周辺にありますので、共存するのも大変かと思います。
男性	50 代	安房郡市で市場を 1 ヶ所に統合するのが一番よいと考えられます。直売所の欠点は売れ残りと生産者の値下げ競走になる、物を出した当日以外は売れない。
男性	50 代	体験農園は、この用地の中で整備するのではなく、この用地を交通･情報ターミナルとして、近隣、周辺に農業者が、実施する体験農園へ誘導していくのがよいと思う。
男性	50 代	後継者及び後継者予定者に嫁がいない。専業農家では、親の高齢化と独身者では、農耕面積は少規模になってしまいます。それに少子化になります。農業に夢や希望がもてるようになっていく事を、地域館山市でも考えていただけたらと思います。
男性	50 代	委託か民間に任せる方向で進むべきと思う。
男性	50 代	直売所や道の駅は、その地域の特色を表し訪れる人々に満足を与えると同時に生産者等、供給する側にも大きな利益をもたらし、地域活性化の原動力になって欲しいと思います。館山にこれらの施設が出来ることは必要であり、今日まで出来ていないことが残念です。建設費用等、大変な投資となりますが、営利を目的とする事業ですから、是非実現して下さい。
男性	50 代	用地の活用が地域農業の活性化だけでなく、雇用の促進につながるような事も検討願いたい。
男性	50 代	箱物を建てるだけでは長続きしません。地域の特長を生した海と山の特色を生かす組み合せた観光施設を望む。滞在形の観光。

図表 3-58　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
男性	50 代	公設卸売市場用地として購入したが、経済情勢、取引状況の変化により、事業者が進出辞退した背景を検証し、現在必要とされている農業施設以外も視野に検討すべきである。地域農業活性化施設をつくる場合において、今後の農業経営方針及び農業従業者の指導･育成がなければ、施設を造る意味がない。地域農業活性化とは、誰を対象としているのか不明。農業従事者の高齢化及び減少をどのようにとらえているのか、現在の専業農家の戸数･農業経営の実態の検証ができていない。事業主体はだれか･施設の運営は、独立採算制が基本と思われるが？補助金を投入した場合、地域経済の活性化等への効果の検討は？直売所については、小規模な施設が多数あるが競合が懸念され、共存は可能か？当該地は、広域農道･国道等の利便性を考慮した利用の検討は？地域農業活性化に限らず、福祉施設(特別養護老人施設)の移設等は？他の地域での成功例等を参考に、多数のアドバイザーの意見で選択肢を具体化し、この地域の特性を生かした活性化策の策定を希望する。なお、リーマンショック、経済情勢の低迷、消費税増税、また、医師会病院の経営破たん、企業の館山市からの撤退等による固定資産税、法人税、市民税等の減収が見込まれる現状を踏まえ、補助金の投入は慎重にすべきであり、民間企業への賃貸･売却も選択肢に検討すべきである。
男性	50 代	観光客が来房して、色々な所を見物してから、館山市内の 1 ヶ所で海、山、陸の産物を購入でき、又、体験し楽しめ、生産者又はそれを提供する方々が潤う事が共有出来ればと思います。
女性	50 代	少量でも加工して販売出来る様な方法、手続き等の説明会があれば良いと思います。
女性	50 代	市民農園をつくって、安価で貸していただけたら最高だと思います。その時苗や肥料も用意していただき、季節にあった植つけができたらよいと思います。もちろん指導者もいたらいいと思います。
男性	60 代	用地(跡地)については、民間企業に売却すべきと思う。→施設を整備しても農業振興及び地域の活性化につながる可能性が極めて少ないと思われる為。
男性	60 代	付帯施設として、グリーンラインにある県の所有地を借りて、県北や勝浦等にある有料公認のパークゴルフ場を作り、子供から高齢者まで利用できる施設として、定期的に大会を行い、市、内外各地からの利用者を迎え入れる
男性	60 代	災害時に収容出来る施設をかねた館物で通常は、市民観光的農園を作ってはどうでしょうか？部屋は公民館的教室の貸し出し、料理教室等を行って人が集まるようにしてその中で地産農作物の販売につながるような考えはいかがでしょうか。人が集まる、人を集める方法を取りながら販売を拡大出来ればやりがいもあると思います。
男性	60 代	野菜など、家で消費できない分(キズ物含む)持ち込んで加工出来る所があればいいな
男性	60 代	館山産の加工所、体験できる活用が良いと思います。又、農業の活性化の為に、企業の参入していただき、農業ハウス等農園的な物で、農業の担い手の育成を図る事も重要と考える。給食等もありましたが、この用地で栽培して提供すれば良いと思います。
男性	60 代	田園地域の中にあることから、首都圏から農業体験などのできる施設、安い料金で一週間程度宿泊できる施設をつくり、春のいちご狩りとは別の農業を基本とした観光スポットとして活用して欲しい。
男性	60 代	周辺には、枇杷クラブ、ヒナの里、潮風王国等の有名な道の駅があり、これらの良い所を取り入れた総合的な施設になれば地理的にも中心となり集客も望めると思います。是非とも実現させてほしいです。

図表 3-58　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
男性	60 代	再度公設卸売市場設置希望。
男性	60 代	高齢化は庭先で生産は出来ても持って行く事が出来ません。集荷の車が、来る様になれば、高齢になっても野菜、果樹の生産の励みになると思います。
男性	60 代	元気な高齢者が半日でも作業出来るような施設や、寄り合いが出来コミュニケーションが図れるような場所
男性	60 代	農家の直売所の野菜等について、必ずしも安値とは思わない。スーパー価格との差もさほど無く、農家直売所の必要性を感じない。
男性	60 代	そこまで用地が確保できているなら、この時代にあった、コンピューターなど新しい機械を導入して新しい、市のシンボル的な市場(公設御売市場)をつくってほしい。時代のニーズに適合した新しい農業政策を考えてほしい。新鮮な野菜、果物ならもっと高く売れると思います。
男性	60 代	直売所も悪くはないが、一般的な直売ではまわりに何ヶ所があるので、何か特化したものが必要だと思う。出荷者は、館山市内限定
男性	60 代	民間主体の施設管理が望ましいので参入条件はゆるくしてほしい。
男性	60 代	いろいろな所に直売所はあるが、さほど興味をひかれない。完売とかはあまりなく、持ち越し商品など値下げ等多々見受けられる。(同じ商品が一時期に集中し、多量に出まわっているので、商品に付加価値をつける)
男性	60 代	農産物の持込み、管理、売れ残りの回収等を考えると生鮮野菜の持込は 10km 以内と思われる。私は残念ながらエリア外と思うので、私は自分のエリアで、クラインガルテンができればいいなと思っています。
男性	60 代	農産物の直売所に大量生産の人の産物が毎日の様に多く出荷されがちですか、少量生産でも出荷したい人も多いと思います(私もそうです)その様な人々のスペースも考えて作ってもらえたら出荷利用者も増えるのではないでしょうか。
男性	60 代	農業も基本的に個人事業ですので行政や素人があまり立ち入らないでほしいです。館山は農業と商業が共存していかなければならない土地だと思いますので地元の商人さんが困らない様な方向で進んでいってほしいと思います。
男性	60 代	税金のムダ使いを認識し、経営感覚を持って欲しい。
男性	60 代	道の駅がない、バスを入れて客の人数を増やして欲しい。富浦、三芳等南房総市に比べ館山は農業に対し、力が入っていない。私が 7 ヶ所直売所に生産物をおろしている数を、めぐみ館では 1 ヶ所で同じ量がはけている。
男性	60 代	館山農産物、漁産物朝市の設立。各個人が最初から 3 時間位 6 時→9 時、責任をもって売買したい。※販売を個人がして手数料をとらない事。※販売する人は市内スーパーの価格より低く、品質の良い物を必ず出す人を選定してほしい。◎販売価格を協定しない人◎
男性	60 代	館山市には、土のめぐみ館、枇杷倶楽部の様な場所がないので是非検討していただけたらと思います。
男性	60 代	近隣他市の様な道の駅が無いので、大型バスで来ても客の流し込みが受けられる規模の施設機能「畦の駅」を願います。
男性	60 代	公設卸市場必要と思っていますが市内地から外れているので、市内の中心部に考えてもらいたい。

図表 3-58　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
男性	60 代	若い人が農業で生活できるような農産物、販売などがうまくできるような人物の養成をし、意見の取り入れなどをしていくべきだと思います。できれば人も地産、地消をすべきだと思います。
男性	60 代	敷地内の整備について･農産品、海産品等を販売する「道の駅」はどうか？･併設としてリサイクルマーケットはどうか？･館山市は高齢者が多く、生涯現役者等を活用して施設の運営を行ってはどうか？ミニカフェをオープンして、店内をミニギャラリー、その他等を見せる、聴かせる場として集客、高齢者が集う場所としてはどうか？･取扱品は全て、個人からの出品としてはどうか？･市民農園を造り、農業経験者の管理運営としてはどうか？
男性	60 代	やめた方が良い。農業以外の他の物に利用した方が良いと思う。民間企業に土地を借した方が良いのでは？
男性	70 代	とにかく、少しでも人口減少を止めるような施策(農業だけでなく)実施してもらいたい
男性	70 代	①このアンケートは専業農家中心の様に思える。②農協、市役所、共、水田、畑、1 枚所有者に、農家の皆さん、農家の皆さんと言うがどうか…。
男性	70 代	私自身は老齢でもあり農地の委託も考慮中ではあるが、館山の農業に対し、その発展のためには、都市部の家族を対象とした観光農園を中心とした複合施設の充実が必要ではないかと考えます。そのために。①館山市内及び近隣の農業者の出品し易い環境づくり②館山市の全面的なバックアップ体制づくり③充実した宣伝体制づくり④継続できる計画制⑤畑地区をとおっての白浜への観光ルート、などで期待できる施設になると思われます。
男性	70 代	農家の高齢化対策を。後継者の育成。
男性	70 代	館山市の農業は温暖な気候と都市に近い地理的条件を活した都市近郊型農業として発展させて行かなければなりません。しかし、従事者の高齢化、後継者不足、そして農業機械への投資など問題が山積し、農業を離れる人も多く耕作放棄地も増加しています。景気の動向も思わしくない中で農業を目指す若者も増えていますが、農業で生活して行くためには、生産量を拡大させなくてはならず限界があります。この要因には、都市の消費者と作物をつなぐ販売ルートのお粗さがあげられます。市場出荷を中心にした販売から新たに消費者(店舗や個人)をつなぐ販売ルートの開拓が必要です。また、自然環境と立地条件を活した生産物の付加価値を高める研究もして行かなければなりません。これらのことは個人の努力では取り組みきれません。年々減少している農業従事者数や耕作面積を見れば明らかな現実です。市として農業の実態を把握し、農業の振興策を改めて検討していただきたい。
男性	70 代	市内、飲食店、宿泊施設･農家と連携し地産地消を強化すべく、加工･集荷･配送する拠点施設(たとえばカット野菜、商品開発･加工体験可能含)農産物直売所は主ではなく付帯機能としてあったほうがよい。
男性	70 代	1. 農産物加工販売 2. 乳製品(特色のある)
男性	70 代	若年層の意見を拝聴せよ。
女性	70 代	公設卸売市場用地が九重と遠いため、出荷等不便な事が多く、今の所利用は考えられません。

図表 3-58　用地に関する意見（抜粋）　-続き-

性別	年代	回答
女性	70 代	米は農協の供出米として出荷しています。もう少し農協より条件が良かったら出荷したいです。
女性	70 代	場所的に無理な仕事はしない方がよいと思う。直売所等は立地的に無理。又人口が少ないので、何かの工場又は売地の方が無難と思う
男性	80 代以上	道の駅や農産物の直売所が多すぎる。今少し地域的に組織の再編が必要
男性	80 代以上	クジャク園、ダチョウの林園を要望します。クジャク、ダチョウ類は斡旋しますから。稲村城跡地に櫻を植え客を呼ぶ。地域活性化、観光振興や名産品開発、日本そば(あさりと山菜)を使ったそば、まんじうで観光客のメニューにしたいと思う。稲村ギャラリーと名付けて写真、書道、画展等を造る。料理や生活関連の書籍出版等にも良い場所等を。
男性	80 代以上	館山市には南房パラダイス、ポピー園の様な観賞したり、植物(美しい花)を購入したりする施設はありますが、植物を育てる、働くこと、汗を流す喜びを知るための施設が一部の限られた農家に依存している様に思われます。汗を流して小動物と親しむ様な体験型の施設が欲しいと思います。
男性	80 代以上	公設卸売市場が出来る事は、農民にかぎらず、一般市民の人達にとって非常に有難いことと思います。
男性	80 代以上	域内の生産物を一堂に会さなければ意味がない、漁協が何故入らない。加工販売に重点を置く事。
男性	80 代以上	問 17 の選択項目は、いろいろなところですでに実施しているものなので日本でめずらしい事業で地域性があり、地域の活性化につながる事柄を事業として行ってほしいと思います。
男性	80 代以上	道の駅として公設市場跡地は利用することが一番有効であると思います。
女性	80 代以上	せっかくの道の駅の計画ですが、国道ぞいでなく脇道へ入ります。集客の見通しはありますか？首都圏から近いという、地の利を活かしてリピーターとして通ってもらえる施設になればと思います。高齢の母に変わって首都県から介護に通っている娘が代ってお答えしました。
女性	80 代以上	1.道の駅をイメージしております。2.年寄り(老婆)の販売風景(例：勝浦の朝市)、販売員 3～4 名、交代制(年寄軒下の露天コーナー)(高齢者の健康増進に寄与)年寄りは、農作物の作付ほかノウハウが豊富。3.レストランは、窓からの風景を楽しめるように。4.地域の農産物はもとより、海産物の販売が良し。
女性	80 代以上	作物を販売する所が少ないので、ぜひ市場を整備していただきたい。

５　類似設問の比較

(1) 拠点に想定される主な機能について

【市民アンケート問 12（72 頁）、農家アンケート問 16（104 頁）】

直売所、レストラン、加工場、体験農園のいずれも必要だと考える人の割合の方が多く、市民と農家で考え方に大きな違いは見られなかった。

直売所については、「必要である」と回答した市民は 54.1%、農家は 50.4%だった。「必要ではない」と回答した市民は 22.8%、農家は 15.7%だった。「絶対必要である」と回答した市民と農家の割合は、市民が 22.8%、農家が 20.4%となっており、それぞれの他の３つの機能についての回答と比べるとやや高い。

レストランについては、「必要である」と回答した市民は 47.7%、農家は 43.5%だった。「必要ではない」と回答した市民は 25.0%、農家は 18.2%だった。

加工場については、「必要である」と回答した市民は 47.5%、農家は 44.4%だった。「必要ではない」と回答した市民は 22.2%、農家は 17.7%だった。

体験農園については、「必要である」と回答した市民は 45.9%、農家は 40.4%だった。「必要ではない」と回答した市民は 24.7%、農家は 18.4%だった。

「どちらともいえない」と回答した人はいずれも 20%前後の割合であり、市民と農家で回答に大きな違いは見られなかったが、市民は加工場について 24.0%、農家は体験農園について 23.8%と、やや高い数値となっている。

農家は無回答だった人の数が市民よりも多い。

図表 3-59　回答の比較（市民アンケート問 12・農家アンケート問 16）

・館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所

	市民(N=329)			農家(N=663)		
1. 絶対必要である	75	22.8%	計 54.1%	135	20.4%	計 50.4%
2. どちらかというと必要である	103	31.3%		199	30.0%	
3. どちらともいえない	58	17.6%	---	124	18.7%	---
4. あまり必要ではない	39	11.9%	計 22.8%	67	10.1%	計 15.7%
5. 必要ない	36	10.9%		37	5.6%	
無回答	18	5.5%	---	101	15.2%	---

・館山産の野菜が食べられる地産地消レストラン

	市民(N=329)			農家(N=663)		
1. 絶対必要である	51	15.5%	計 47.7%	90	13.6%	計 43.5%
2. どちらかというと必要である	106	32.2%		198	29.9%	
3. どちらともいえない	69	21.0%	---	142	21.4%	---
4. あまり必要ではない	42	12.8%	計 25.0%	77	11.6%	計 18.2%
5. 必要ない	40	12.2%		44	6.6%	
無回答	21	6.4%	---	112	16.9%	---

・館山産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場

	市民(N=329)			農家(N=663)		
1. 絶対必要である	41	12.5%	計 47.5%	102	15.4%	計 44.4%
2. どちらかというと必要である	115	35.0%		192	29.0%	
3. どちらともいえない	79	24.0%	---	137	20.7%	---
4. あまり必要ではない	39	11.9%	計 22.2%	76	11.5%	計 17.7%
5. 必要ない	34	10.3%		41	6.2%	
無回答	21	6.4%	---	115	17.3%	---

・花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園

	市民(N=329)			農家(N=663)		
1. 絶対必要である	42	12.8%	計 45.9%	88	13.3%	計 40.4%
2. どちらかというと必要である	109	33.1%		180	27.1%	
3. どちらともいえない	71	21.6%	---	158	23.8%	---
4. あまり必要ではない	42	12.8%	計 24.7%	84	12.7%	計 18.4%
5. 必要ない	39	11.9%		38	5.7%	
無回答	26	7.9%	---	115	17.3%	---

(2) 興味のある施設【観光客アンケート問 8-1（52 頁）】／附帯機能で必要と思うもの【市民アンケート問 13（74 頁）、農家アンケート問 17（106 頁）】

興味がある/必要と思う施設（機能）で共通しているものは「館山産農産物の販売」、「館山市内の特産品の販売」で、観光客、市民、農家のいずれの回答も高い割合となっている。

観光客と市民は回答傾向がやや近く、「フードコート方式の地産地消レストラン」や「館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋」、「家族やペットと一日中遊べる大きな公園」へのニーズが高い。また、観光客は「バーベキューやキャンプが楽しめる施設」、「雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）」、「菜の花、ひまわり等の花摘み園」に興味がある。市民は比較的「ガーデニング用等の種苗の販売」や「収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク」へのニーズがある。

農家は「農産物の収穫体験ができる農園」や「フードコート方式の地産地消レストラン」等へのニーズがあるものの、設問の回答者数が 505 人と、農家アンケート全体の回答者数の 663 人と比べてやや少ない。

図表 3-60　回答の比較

（観光客アンケート問 8-1・市民アンケート問 13・農家アンケート問 17）

	観光客 (N=363)		市民 (N=311)		農家 (N=505)	
1. 館山産農産物の販売	192	52.9%	198	60.2%	289	43.6%
2. 館山市内の特産品の販売	158	43.5%	156	47.4%	239	36.0%
3. ガーデニング用等の種苗の販売	40	11.0%	83	25.2%	87	13.1%
4. 菜の花、ひまわり等の花摘み園	80	22.0%	37	11.2%	78	11.8%
5. 農産物の収穫体験ができる農園	70	19.3%	81	24.6%	152	22.9%
6. 市民農園	15	4.1%	25	7.6%	64	9.7%
7. 収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク	---	---	77	23.4%	71	10.7%
8. 農産物の加工体験（惣菜やスイーツ等）ができる施設	59	16.3%	58	17.6%	92	13.9%
9. フードコート方式の地産地消レストラン	204	56.2%	107	32.5%	132	19.9%
10. 館山産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり屋	84	21.8%	46	14.0%	90	13.6%
11. 館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋	167	46.0%	108	32.8%	110	16.6%
12. 家族やペットと一日中遊べる大きな公園	84	23.1%	81	24.6%	68	10.3%
13. バーベキューやキャンプが楽しめる施設	127	35.0%	82	24.9%	82	12.4%
14. ポニーやロバ等の小動物園	66	18.2%	33	10.0%	34	5.1%
15. 雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）	131	36.1%	77	23.4%	107	16.1%
16. 特に必要ない	26	7.2%	35	10.6%	75	11.3%

第４章　ヒアリング調査結果

第４章　ヒアリング調査結果

１　ヒアリング調査の概要

(1) 目的

館山市内外の農業事業・観光事業・行政関係部署等の団体及び関係者と本調査研究委員会委員を対象にヒアリング調査を行い、拠点整備の方向性について、参画意向や意見、拠点に対する考え方等を聞き取ることで公設卸売市場用地（跡地）の拠点整備の方向性のあり方を検討する際の基礎資料とする。

(2) 調査対象

団体・事業者名等	調査数	備考
調査研究委員会各委員	６件	委員長以外の委員
市内直売所	２件	
市内農家	５件	体験農業・酪農・花卉・畜産・果樹の各業種に従事する方
市内観光事業者	１件	
市内宿泊事業者	１件	
市給食センター	１件	
市観光協会	１件	
その他（市場や用地近辺の関係者等）	４件	
市外農業関係団体	１件	
計	２２件	

(3) 調査項目

・用地の方向性に関する考え方

・用地の運営に関する考え方

・参画意向について

・行政への要望

など

(4) 調査時期

平成２４年６月～１２月

２　ヒアリング調査結果

(1) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・千葉県庁農林水産部の出先機関で、安房地域の農業振興を図るため、企画振興・改良普及・農地等の基盤整備をつかさどっている。

用地の整備について

・魚釣りや果樹狩りスポット、地元民しか知らないおいしい飲食店など、市販の観光ガイドブックに載っていない農家等の情報を集約して発信する場所があれば、観光客の引き寄せ効果があるのではないかと考える。

その他

・直売所そのものや、直売所に携わる組織の人たちの「いかに館山市や直売所組織を盛り上げていくか」という意識が非常に大事だと考える。直売所組織の活動に参加する人たちは「朝は直売所に農産物を持参、夕方は回収する」だけでなく、直売所を盛り上げるために収穫祭やＰＲ等の提案をしたり、みんなで「何を作ろう」という姿勢を持ったりすることが重要である。

(2) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・酪農業を営み、平成 16 年 7 月に会社化し、取締役に就任した。南房総みるく農協に全量出荷しており、この組合の女性部に在籍している。
・昔から、乳牛の飼料となる草作りを行っている。
・「アイスクリーム等を作ったらどうか」という声はよくかけてもらうが、近隣ですでにやっている方がいるので、新しくアイスクリームを作る気はない。酪農体験についても、同様である。経営規模も現状維持でいきたいと考えている。

用地の整備について

・館山市内には海産物のレストランは多くあるが、農産物を使用した地産地消レストランはない。また、「地産地消レストラン＝農家のおばちゃんのお惣菜」ではなく、イタリアンやフレンチと言った切り口もあると思う。館山市出身の料理研究家川上文代氏もいるので、彼女に協力してもらうのもよいと考える。
・地産地消レストランだけでなく、花の摘み取り体験や、花卉の販売もよいと考える。
・観光バスツアーの受け入れしか行っていない飲食店もあるようだが、地元の人からも愛されるような施設でないと、悲しいと考える。観光客受けを考えるのも大事であるが、老人会の集まり等で気楽に立ち寄れる場所を作ることが望ましい。

(3) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・安房地区の指導農業士会員は 26 名程度で、そのうち市内の会員は 6 名となっている。

用地の整備について

・直売所は既に市内にたくさんあるので、観光客をメインターゲットとしなければ客の取り合いとなってしまう。ただ、直売所には高齢者が多く出荷しているので、10～20 年後を考えると直売所の品ぞろえはどんどん悪くなるだろうし、その穴埋めのために市場から仕入れることとなれば本末転倒となるだろう。夏野菜も少ないので、直売所の品ぞろえやボリュームには不安がある。
・直売所に卸している農家の多くは兼業農家で、専業農家（篤農家）はあまりいない。それは、直売所に少量だけ持っていくことがとても面倒だからである。集荷・配送システムがきちんとしていれば、協力してくれる農家がかなりでてくるのではと思う。
・市民農園であれば、準備段階でそこまでお金はかからないだろうし、定期的に都会から観光客が来てくれるので、ホテル等への波及効果も見込めるのではないかと考える。大きな建物にはそれなりの資金が必要となってくる上にその分の収益をあげなくてはならないので、あまりよくない。

その他

・農協出荷では規格品のみの取り扱いだが、積極的に B 級品を集めたり、集荷・配達等の業務を担ってくれたりするようになれば、館山市の地産地消が大きく進むのではないかと考える。
・レタスはサラダバーには欠かせない品目なので、レタス農家に出荷してもらえることになれば、地産地消レストランとしては大きな武器になるだろう。

(4) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・直売所「JA グリーン」の顧客は市民が中心で、経営内容は悪くない。冬場は年間 10 万人訪れるいちご狩りの観光客を取り込んで行きたいと考えている。なお、「JA グリーン」は直売所連絡協議会に加入している。
・集荷場は野菜 8 割、花・果樹 2 割の集荷構成で、全量市場出荷している。規格品しか扱っておらず、規格外品は直売所や、丸中市場に持ち込んでおり、販路が不足している組合員は少ないと考えられる。

用地の整備について

・既に多くの直売所が存在する中で、直売所を中心とした整備では、顧客確保、出荷者確保の両面で競合することになる。また、127 号道路と比較すると、交通量は少なく、物売り施設としては存立が難しいと考える。
・地産地消レストラン等は有望だと考える。海鮮系のレストランは市内に多く存在するが、野菜等を活用したレストランはあまり存在しない。
・観光いちご園は 1 月～5 月のゴールデン・ウィークまで開設している。個人客は午前中、団体客は午後の利用が多いが、こうした観光客をレストランに取り込んで行くというやり方は有望だと考える。
・館山市は花摘み園がないことから、なばな等の花摘み園も有望だと考える。
・銀座のソニービルの前で PR をする等、PR 活動に力を入れてきた成果があがり、西岬のひまわりは、全国的にもトップブランドになった。ここでひまわりの PR・販売が出来ると良い。
・ひまわり、ストック、ポピーなどは全て施設栽培で、対象用地は霜が降りることから生産活用はできないが、景観作物としてひまわりを植えるなど、花の PR 拠点にしてはどうかと考える。富山ではかかし祭りをやっているが、地域を PR する拠点になれば良いと思う。
・JA グリーンでは先日、とうもろこし祭りをやって、2 日間で 3,000 本のとうもろこしを売り切った。こうした旬の農産物を PR・販売する拠点になると良い。

(5) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・館山市農産物直売所連絡協議会には 11 店舗の直売所が会員になっている。
・「南房総なのはな村」の出荷者は 70～80 名程度の登録があるが、実質は 30～40 名程度が出荷している。

用地の整備について

・公設卸売市場の跡地については、協議会でも話題としてはあがっている。もしそこに直売所ができるとすれば競合にならざるを得ない。しかし、あまり規模の大きくない店舗の主な客層は観光客ではないため、そこまでバッティングする可能性はないかもしれない。
・会員の直売所を跡地に集約するということは、それぞれのオーナーの意向もあるので不可能だと考える。
・直売所を設けるのであれば、飲食店＋市内直売所の本部のような機能を持たせ、それぞれの農家の農業経営改善に貢献してほしい。
・地産地消レストランはテナント式にいくつかの店舗を入れるのがよいのではないか。他にも花や果物の摘み取り等、観光客に長く滞在してもらえるような設備が必要だと考える。また、菜の花やひまわり等の景観作物も、集客要素となりうる。
・近年は米粉商品の話題が多いので、米の加工場を設けて米粉麺等は作れないだろうか。そしてそれらをメニュー化し、地産地消レストランで提供できるとよい。
・跡地の付近にある川上種苗との連携ははかれないだろうか。ガーデニング等の種苗ニーズもあるのではないかと考える。

(6) 調査研究委員会 委員

事業の概要・現状など

・観光協会に所属しているのは、旅館・民宿が約 40 件、ペンションが約 20 件である。
・観光案内所、宿泊の斡旋、宣伝や広報、マスコミ対応等の公益事業を行ってきたが、組織の存続のために昨年に一般社団法人化し、平成 25 年度以降は収益事業にも取り組んでいく方針である。
・公の法人なので、個々の施設運営の妨げにならないように配慮する必要があり、あまり先進的なことに取り組んでよいのか躊躇するときもある。
・農産物は、大半の旅館が卸売市場、もしくは市内の青果店から仕入れているのではないか。民宿等は道の駅等の直売所で購入していると思われる。

用地の整備について

・農産物を旅館等に卸す機能を持たせるならば、メインとなる大きなホテルを押さえることが重要である。これらのホテルのオーナーに訴えかけるとよいと考える。
・館山市内には果樹農家（いちご・びわ・パッションフルーツ等）も多くいるので、これらを集約できる場所があるとよいと考える。
・加工場がないというのは非常にもったいない。ジュースやピューレを作ることができるとよい。加工場やレストランができると、旅行会社と提携して大型バスを呼ぶこともできる。
・フードコート方式の地産地消レストランは周辺にないので、よいのではないか。トイレ、駐車場、道の入りやすさがあり、公設民営でいつでも簡単に畳めるような施設がよいと考える。
・農業体験は、南房総市や千倉方面にいかないとできない。農業体験に関する問い合わせがあるとそちらへ誘導しているのが現状で、もったいないと感じる。
・この跡地に面する道路は、鋸南町にある佐久間ダム（ソメイヨシノや河津桜の名所）へ通じる道である。ただ、この道路沿いには飲食店がないので、地産地消レストランの設置はかなり狙い目ではないかと考える。

その他

・温泉組合では、タンクローリーを使用して、それぞれのお風呂にお湯配りをしている。農産物を旅館に使用してもらうならば、このような配送機能がないと市場に取りにいく手間がかなりかかり、地産地消の取り組みには貢献しづらい。

(7) 市内 直売所

事業の概要・現状など

・当直売所の出荷者は、他の直売所の出荷も行っている。生産者によってはいくつも直売所に出荷するあまり、配達に時間がかかってしまい、生産がおろそかになっている例も見られる。
・震災によって売上は大きく落ち込んだが、その後も回復していない状況にある。現在の手数料率は20%であるが、消費税がアップするとなると、販売価格に転化しにくく、直売所経営はさらに厳しくなる。

用地の整備について

・拠点施設では、地場食材を使った、富楽里のようなレストランがあるといいと思う。
・拠点施設に新たな直売所が出来るとなると、競合はさらに激化することから、相当しっかりしたやり方をしないと生き残れない。
・また、潮風王国のようにテナント方式をとるのか、現在ある複数の直売所が一緒になって大型直売所として運営するのか、拠点施設運営方法が問題である。また一緒になる場合、誰がトップになるのかも課題になる。
・地域住民だけを顧客としていても先行きは見えないことから、拠点施設においては観光客も呼び込む必要があると考える。

(8) 市内 直売所

事業の概要・現状など

・客層は市内とその他で半々くらい。
・週末の方が混む。
・観光バスも入れる立地。
・物を持ってくる農家は 20 戸に満たない。好きなときに野菜を持ってきてもらう。

用地の利活用について

○直売所
・もう１つ直売所ができるだけでは潰し合いになるだろう。
・館山特選野菜として他の直売所から１品目選んで売ったり、毎月のチャンピオンのようなものを決めたりするなど、農家が上を目指せる仕組みや、新規就農応援コーナーを作るなど民間ができないことをやってくれる施設が良いのではないか。
・参画は一存では決められない。事業を管理するだけではあまり魅力は無い。予算組みなどやりたいことをやらせてもらったり、他とは違うことをしていくうえで考えを出したりということであれば、興味は沸く。
・地元の施設に食材を提供する一つの拠点になるのはありだと思う。

その他

・直売所に持ち込むことで、農家の安定した経営を期待できることは大事。市場では一番大きいところの値段に左右されるが、直売所は「農家の名前」で売れる。
・規格外品は生産者がプロ意識のために売らないことがある。加工に出すことはあるかもしれないが、集荷の問題がある。
・直売所の統合の必要性は、まだそこまでの段階ではないと考える。

(9) 市内 体験農業事業者

事業の概要・現状など

・都会からの観光客が多いため、家にいながら都会の空気を味わえることが楽しい。
・家族等の個人客が多いが、学校等、団体客も受け付けている。

用地の整備について

・直売所は市内にすでにたくさんあるので、普通の直売所では立ち行かない。
・館山市内には加工場がなく、たけのこの缶詰を作る際、枇杷倶楽部まで行ったことがある。直売所がメインの施設ではなく、加工や加工体験ができる施設を作ったらどうか。大豆生産者は何名か知っているので、味噌や豆腐を作り、近隣の宿泊施設等で使用してもらうとよい。
・修学旅行等のプログラムのひとつに組み込めるような大きな加工施設があるとよい。
・体験加工場を設けるとすれば、従業員となってくれそうな人を呼びかけることはできる。

その他

・館山市内には伝統的な料理や加工の技術を持っている女性がかなりいる。しかし、売れるかどうかわからない不安があり、なかなか販売にまで至ることが難しく、組織的な運営はあまり進んでいないように感じる。今後も、今以上に農業系のイベント等で販売し、回数を重ねることにより、消費者とのコミュニケーションを深め若年層への技術の継承ができるよう、組織的な広がりができたらいいと考えている。

(10) 市内 酪農農家

事業の概要・現状など

・酪農のかたわら、学校関係の団体客がメインの酪農体験やそのほかの事業を経営している。
・客層は幅広く、リピーターも多い。ドライブやツーリングが目的で館山に来訪するといった農業にあまり関心のない人たちも多いが、当方への訪問を通じて農業に関心を持つようになる人もいる。
・広報活動として、ホームページ以外に、全国的なネットワークに積極的に参加したり、ホテルや飲食店にパンフレットを置かせてもらったりしている。ほかの飲食店と競合することが少ないため、快くおいてくれるお店が多い。
・場所、規模共に現状維持でいきたい。地域にとけ込み、人にとけ込み、動植物との共生を重視した環境にやさしい牧場を目指している。

用地の整備について

・房州のお米は大変おいしいのに、ごはんのおいしさを売りにした飲食店は少ないように感じる。用地の周辺は水田が広がっている上にライスセンターも付近にあるので、おいしい甘くて粘り気のあるごはんを看板にした地産地消レストランがよいと考える。そうすれば、景観と食べ物がマッチする上に周辺の飲食店とも品目が重複しない。
・２号店を出店する気はないが、ソフトクリームや加工品程度であれば、参画するのもよいと考える。あくまでメインは現在の事業である。
・せっかく何かを作るのであれば、全国から視察が来るようなものがよいと考える。例えば、太陽光を利用する等の環境に配慮した建物がよいのではないか。また、この田園風景に似合うような、ポニーやロバ等の動物を育てたり、ボンネットバスをシャトルバスとして走らせたりする等、牧歌的な雰囲気を演出すれば、観光客も喜ぶのではないかと考える。

(11) 市内 花卉農家

事業の概要・現状など

・契約販売が半分。年間契約なので一年中出荷している。
・食用にも着目し、他作物と併せて加工品（ペースト）の開発・販売に取り組んでいる。
加工技術の向上に力を入れている。

用地の利活用について

・行政は企業的な発想より、地域のみんなが地元の農産物をどうするか考えることにより第１次産業を活性化するためのレール作りと広報・宣伝が重要だと考える。
・取組から考えれば、加工所が望ましい。
〇加工所
・ここまでやれば事業の規模に応じて拡張できる、というものが必要。
・事前に地元との繋がりをもったうえで新メニューの開発などをし、ここに来ないと買えないものを用意する。数軒で道の駅などに置く１つのレシピを作成し、自分の店では人に教えないレシピでつくるのはどうだろうか。教えないレシピと共有するレシピをつくることで、生産の分散と全体の活性化になる。
〇直売所
・加工所があれば売れ残りをすぐに加工に持っていけるメリットがある。
・ソフトクリームなどは売れるだろうし、加工の過程をガラス張りで見せることもできる。
〇運営形態
・行政が整備して民間が運営するしかないだろう。行政が携わることでビジネスでなく活性化という観点になり、運用がきちんとできれば農家のためになる。
・運営主体は地元の人ならばよい。あくまで「農家の活性化、農家への利益の還元」という目的からブレなければよい。金儲けが目的になると話が変わってしまう。

その他

・捨てるものや出荷できないものを利用し、利益に還元することが重要。
・規格外（不揃い）品は加工して売ることができる。売れ残りを回収する手間が無くなるし、捨てるものを利用できる。規格品の売れ行きに影響しない。
・地域の農業が元気で、花や海の幸もあるから人が来る。道の駅があるから人が来るのではない。本来はそちらの整備の方が必要。箱モノに一生懸命になるだけではいけない。
・ターゲットは戦略的に考える必要がある。地元・観光・業務用に何%、というような比率を入れなければならない。
・館山市がバックにいるだけで営業などの効果も全然違ってくる。行政のサポートが必要。

(12) 市内 畜産農家

事業の概要・現状など

・豚の畜産を行っている。
・販売先は給食センター（地産地消）・ホテル（地産地消）・市場など。
・仔豚の販売をするようにシステムを変えたのは、飼料の高騰のため。

用地の利活用について

・行政の宣伝が大事であるが、テレビ等の宣伝をうまく利用できれば客を呼び込めるだろうと思う。
・行政が始めたことに対し、参加者が長く続けていくことができるかどうかが重要。
〇地産地消レストラン
・肉の提供をすることは可能。やるならばヒット（目玉）商品のようなものが欲しい。
〇直売所
・直売所は野菜が重要だと思うので１年間野菜が集まると良いと思う。
・肉を並べるなら、ケースが必要となり、保健所の指導も必要。
・直売所で売るものは、商売なので値段設定の指導が特に必要。
〇加工所
・肉の加工はコストの問題だ。なかなか館山で作ってくれる人はいないようだ。

その他

・利益を追求すれば消費者は安い方へ行ってしまう。
・行政が地産地消を推進するなら、私達の努力も必要だが、行政の紹介・後押しも重要だと考える。
・アンテナショップのような、発信して買ってもらえるようなものがもっとあれば良いと思う。

(13) 市内 果樹農家

事業の概要・現状など

・イチゴ・パッションフルーツ等の作物を作っている。
・東京のレストランへの出荷や、業務用の出荷などをしている。

用地の利活用について

・いかに人を呼ぶか。建物を整備するとしても、市内を気にしていると売上は取れない。市民が 5 万人をきっており既に商圏がパンクしている。
・あくまで例だが、大学の授業の一環として経営させるなどの話題性が必要。他の真似できない、かつ永続性のあるものが重要。

○果樹園
・単一品目では時季の問題が生じる。数品目でローテーションさせるとしても、その品目ごとの専門家が必要となるため、無理ではないかと思う。

○直売所
・拠点の機能として無い訳にはいかないというのはある。
・立地として、市内では勤め帰りの人くらいしか寄らないのではないか。やはり市の外の人を狙うべきでは。

○地産地消レストラン
・成功すれば市場に出せない商品のカバーをすることができるという点ではいいだろうが、難しいのではないか。集客、集荷の問題がある。
・契約販売であれば作ってくれる人は出てくるだろう。やるならば果物の提供は可能。
・定期的なルート集荷システムがあれば参加する人は増えるのではないか。
・やろうと思えば何でも揃うという実力は館山にあるだろう。（小規模多品目）
・品質の基準を厳しくすればするほど、話に加われない人が出てくる。小規模農家は切り捨てなければならなくなる。小規模の農家は限界まで農薬を使わないとやっていけない。

○レストハウス
・地図上で見れば稲は館山の中心である。気軽に泊まれる旅籠屋（チェーン店）のような形態のものが道の駅に付属していれば、そこを出発点として行って帰ってこられる。

○運営主体
・農業に携わる人間でない人が経営すべきではないか。作り手の思いと、消費者が求めているものには温度差がある。消費者との間で利益を考えられ、マネジメントができる人、情で動かないタイプであることが重要。商人を取り込むべきではないか。

・川上種苗さんと一体化できれば国道から直に見えるから良いかもしれない。今の状況ではおどやもあるので用地が見えにくい。釣具店のような専門店には一般の人が入りにくいと感じるのと同様に種苗店には入りにくい。一般の人が楽に入れれば川上さんも良いだろうし、川上さんは農家の顔もよく知っている。有名・有力な一農家がやるよりずっといい。間を種苗店が取り持ってくれれば農家も安心するのではないか。

その他

・ナバナなどで館山ブランドの品種を作るというのはどうか。
・館山市には収穫した農産物を料理する場がない。体験農業でも指導料などのお金を取るものは営利目的と見なされ公民館が使えない。調理場を兼ねた加工場も必要ではないか。
・加工をする場合、果たしてスーパーマーケットのような鮮度落ち加工のような形態で通用するのか。夕方の売れ残りではなく、初めから加工に回すべき。
・ソルゴーを育ててグリーンカーテンの迷路を作れば親子連れは必ず参加するのではないか。1,000㎡もあれば大きいものが作れる。

(14) 市内 観光事業者

事業の概要・現状など

・バス事業を行っている。観光事業としては、貸切観光バスと、ツアー。
・体験観光として、館山の客を観光地に連れていく。行先は箱根、伊豆、福島、京都など。
南房総を訪れる客は多くが東京からのツアー。貸切はあまりない。
・各地点の滞在はトイレ休憩・買い物を含めて 20 分前後。
・館山に来る観光客は、寿司・魚関係を好む。宿泊客は千倉・白浜方面に流れることが多い。

用地の利活用について

・客のニーズとしては、地産地消系や道の駅は喜ばれ、ドライブインはあまり喜ばれない。
・体験ものを行うなら、都内の小学校が使ってくれるのではないか。どこかの学校が寄れば、
広まっていくだろう。
・「ここにしかないもの」が重要になる。
・ツアー等で稲に寄ることは可能だろう。寄ったあと三芳から富浦に抜けることができる。白浜等
の出発想定点から 30 分～1 時間で着いてしまうが、停めると無駄ということもない。
〇道の駅
・近場の枇杷倶楽部・富楽里が全国的に見ても 1 位 2 位を争うほどいいものだから、厳しいのでは
ないか。道楽園や三芳の雛の里も近くにある。
・大型バスが入れる駐車場が整備されていれば、春のイチゴ狩りなどで寄る可能性はある。
〇バス発着場構想
・あればあるでありがたい。路線が無いので。
〇おにぎりやソフトクリーム
・バスツアーの休憩の際ソフトクリームを買う人は多い。地域のものがあるといいのでは。
〇レストラン
・観光バスを乗り入れることはありうる。いずれにしろ駐車スペースが必要。
・バイキング形式は学校関係や家族連れに良い。観光バスの場合、複数団体と食事どきが重なり時
間がかかるということから、普通の所に変えてくれという要望がでることがある。

その他

・観光客は基本的に帰りに物を買う。日帰りであれば行きに買ってもらうこともできる。
・富浦に寄り三芳を経由するルートだと、そこで買うというイメージが強くなる。
・バラ売り（1 個）がいいという客がいる。大きなものよりも人気になることがある。
・オリジナルの味付けの漬物は人気。菜の花漬けや、ナバナそのものも人気である。

(15) 市内 宿泊事業者

事業の概要・現状など

・この時期（晩夏～初秋）は学生などの団体がメイン。合宿や部活などで来ているのだろう。
・仕入れはふれあい市場やおどやから。メニューとの兼ね合いで取り寄せはあまりしない。米は南房総市を含む農家からも買っているが、基本は市内から仕入れている。
・メニューは大方決めておくが確定はさせない。当日の状況や客の予定を見て変える。
・地酒が飲みたいと言われるが、地元で醸造しているところがあまりない。こだわったものを提供する必要があるが、難しい。

用地の利活用について

・売り場や駐車場の面積などを考慮して、一体的なものを考えるべきではないか。
・市として力があるならば新たに施設を作るのも手だが、力がないなら施設を分散させるのはどうかと思う。渚の駅などの有効活用・整備はできているのか。
・館山を訪れる人は海産物を目的にすることが多いと感じる。海を利用したものがあればよいのではないか。

〇直売所（仕入れなど）
・野菜の仕入れは時間との戦いになるので、近場からになる。地元の農家からは買えない。持って来てもらうならよいが、少しの注文では売る側も動けないだろう。
・仕入れ形態はきゅうり数本に大根数本、という形。１箱丸ごと買う、ということはほとんどない。

その他

・渚の駅、南房パラダイスなどせっかくある設備を活用しないまま稲に新しい施設を作ることに疑問を感じる。
・人をどう集めるかということを考えなければならない。たとえ館山市を通過するだけでもそれはそれで大事だ。人の流れがあるということはすなわちビジネスチャンスである。
・給食センターなら可能かもしれないが、民間では「イチゴが出来たからイチゴを使ってデザートをつくってくれ」ということはなかなかできない。
・館山産であるということをアピールして観光客に提供することはできるが、東京から来た人にとっては、館山のびわでも富浦のびわでも変わらない。どうイメージで訴え、売るかが大事。

(16) 市学校給食センター

事業の概要・現状など

・このセンターでは、中学校 4 校、小学校 10 校、幼稚園 8 園を対象に、約 4,500 食を、年間平均 191 日（200 日に延長予定）供給している。給食費は中学生・大人が一食 287 円、子どもが 246 円である。
・野菜（冷凍除く）については、市登録業者の中から購入しており、当日使用分の納品時間は 7 時 20 までとなっている。
・給食での使用の多いジャガイモ・たまねぎ、人参は下処理（皮むき・カット）を行う上で、歩留まりが良く調理の手間がかからない比較的サイズの大きなもの、形の良いものが求められる。また、泥等の汚染が取り除かれていることも納品の条件になっている。
・農産物については、単に価格が安いことだけではなく、所要の品質を満たすことも条件になっている。このため、市場価格を注視しつつ、業者の見積もり額が適正であることを確認し、購入している。地元農産物を調達する際にも、金額の妥当性が確認できれば、買い叩くようなことはない。
・牛乳、米、パンの 3 品で食材原価の約半分を占める。米飯給食の回数は週平均 3.5 回で、全量館山産の米を仕入れている。

その他

・近い将来センターの改修をする予定があるが、地元食材が活用できる方策も検討課題となっている。その際活用上のネックとなっている食材の下処理ができるような仕組みが外部にできるかどうかにより、基本設計の条件も変わってくる。
・教育委員会では地産地消はテーマであり、センターとしても、市内産農産物をもっと使って行きたい。地産地消デーなどに、市内の野菜を試験的に仕入れてみるなどの取り組みからはじめ、徐々に増やして行く方策を模索したい。
・市内で計画生産したジャガイモ等、安定供給がなされるものがあれば「地産地消の推進」の一環として、仕入れることも可能である。
・給食センターは教育委員会の中に位置付けられており、「学校給食の安全確保と安定供給」が最も重要である。調理場の有効活用として稼働していないときに市域向けの加工品をつくるなど産業振興目的に利用するには、組織の位置付けから見直す必要がある。

(17) 市観光協会

事業の概要・現状など

・今年取り組んでいる地域食材供給事業は、参加者や供給能力の把握を行うことを目的にしており、現在、生産者、消費者等へのマーケティング調査を行っている。状況に応じて今年度中に商談会にも取り組みたいと考えている。また、地域内流通を担う中間事業者が、生産者からの集荷、ホテルなどの配達を行って、はたして事業として成立するかどうかも見極めたいと考えている。
・市場でも生産者の集荷に回り市内のホテルにも納品しているということなら、市場と組んでこの事業を進めてもよいと思う。
・観光協会としては、「食による観光のまちづくり」を進める方針である。館山の豊富な食材を使って、有名シェフを招聘し館山オリジナルのレシピをつくり、普及するなどして観光魅力を高めたいと考える。全国の食によるまちづくり協議会が、来年３月に館山で開催されることから、それまでに一定の方向性を出して行きたいと考えている。

用地の整備について

・場内市場と場外市場を併せ持った築地のような食文化の拠点をつくるという考えには賛成できるし、参加の余地がある。
・但し、飲食店を経営する場合、昼も夜も運営しないと成立しない。また、観光客だけをターゲットにしても、現在の立地は夜に人が来るような環境にはない。全国的に、バイパス沿いより人口密集地のレストランの方が集客力は高い。先ずは地域住民に支持され、利用される施設を目指し、プラスアルファで観光客を狙うと言う考え方が必要である。
・こうした検討課題はあるが、公設民営で整備された場合、観光協会としては拠点施設の指定管理者になることも検討の余地があると思う。
・拠点施設のテナントとして、ジュースやアイスクリームは必要で、野菜を中心としたバイキングレストランのような施設も面白いと思う。

その他

・拠点施設より前に、渚の駅をどうするのかと言う議論が先である。渚の駅には博物館があり、桟橋がある。このような道の駅的な施設は全国にないので、何とか有効活用したいと考える。市全体のグランドデザインを描き、渚の駅（海の拠点）と拠点施設（農の拠点など）の役割分担や、連携のあり方について検討する必要がある。
・渚の駅も食の拠点にしたいと考えており、海産物のバーベキューなどをやったらどうかと思う。ごはん、味噌汁、漬物を基本に、海産物の盛り合わせを自分で焼いて食べるといったやり方である。渚の駅は、道路に対して背を向いてしまっており、入り難く、存在もわかり難いので、大きなイセエビのモニュメントを２階のデッキにつくるなど、ランドマークも必要だと思う。

(18) 市場関係者

用地の整備について

・メインは観光で、その結果農業振興につながるといった考え方で拠点整備をすべきである。地域の消費が疲弊している中で、観光客７割、地域住民３割といった構成で、観光客と言うマーケットを新たに開拓しなければならない。
・既に地域の八百屋も館山産農産物を扱っており、直売所が乱立している中で、同じような直売所を整備しても集客できない。直売所ではない形態を考えるべきである。農産物だけを売るような施設はどこにもあり、既に時代遅れである。
・いちご狩りツアーに来る個人客は、いちご狩りをした後に館山市内に行くところがない。食事をするところもなければ、その他の観光スポットもない。こうした点を踏まえると、ランドマークになるような施設づくりをして、シニア層、ファミリー、若者等幅広い顧客が、長く滞在できるような施設づくりを考えるべきだ。
・市場に来ている出荷者の意識はばらばらで、荷はまとまりにくい。また、30 名程度の仲買人が来ており、安房地区で販売しているが、地域ではすでに売り先がない状況で、経営的にも苦しい状態である。

その他

・渚の駅は、小さな水族館しかなく、魅力がない。また、構造上、農産物や水産物が売れるような施設でもない。桟橋の長さは日本一なので、もっとＰＲするべきだ。
・市としても、大型の投資はできないことから、ぴかりと光る小粒なものをいくつも集めるといった発想も有効である。

(19) 市場関係者

事業の概要・現状など

・毎日集荷に回って、毎朝せりをやっている。地域ごとにいくつかの集荷場を設けて、そこで拾い上げる仕組みで、行っても何もないときもあるが、それでも継続して回っている。
・集荷した市内産農産物の販売先は、地域内が８割、東京等都市部の２割といった構成である。そらまめ、かぼちゃ、ブロッコリー、なばななどの主力商品については、都市部への販売割合が高くなっている。温暖な気候であることから 12 月から 6 月までは、都市部でも勝負できる。売り先が決まれば、生産者の所得向上につながり、生産者も必然的に増える。
・市内のホテルなどへは、仲卸が既に販売している。しかし、市内産農産物では賄いきれないことから仕入品も多い。ホテル向け食材の開発や、供給については今後取り組んで行きたいと考えている。
・市場は多くの生産者と接点を持っていることから、市は市場ともっと話し合いの場を持ち、共に館山市の農業振興のあり方を考えて行きたい。

用地の整備について

・学校給食への地場農産物の供給は難しい。半年は出来るが、残る半年は仕入品で対応するしかない。また規格・品質などの要求が厳しく返品されるケースもある。また、品質の劣化が激しいことから、長期間供給するためには貯蔵施設が必要になる。
・地場の野菜を集め、売って行けるかどうかが市場の勝負どころである。高齢であっても生産者は頑張って欲しいし、リタイヤ組も就農して欲しい。農業をやることで健康になり、医療費削減にも結びつく。
・農業振興の拠点として市場が中核となり、築地のような場外市場をオール館山でつくるという考えには賛同できる。2 間×3 間ぐらいの小さなブースをたくさんつくり、館山中の商工業者や生産者にテナントに入ってもらい、築地の場外市場のような、にぎわいの空間としたい。

その他

・地産地消は良いことだと思うが、なしなどは東京ではなく千葉市場にもって行くようになってしまい、県内では有利な価格を付けにくく、農家の手取りが減る結果になってしまっている。

(20) 用地関係者（農業関係事業者）

用地の整備について

・施設が持つべき機能としては直売が必要で、総合園芸店といったイメージが良いと思う。また「農業」を核に、農業体験や飲食などを含めた総合拠点とすることが望ましい。
・ＪＡとは取引関係があるので協力体制を築きやすいが、近隣地域の直売所とは取引はない（他地域へは卸している）。また、地域の専業農家とも取引していることに加え、安房広域で多様な生産者と取引をしている。
・学校給食などへの地域農産物の供給は出来ると思う。にんじんについては砂地の農地が求められるので、西岬地区などでの生産化が求められる。メイクイーンやたまねぎは既に作られている。しかし痛みやすいので、安定供給するためにはプレハブ冷蔵庫などの整備が必要である。
・顧客である農家は高齢化・減少傾向が続いているが、農家を増やすことが当社のメリットにもつながる。当社が音頭をとって、農業生産法人をつくり、ここでリタイヤ組や新規就農希望者を雇用・育成し、計画的に必要な農産物を生産させ、給食センターや宿泊施設などへ供給して行くような構想も検討の余地がある。

(21) 用地関係者（稲地区民関係）

事業の概要・現状など

・公設卸売市場用地のある稲地区の世帯は約 70 ある。
・認定農業者は殆どおらず、兼業農家が多数を占める。

用地の整備について

・稲地区には、公設卸売市場用地と稲村城跡がある。この二つがどう関わっていくべきかということも検討すべき事項である。例えば、一つは駐車場で、もう一つは施設のような使い方もできるのではないかと考える。
・市内にはすでに多数の直売所があるので、同じことをやっても意味がなく、どこにもないもの、館山でしかできないものが重要である。
・館山市内には遊ぶ場所があまりないので、家族が一日中遊べるような施設があるとよい。

(22) 市外 農業関係団体

事業の概要・現状など

・耕作放棄地の再生をメインに活動している。耕作放棄地や休耕地、遊休地を借り上げて耕作を行っている。耕作放棄地の所有者の調査などは苦労がある。
・有志の方に来ていただいて、一緒に耕作放棄地を再生し、そこで収穫したものを買っていただく。個人だけでなく企業からも携わってくれる人を集めている。
・富津・木更津・君津等のエリアで仕事をしているが、県外でも活動をしている。南房総市でも事業を手掛けている。
・インターネットや新聞・雑誌経由で声をかけてくれる企業は多く、農業への関心の高まりを感じる。

用地の整備について

・直売所の形態であれば、これまでのものと違うものの方が良いだろう。周辺に直売所はずいぶん多いしありふれている。訪れる人に目に見えるものをもぎ取ってもらうような体験や、6 次産業化などの検討の必要があるのではないか。
・集客の事情が変わってきている。「ただ売る」だけではない仕組み・付加価値が重要ではないか。
・いずれかの形で協力できることがあれば、声をかけてほしい。

その他

・今は、全国的には大規模農家が優遇され、個人農家が圧迫されているように感じる。農業の在り方が変わっていっている。地区のことを考えながら農家や地元がまとまれば、注文（発注）はいくらでもあると思う。

第５章　先進事例調査

第５章　先進事例調査

１　先進事例調査の概要

（1）目的

先進事例調査では、拠点整備を行っていく上での一つの方向性である「市場型施設」「直売所・道の駅」において独自の取り組みを行っている団体に対し、事業の視察、運営における成果・課題、事業を行う際の周辺団体や他種産業との連携、今後の展望について等を中心にヒアリング及び現地視察を行った。

（2）調査時期

平成 24 年 11 月～12 月

（3）調査地

	団体名	団体概要
1	青森県 青森市 古川市場 （株式会社青森魚菜センター）	「古川市場」は、市民の台所として昭和 40 年代からにぎわってきた。その日の朝獲れた近海の魚をはじめ全国の鮮魚が揃っている。 市場には、魚介類だけではなく、筋子やタラコ、惣菜、肉などが豊富に揃う。 「のっけ丼」は市場に並んでいるものを食券と引き換えに少しずつ購入し、オリジナルの丼を作ることができる。
2	青森県 五所川原市 マルコーセンター市場館	五所川原市内の立佞武多（たちねぷた）の館の隣に立地している市場。 市場には魚介類だけでなく、地元でとれた野菜も揃う。 市場中食堂で行っている「やってまれ丼」は市場に並んでいるものを少しずつ購入し、オリジナルの丼を作ることができる。名産品のしじみ汁もつく。
3	青森県 青森市 道の駅「なみおか」 アップルヒル	青森市浪岡にある道の駅で、地場産品のりんごやつがる豚を活用したメニューを用意したレストランや食事処に、そば処や土産屋等も揃う。土産屋には手作りの菓子が並んでおり評判である。 農産物直販コーナー・ＪＡなみおかコーナーも併設しており、りんごをはじめ新鮮な果物・野菜を購入したり、宅配の手続きをしたりできる。 アップルヒル観光りんご園ではもぎ取り体験ができる。
4	千葉県市原市 道の駅 あずの里いちはら	千葉県内には道の駅が数多くあるが、市原市では唯一の道の駅で「四季を感じることができる道の駅」をキャッチコピーとしている いちじくジェラートなど、地場産品を利用した商品が評判である。 連絡道を通じて市原市農業センターや、バーベキュー広場やピクニック広場等を有するアズ植物公園に隣接している。

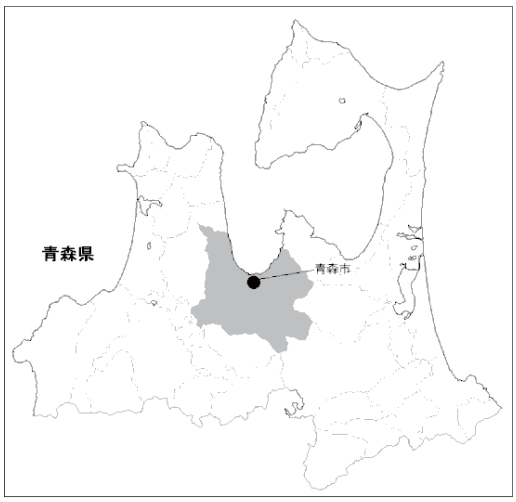
２　調査結果

事 例	①	青森県 青森市 古川市場

青森市は県央部に位置し、黒石市、五所川原市、十和田市、平川市、平内町、蓬田村、藤崎町、板柳町、七戸町に隣接する青森県の交通の要衝である。人口は 30 万人の中核市であり、総面積は 824.54 ㎢である。

特産品は豊富な水産品やリンゴの他に、カシス（クロスグリ）、長芋、ゴボウなどが有名である。

観光では縄文時代前期から中期の遺跡では日本最大級の規模を誇る三内丸山遺跡や、青森ねぶた祭が有名で、青森駅前の「ねぶたの家 ワ・ラッセ」では青森ねぶた祭の歴史や魅力が紹介されている。



のっけ丼の概要

「のっけ丼」とは、ご飯の上に自分の好みの具材だけを選んで「のっけ」ていく丼である。

JR 青森駅近辺に立地する古川市場内の案内所で 500 円、1,000 円のどちらかの「のっけ丼食事券」を購入し、ご飯を券と引き換える。その後、券と引き換えに市場内の新鮮な具材をに乗せていき、自分だけのオリジナル丼を作る。完成したら市場内にある休憩所で食べることができる（持ち帰り不可）。

魚介類だけでなく惣菜や肉類を乗せることもでき、汁物（季節の具材の味噌汁）を扱っている店舗もある。また、クーポン券を使い切ってしまった場合でも、現金を払えば具材を買い足せる。

新鮮な魚介は多種多様で、マグロ、うに、サザエなど地元で捕れた豊富な海産物を楽しむことができる。

市場外観

市場内の様子

のっけ丼事業の取り組み

のっけ丼は、東北新幹線新青森駅開業対策事業の一環として、新幹線新青森駅開業対策実行委員会が「食の戦略化」事業の一つとして位置づけ、検討し、実施されてきた事業である。同実行委員会は青森市、青森商工会議所、青森観光コンベンション協会を核として、有識者などで構成された 20 人から成る委員会としてスタートし、青森商工会議所が主体となり事業展開してきた。

平成 21 年度に、青森商工会議所が青森魚菜センター、青森公益魚菜市場、青森生鮮食品センターの協力を得てのっけ丼事業を支援的に実施し、その後、経済産業省の「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費」を活用し、中心市街地で実施するイベント等と連携し、のっけ丼事業を継続した。

平成 22 年度は、青森魚菜センター共進会が単独で事業を継続し、JR 東日本との連携が開始された。平成 23 年 1 月には、青森商工会議所が、国の緊急雇用創出事業を活用し、青森魚菜センター内に案内所を設置し、お魚コンシェルジュ 2 名を配置した。

平成 23 年度には、JR 東日本以外に、県外旅行エージェントや地元宿泊施設の企画商品にのっけ丼クーポンを取り込んだ。加えて、お魚コンシェルジュによるのっけ丼の案内をはじめ、PR チラシやホームページのリニューアル、団体受入やマスコミ対応など、PR の幅を広げた。

平成 24 年度になると、観光客を中心に人気が大きく高まったため、購入時の混雑・混乱を避けるためにのっけ丼購入を現金引換え制から食券制に移行した。

今後の取り組みとして、旅行エージェントや宿泊施設に対するのっけ丼食事券の販売促進及び企画展開の強化、団体受入の拡大や受入体制の更なる整備、のっけ丼食事券を活用したイベント等の企画を官民一体となり行うこととしている。

図表 5-1　のっけ丼事業実績

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
販売実績（杯）	試験実施分：約 900 事業費活用後：約 3,200	64,685	108,164
事業費（千円）	3,000	3,108	10,234
備考	戦略的中心市街地商業等活性化支援補助金 新幹線新青森駅開業対策事業実行委員会事業費活用	緊急雇用創出お魚コンシェルジュ育成事業 新幹線新青森駅開業対策事業実行委員会事業費活用	緊急雇用創出お魚コンシェルジュ育成事業 新幹線新青森駅開業対策事業実行委員会事業費活用

出所）青森商工会議所提供資料

取組の効果・課題

事業取り組み前は、近隣に位置する市場がほとんどの客を呼び込んでいたが、のっけ丼の取り組みが始まってからは、徐々に古川市場に客足が戻ってきた。

課題としては、観光客にとってはJR青森駅からは一見して判別しづらい立地に市場があり、青森魚菜センター以外にも近隣に市場が存在するため、観光客の視点からの利便性の向上が挙げられる。

また、観光客の年齢層はばらばらである一方、訪れる市内の客の年齢層はやや高く、周辺域の人々にとってさらに魅力のある市場作りをしていくことも必要と言える。

のっけ丼事業を行っているスペース（青森魚菜センター）は限られているものの、古川市場内は他にも店が存在するため、市場を更に活用する余地も残されている。

のっけ丼の例

休憩所の様子

その他

農商工連携及び観光に関連する市政について、以下の事項の聴取を行った。
（※詳細については、市内部資料とするため、本項では公開しない。）

① 「食のまち」について
・農商工連携について
・市民の地元産品に対する意識

② 青森市農商工大作戦とあおもり産品応援隊サポーターについて
・導入の経緯と課題
・サポーターの登録状況と市民の反応
・今後展開されるイベントの内容

③ あおもり産品販売促進協議会について
・各構成団体の導入時の反応と現在の状況
・コーディネーターやアドバイザーに係る費用

④ 「カシス」「フードアルチザン（食の匠）活動」「黒房すぐり」について
・導入の経緯

・生産団体の有無とその規模や構成
・食育と学校給食について

⑤ 青森市食育・地産地消推進計画について
・計画策定のメンバー、協議日数、計画策定にかかる費用
・第１次、第２次計画における成果と課題

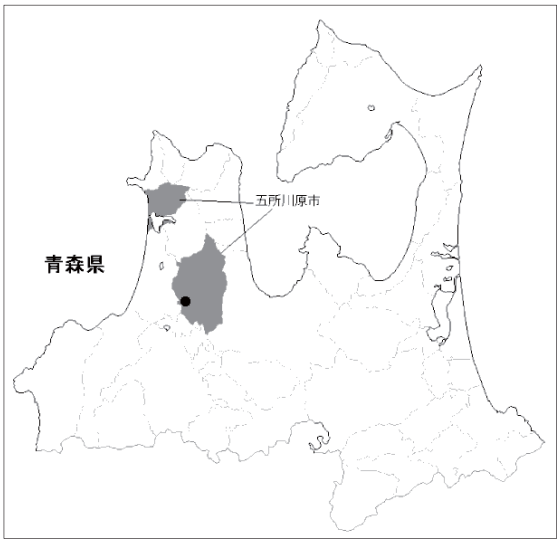
⑥ 施設の概要（事業費・利用状況・課題など）について

調査協力者

青森市 経済部 観光課 交流推進チーム
青森市 農林水産部 あおもり産品販売促進課 あおもり産品販売促進協議会事務局
青森商工会議所 地域振興部 観光交流推進課

事 例	②	青森県 五所川原市 マルコーセンター市場館

五所川原市は津軽半島の中南部に位置しており、青森市、つがる市、板柳町、鶴田町、中泊町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村に隣接し、市域の北部と南部は中泊町、つがる市を挟んで立地している。人口は5万9千人、総面積は404.56㎢である。



平成17年の五所川原町、金木町、市浦村の合併を経て、現在の五所川原市となった。

特産品は、皮だけでなく果肉、枝、花、若葉も赤い、「赤～いりんご」や、津軽国定公園内の十三湖の「十三湖しじみ（ヤマトシジミ）」等で、加工品も多く販売されている。

観光では、伝統民俗である五所川原立佞武多が8月4日から8日の間に行われる。高さ20メートルを超える立佞武多が市内を練り歩く様子を見に、全国から多くの観光客が訪れる。

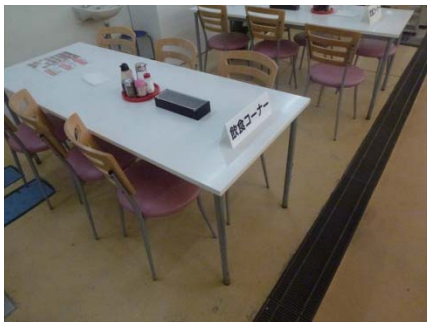
やってまれ丼の概要

やってまれ丼は、JR五所川原駅から西におよそ1kmの所に位置するマルコーセンター市場館の市場中食堂で作るオリジナル丼の名称である。「やってまれ」とは津軽弁で「やってしまえ」の意味で、五所川原の祭りの囃子方のかけ声でもある。

やってまれ丼を購入すると、まず250円でご飯としじみ汁を受け取り、その後ご飯の丼ぶりを持ち、市場内の10ある店舗のうち、具材を提供してくれる店を回り、自らの丼に何を乗せるかを吟味していく。セットで付いてくる五所川原特産のしじみを使ったしじみ汁は味噌を使わず、塩味を基調としてしじみの風味を生かしている（季節によってはしじみ汁以外が提供されることもある）。

マルコーセンター外観

飲食コーナーの様子



市場内を回って具材を揃えていくという点では青森市の古川市場と同一であるが、マルコーセンターではやってまれ丼の食券を購入した後は、具材を現金払いで購入していく。また、市中内食堂では使い捨ての丼ぶり（うつわ）ではなく、陶器の丼ぶりを使用し、高級感を演出している。

食材のセット販売も行っているため、急いでいる場合や具材に悩む場合は手早く丼を作ることもできるほか、海鮮丼ではなく刺身定食のような形態にすることも可能である。

やってまれ丼の例

具材のセット販売も行っている

やってまれ丼事業の取り組み

マルコーセンターは、市場を訪れる観光客から食事をする場所が欲しいとの要望が多くあったために、平成 23 年 12 月 7 日から食堂を立ち上げた。食堂では、提供する食品の材料の仕入れ先を市場内の店と同一にし、提供するものの品質を均一化している。

市場では、訪れる年配の方の客層が多いため、鮮魚の廃棄（ロス）が出てしまっていた。その対応策として、1 人前・2 人前から鮮魚を提供し、更に市場を活性化できる食事の提供形態を模索し、周辺の市場での取り組み等と併せて検討した結果、やってまれ丼が考案された。

客は土日に多く訪れ、客層は一般市民が多いが、最近では隣接する立佞武多の館を訪れる観光客や、学生が立ち寄ることも増えてきた。

青森市の古川市場とは異なり、事業主体は全て民であり、行政はノータッチである。また、大きな PR 事業は行っておらず、観光客や市民の口コミによって着々と客足を伸ばしている。

市中内食堂の様子

市場内には新鮮な青果も並ぶ

取り組みの効果・課題

現在は土日の訪問客数と平日の訪問客数の差がやや大きいので、日によって客数に差が出ないような運営を模索している。

課題としては、駐車場を利用する客に対して駐車券の提供の仕方が各店によって違う点や、客に提供する海産物などの具材の均一・均質化問題など、市場に入っている店同士での横の連携については、さらに強固にしていく余地がある。

また、若年層が徐々に市場を訪れるようになり、マルコーセンターでは客層を広げることを狙いとしていく中で、観光客だけでなく、郊外の大型店に足を向ける市内の客に市場の魅力をアピールしていくことも視野に入れながら方策を検討する必要がある。

その他

農商工連携及び観光に関連する市政について、以下の事項の聴取を行った。
（※詳細については、市内部資料とするため、本項では公開しない。）

① 地域産業振興室について
・組織ができるまでの経緯と現在の業務内容について

② 五所川原地域ブランド推進協議会について
・委員の内訳について
・具体的な活動について
・今後の課題
・「香典返しに五所川原の特産品を」について
・五所川原農林水産物元気部会とは

③ コミュニティカフェ「でる・そーれ」
・経緯、活動内容及び課題について
・生産者との関係と加工品の開発について

④ 五所川原市農水産物加工施設
・市営の加工施設の導入経緯と資金内訳
・導入以前の体制と導入後の利用状況について

⑤ 地産地消事業の取り組みと学校給食や食育について

⑥ 耕作放棄地対策、担い手対策、新規就農者について

調査協力者

五所川原市 経済部 商工観光課 地域産業振興室（ヤッテマレ！営業本部）
五所川原市 経済部 農林水産課
マルコーセンター市場館 市場中食堂

事 例	③	青森県 青森市 道の駅「なみおか」アップルヒル

道の駅「なみおか」アップルヒルの概要

道の駅「なみおか」アップルヒルは国道 7 号線沿い、青森から弘前を結ぶ中間近くに位置し、青森市街、五所川原市、浪岡インターチェンジ等におよそ 30 分以内でアクセスできる距離にある。また、トラフィック情報や観光情報を見られる端末なども設置してあり、浪岡地域外からも多くの利用客が訪れる。

運営・経営は株式会社アップルヒルが行っている。株式会社アップルヒルは、当該施設を運営するために設立された第三セクターである。株式会社アップルヒルは、農産物の生産・加工・販売を一体的に実施している。

農産物直売所はもちろん、アップルヒルふれあい交流館、観光りんご園、遊具のあるふれあい広場、りんどうの丘など様々な附帯設備を有し、レストランは季節の地場食材を使った品が揃う。大豆などを扱う「豆や」、そば処「道草庵」、藍染め体験のできる「あおもり藍工房」、手作りの菓子や軽食を提供する店が並ぶ「こみせ横丁」などもあり、様々なニーズに応えることができる。

イベントを多く行っているのが特徴で、「春の林檎の花祭り」「秋の林檎もぎ取り体験」「冬の雪見林檎」といった、季節ごとにりんご園を活用した取り組みを行っている。

農産物直売所の様子

ＪＡフルーツショップの様子

事業の状況・課題

市の農業政策との連携（青森市総合計画に基づく、「あおもり産品販売力の強化」）を意識しながら、地場産品の売り出しや新商品開発を実施しており、イベントや情報発信などにも積極的な姿勢で取り組んでいる。また、インターンシップの受け入れや体験学習の場の提供など、事業に公益性を盛り込んでいる。

平成 23 年度では売上高は 490,153 千円となっている。市からの指定管理料や補助金などはなく、ほぼ法人収入独自で運営している。

この道の駅が置かれている路線（国道７号線）は、青森空港をはじめ、東北自動車道や津軽自動車道の利用を目的とする車が多く、交通が盛んである。多い日には平日でも駐車場が満車となることがある。来客数が増えるにつれて、収容数の問題も出てくることが予想される。

今後は、リンゴのブランド化や地域特産品の加工品開発などで地産地消の推進と域外への販売促進を更に積極的に実施するとともに、県内外の道の駅との連携や、市と友好条約を結んでいる屋久島の物産紹介など、情報発信基地としての機能を充実させることを見込んで事業を進めている。

レストラン　あっぷるひる

手作りの菓子も販売している

事 例	④	千葉県 市原市 道の駅 あずの里いちはら

市原市は東京湾に面し、千葉市、茂原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、長柄町、長南町、大多喜町と隣接している。人口は278 千人で、総面積は 368.2 ㎢である。首都東京から 50 ㎞圏内であり、市内交通は盛んである。

現在の市域は、昭和 38 年に五井、市原、姉崎、市津、三和の5 町合併による市原市の誕生と、昭和 42 年の南総町・加茂村合併により形成された。

農業分野における特産品は梨、イチゴ、桃、いちじく、大根などである。

千葉一番の工業都市としても知られており、石油化学工業をはじめとする大手企業が多数進出しており、愛知県豊田市に次いで製造品出荷額は全国 2 位となっているなど、京葉臨海工業地域の中核として栄えている。

道の駅 あずの里いちはらの概要

あずの里いちはらは、経営構造対策事業（平成 13～17 年度）の事業種目である、経営体多角化施設整備事業により総合交流拠点施設として整備された。

中心施設は農産物直売所であり、生産者と住民の交流の場として農業振興の一翼を担うという目的で設置されている。物産軽食コーナーでは市原市の伝統産品や特産品、地場産品を取り扱っている。運営は、「あずの里いちはら運営協議会」を組織し、構成員である市と指定管理者である市原市観光協会、及び指定管理者からの使用許可を受けた事業者である有限会社アグリ市原の三者で行っている。

あずの里いちはらは市原市農業センターの敷地内に立地しており、アズ植物園（バーベキュー広場、ピクニック広場、ふれあい広場などの施設を備えている）とも隣接している。そのため、直売所を利用する周辺民の他、観光目的の客も訪れる。

消費者との交流を図るためのイベントも豊富で、9 月には新米まつり、11 月には感謝祭、1 月には初売り・餅つき大会、3 月には春祭りを開催している。

図表 5-2　あずの里いちはらの概要

開業	平成 13 年 11 月 1 日
施設設備	＜市原市農業センター敷地内に立地＞ 農産物直売所、物産軽食コーナー、事務室、会議室、 イベント広場、駐車場（3,200 ㎡、68 台）
事業経費	用地取得　202,498 千円 駐車場工事費　211,033 千円 施設事業費　231,012 千円（うち国庫補助金 115,400 千円、起債 76,000 千円）
施設運営	「あずの里いちはら運営協議会」 …市、社団法人市原市観光協会、有限会社アグリ市原の三者で組織 指定管理者　社団法人市原市観光協会（平成 18 年度から） 農産物直売所　有限会社アグリ市原 観光物産・情報・軽食　社団法人市原市観光協会
経営実績	（平成 23 年度実績） 来場者数　221,915 人/年、月平均 18,492 人 総売上額　255,682 千円/年、月平均 21,306 千円 うち直売所売上額　206,865 千円/年、月平均 17,239 千円
その他	平成 19 年度から隣接地に「市原木の家ふるさとハウス」をオープン。

出所）市原市提供資料を基に作成

あずの里いちはら　外観

農産物直売所の様子

事業の状況・課題

オープン以降売上は漸増の傾向であったが、近年は横ばいから漸減の傾向となっている。また、１月・２月は直売所に出荷する品物が全体的に減る傾向にあるために売上が減るが、人気の高いフルーツである梨・いちじく等が多く店頭に並ぶ季節は売上高が大きくなる。バーベキュー広場は夏に多くの客を迎えるが、冬の集客は少ない。

直売所は市民が多く利用しており、散歩がてら訪れ、社交の場として利用する形で常連客となっているケースは少なくない。観光客は主に土日に訪れる。市民と観光客の誘客については、品揃えや入荷の量のバランスなどの視点を常に意識して運営している。

民と公が手を合わせて運営している状況ではあるが、その実現と調整には多くの苦労があり、当時は市の声掛けに対して運営等に関わっていくという積極的意見は少なかったという。今日までの施設の運営において相互に協力を深めてきた中で、今後も農業センターをはじめとした周辺施設とあずの里いちはらを一体的に活用し、連携をさらに充実させていくこととしている。

市原市としては、地産地消を推進していく中で、市内の農家が市内に出荷してくれるような土台作り（収益面、手続面）も課題となっている。

他には、市の活性化策として体験農園やアートイベントなど、農商工連携を意識しつつ観光の視点も重視した取り組みを試みている。

隣接するバーベキュー場

隣接するピクニック広場

調査協力者

市原市 経済部 農林業振興課

第６章　用地活用の方向性の整理

第６章　用地活用の方向性の整理

第５章までの調査結果を基に、用地をどのように活用していくか、その方向性について次ページにとりまとめた。

都市農村交流拠点に関するニーズ

[観光客]
- ◆ 農産物の購入の場
- ◆ 館山産の品を飲食する場

[市民・農家]
- ◆ 新鮮で安価な農作物等を購入・飲食する場
- ◆ 子育て、農業との触れ合い、家族で過ごすことのできる場

直売所へ出荷する際のニーズ

- ◆ 価格・規格・集荷・出荷等の面で利便性が確保されていること
- ◆ 一定の施設規模があり、集客が見込めること
- ◆ 季節出荷の対応
- ◆ 規格外品の取り扱い

館山市の狙い

- ◆ 地産地消の推進
- ◆ 農業の6次産業化推進
- ◆ 都市農村交流拠点として用地活用
- ◆ 館山市基本計画「館山新世紀発展プラン」
- ◆ 地域農業活性化計画の策定

観光に関するニーズ

- ◆ 南房総へはドライブ・ツーリングや自然鑑賞、温泉浴を目的として訪れる
- ◆ 海の幸、郷土料理やご当地グルメ、特産品を楽しみたい

施設に関するニーズ

観光客	市民	農家・事業者
◆ ドライブ・ツーリングの際に立ち寄れる施設 ◆ フードコート方式の地産地消レストランや、館山産牛乳を使ったアイスクリーム等、館山の食を楽しめる施設 ◆ 館山産農産物・特産品の購入ができる施設	◆ 市民も楽しみ、参加ができる施設 ◆ 子どもや若者も楽しめる施設 ◆ 交通の利便性の高さ ◆ 館山にしかない施設 ◆ 館山産農産物・特産品の購入ができる施設	◆ 農産品が出荷できる直売所 ◆ 調理場も兼ねた加工場を備えた施設 ◆ 地場食材を使ったレストラン ◆ 市内だけでなく観光客も呼び込んで商売のできる施設 ◆ 農家・販売者の負担とならない地産地消の場

館山市の目指す方向性

＜都市農村交流拠点＞

- ✓ 野菜だけでなく、食事や農産加工品も提供する場
  →6次産業化、農商工連携
- ✓ 農家の積極的参画のための環境整備
  →農家にも利益をもたらす地産地消の土台づくり
- ✓ 農作物に付加価値を付与
  →加工等のフェイズでも農家の利益を確保

＜観光＞

- ✓ 農産物以外の食に関するニーズにも応える
  →食の観光立市
  →館山ブランド
- ✓ 市内のみならず、市外、関東圏内からの誘客
  →独自性を持った館山市ならではの施設
- ✓ 農業以外の様々な産業が参画する土壌の醸成
  →産業間連携のための体制づくり

用地

【用地面積】
用地の面積は11,877㎡（約1.2ha）であり、拠点としては決して狭くはないが、いくつもの機能を詰め込むのは困難

【市内の他施設との関わり】
- ➢ 渚の駅
- ➢ 稲村城跡
- ➢ 工業団地用地

等の活用・連携の可能性

ターゲット

【ターゲット】
観光客…東京湾アクアラインを利用してドライブに訪れる人が多い
約半数は日帰り客
市　民…安定した消費、人口は5万人弱

【競合の問題】
①道の駅
◆南房総エリアは「道の駅」が多く存在
（南房総エリアで10件以上、主要な「道の駅」の満足度は約7割）
◆後発で類似した施設の設置は困難
②周辺直売所・スーパー
◆出荷先、市内客の競合
→商圏の確保には差別化が必要

都市農村交流拠点として整備していくための方向性（主要な拠点施設機能）

【直売所機能】
- ● 出荷する農家の確保
- ● 扱う品目の数量、多様性を確保

【飲食機能】
- ● 地産地消レストラン

【加工機能】
- ● 館山産野菜・花のペースト、農産品を使用したスイーツ等の、館山オリジナルの商品
- ● 浄化槽の整備を要する

【トイレ】
- ● 乳幼児・障がい者等にも利便性の高いもの
- ● 観光客の立ち寄りを考慮

【駐車場】
- ● 駐車スペースや交通手段の確保
- ● 観光バスの立ち入り

館山市の農産品を一体的に提供する空間

>>観光客、市民双方を客として取り込み

>>提供する産品の検討

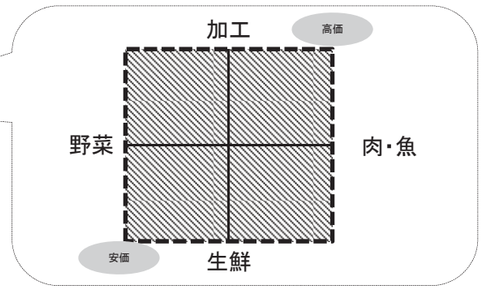
どのような形態　・・・（野菜／肉・魚）×（生鮮／加工）

>>産品を適正な価格で提供し、農家の利益を考慮

地産地消による流通コストの削減
余剰品の加工、規格外品の取り扱い

>>周辺の直売所や「道の駅」との差別化

■担い手■
- ➢ 参画者の確保
  ⇒市内の事業者や農家の直売所や施設への参加の意向は統一されていない
- ➢ 指定管理者や民活を活用した運営の検討
- ➢ 市場や直売所の運営者との連携



第７章　拠点整備の方向性

第７章　拠点整備の方向性

１　調査結果の総括と拠点整備の視点

（1）農業振興

市内には、ＪＡや民間経営による数多くの直売所に加え、2 か所のいちご狩りセンターが存在し、観光や地産地消の拠点となっているが、安房地区全体での競合が激化する中で、多くの施設が近年厳しい経営環境にある。一方、全国的な動向をみると、直売所自体が第 2 ステージを迎えており、単なるもの売り拠点から、食文化の発信や農業体験、6 次産業化など、顧客ニーズに対応した総合的な機能を持った拠点へと転換する傾向が見られる。このことから、農水産物が豊富にあるという強みを活用し、直売、飲食、加工、体験等、農商工連携による 6 次産業化を進め、館山の食文化を創造し発信していく拠点づくりが必要である。

（2）観光振興

市内を訪れる観光客は、宿泊客が比較的多いことが特徴であるが、東日本大震災の影響もあり、減少傾向にある。訪問目的は、「郷土料理・ご当地グルメ」が上位にランクインしており、「食」が人を呼び込む重要な要素となっている。

館山市では、千葉県との連携により、北条海岸、夕日桟橋（渚の駅）等、海岸線を中心に観光拠点を整備してきたが、農村部の拠点づくりは立ち遅れている。また、観光協会では、「食による観光振興」を標榜し、「炙り海鮮丼」等の特産メニュー開発・普及に力を入れているが、その情報発信拠点は存在しない。(1) で述べたように、館山の豊富な地域食材を活かした「食による観光振興」を一層推進していくためにも、食の情報発信拠点が必要である。

（3）立地環境

拠点整備予定地は、安房グリーンラインと国道 128 号（外房黒潮ライン）が交差する地点にあり、市街地からも比較的短時間で行ける距離にある。観光客・市民ともに交通アクセスは良好であり、さらに、敷地面積が 1.2ha あることから、拠点整備をする上で充分な面積を持っており、周辺農地等の利活用を考慮した場合、さらなる効果が期待できる。

（4）拠点整備にむけた政策視点

◆6 次産業化を促進しバリューチェーンを創造する

農林水産資源を活用した直売・飲食・加工・体験等、農商工連携による 6 次産業化を進め、地域に所得と雇用を生み出すバリューチェーン（価値連鎖）を創造する拠点づくりをめざす。

◆市内直売所・観光農園等の支援体制を確立する

市内には多くの直売所や観光農園等が存在しているが、共通の課題に対応するため、品薄の時期の市内農産物の供給支援、出荷者の育成支援、ＰＲ・販売促進支援、経営改善支援等を行い、地域農業を活性化する。

◆「食」を核とした地域コミュニティ・地域文化を再生する

現在「食」の大切さが見直され、観光客にとっての重要な訪問動機になっている中で、館山の強み・特徴である「食によるまちづくり」を共通テーマに据えて、地域コミュニティを再生し、地域文化や地域学の形成をめざす。

◆エンジンとなるオール館山のプラットフォームを設立する

以上の３点を推進するために、接点が希薄であった市内の生産者や各種団体が集まり、意見交換・情報交換と合意形成を図り、拠点施設の管理運営体制や、農産物の出荷・供給体制等の構築に向けた組織づくりを行う。

(5) イ(i)食住のまちづくり拠点

(1)～(4)で述べたことを踏まえ、拠点づくりのコンセプトを「イ(i)食住のまちづくり拠点」とし、人を育て、館山の食文化を育みながら、住み心地のよいまちづくりを推進する拠点とする。また、食の技術を競い合う「館山食の匠たち」が参加・運営する施設とし、食材の提供者、加工・飲食業者のプロ集団が切磋琢磨しあえる雰囲気を醸成する。そして、市民にも観光客にも利用してもらえる地域住民の交流拠点、新たな観光拠点としても位置付け、農林水産資源を活用した農商工連携による６次産業化を進め、地域に所得と雇用を生み出すバリューチェーン（価値連鎖）を創造する拠点づくりを目指す。

図表 7-1　イ(i)食住のまちづくり拠点とは

イ(i)…まちづくりの「『イ』メージ」を「『イ』ンターネット」(internet) を活用した情報媒体や SNS を通して共有し、人と人とのネットワークづくりを推進する。また、まちに住む「人」という漢字とカタカナの「イ」の形が似ていることから。

食…農業振興をはかっていくためには６次産業化は必要不可欠であるが、近隣に道の駅や直売所が林立しており、競合が激しく共倒れの危険性がある中で、敢えて「食」をテーマに設定し、独自性のある施設づくりを目指す。

住…地域の歴史や自然を活用し、快適な住空間をイメージさせる拠点とし、日本一住みやすい、住んでみたいと思わせるまちづくりを進める。

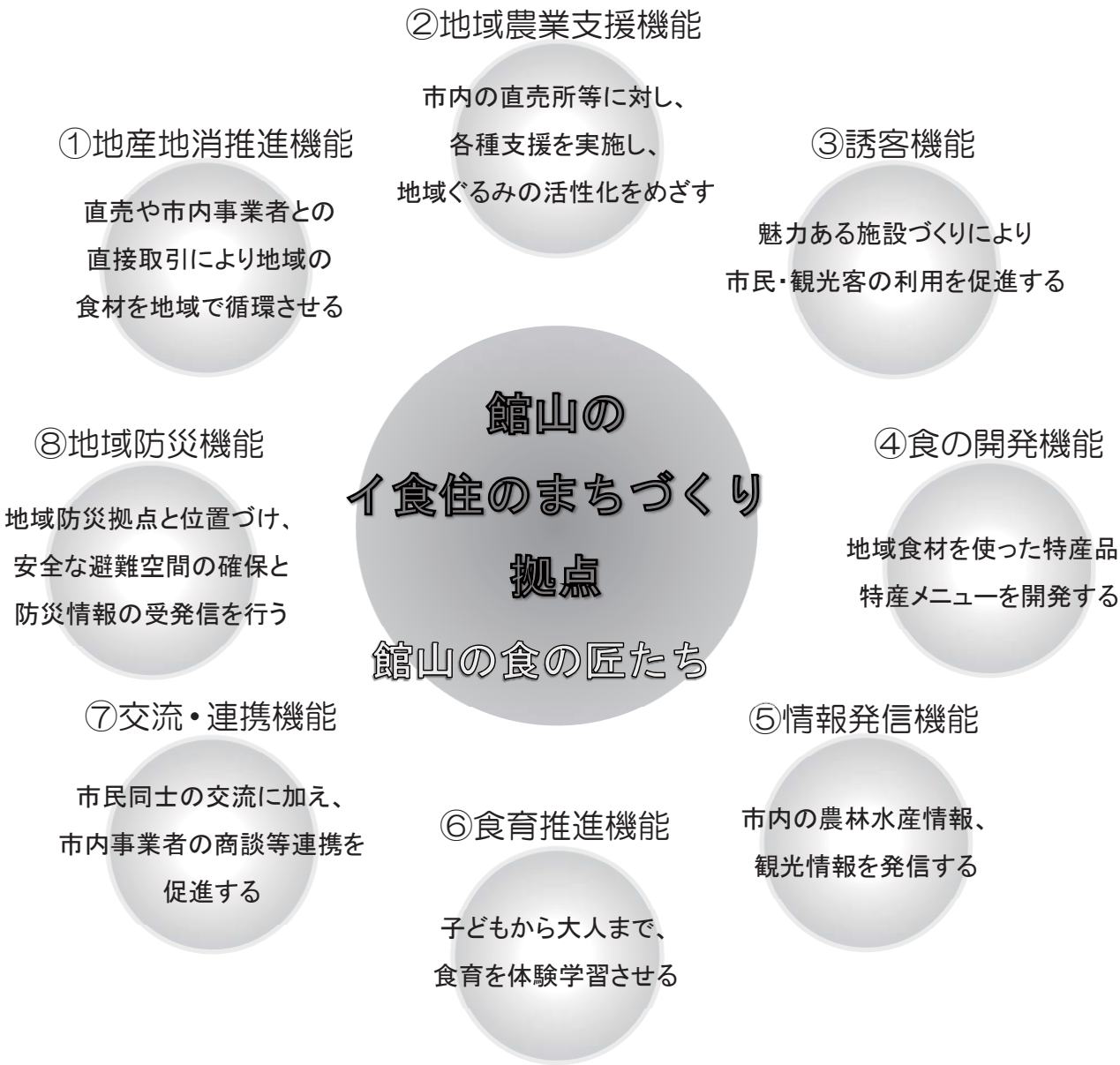
(6) 持つべき機能

市民・農家アンケート調査では、農産物直売所、加工場、レストラン、体験農園については、市民、農家、観光客共に一定のニーズが存在し、付帯機能についてはターゲットの設定により、整備すべき施設等の優先順位が異なることが分かった。

また、ヒアリング調査では、競合施設が乱立している中で、直売所メインの施設では成立の可能性が低く、直売＋飲食＋加工＋体験等、6 次産業化を進めるための複合的な機能、オンリーワンの施設づくりが求められるという意見が多く聞かれた。

コンセプトである「『イ』『食』『住』のまちづくり拠点」と上述した調査結果を踏まえると、この施設が持つべき機能は、地産地消推進機能、地域農業支援機能、誘客機能、食の開発機能、情報発信機能、食育推進機能、交流・連携機能地、地域防災機能の 8 つに整理できる。

図表 7-2　持つべき機能の整理



２　拠点施設の整備イメージ

(1) 整備すべき施設とイメージ

「１　調査結果の総括と拠点整備の視点」で述べた機能を考えると、拠点施設に必要な施設は、直売・販売施設、簡易加工施設、飲食施設、情報発信施設、研修施設、体験農場、農村公園、駐車場・トイレ等の８つに整理できる。また、事業目的、先進事例、及び地域意向（ヒアリング調査で把握）等を踏まえ、地域の多様な団体・企業が参加でき、それぞれの創意工夫と切磋琢磨の中で、商品・サービスの向上を実現できるよう、テナント出店方式を基本に据えた整備方針とする。

A 直売・販売施設

館山産の新鮮で安価な農産物を購入でき、農家にも利益をもたらす地産地消の場が望ましい。

B 簡易加工施設

館山産農産物を使用したスイーツを作る等、周辺にある道の駅や農産物直売所とは違った独自性のある商品の開発を推進していくことが望ましい。

C 飲食施設

地産地消レストランや、簡易加工施設で作られたスイーツや惣菜等を落ち着いて食べることができる空間をつくることが望ましい。

D 情報発信施設

館山周辺の観光情報の他、館山の歴史、地域の文化、食文化に触れることができる場をつくり、館山らしい雰囲気があふれる場をつくることが望ましい。

E 研修交流施設

農家や市民の意見交換の場や、食育等のセミナーができる場とし、人と人とのネットワーク構築ができる場が望ましい。

F 体験農場

露地畑だけではなく、ハウス等の施設を使い、野菜や果物の栽培、収穫体験を通して親子で食育を学習することができる場が望ましい。

G 農村公園

市民や高齢者の憩いの空間を形成し、人と人との豊かな交流の場となることが望ましい。

H駐車場・トイレ等

観光客の立ち寄りを考慮し、駐車可能台数は 100 台以上とし、トイレは乳幼児や障害者等にも利便性が高いものを整備することが望ましい。

図表 7-3 施設の持つ機能一覧

施設＼機能	①地産地消推進機能	②地域農業支援機能	③誘客機能	④食の開発機能	④情報発信機能	⑤食育推進機能	⑥交流・連携機能	⑧地域防災機能
A 直売・販売施設	○	○	○	○	○	○		
B 簡易加工施設	○	○	○	○	○	○		○
C 飲食施設	○		○	○	○	○		
D 情報発信施設					○			○
E 研修施設		○				○	○	○
F 体験農場		○				○	○	
G 農村公園			○					○
H 駐車場・トイレ等	○	○	○	○	○	○	○	

（2）その他の取組

◆周辺農地における農業特区の導入

拠点施設並びに市内直売施設の品揃えの充実、市内観光事業者が求める食材の安定供給に向けて、経営規模が少ない生産者を農家として特認し、周辺農地を活用して、周年を通して多様な農産物を計画的に生産・出荷する体制づくりを行う。

◆学校給食の供給体制の確立

将来の館山を担っていく子どもたちに、館山の農業や食文化への理解を深めてもらうきっかけとして、学校給食向けの食材確保コーディネイト機能の構築を行う。

◆近隣施設との連携構築機能の設置

市内の農村をネットワーク化し、拠点施設を核に交流圏を形成する他、館山の文化を学ぶ場とする。例えば、近接している工業団地予定跡地に「(仮称) 里見の山里」、及び国史跡指定を受けた「里見城跡　稲村城跡」が今後整備されることから、各施設との連携を図り、当該施設に総合窓口や観光・文化情報発信、里山施設案内、駐車場機能を併せて設置していく。

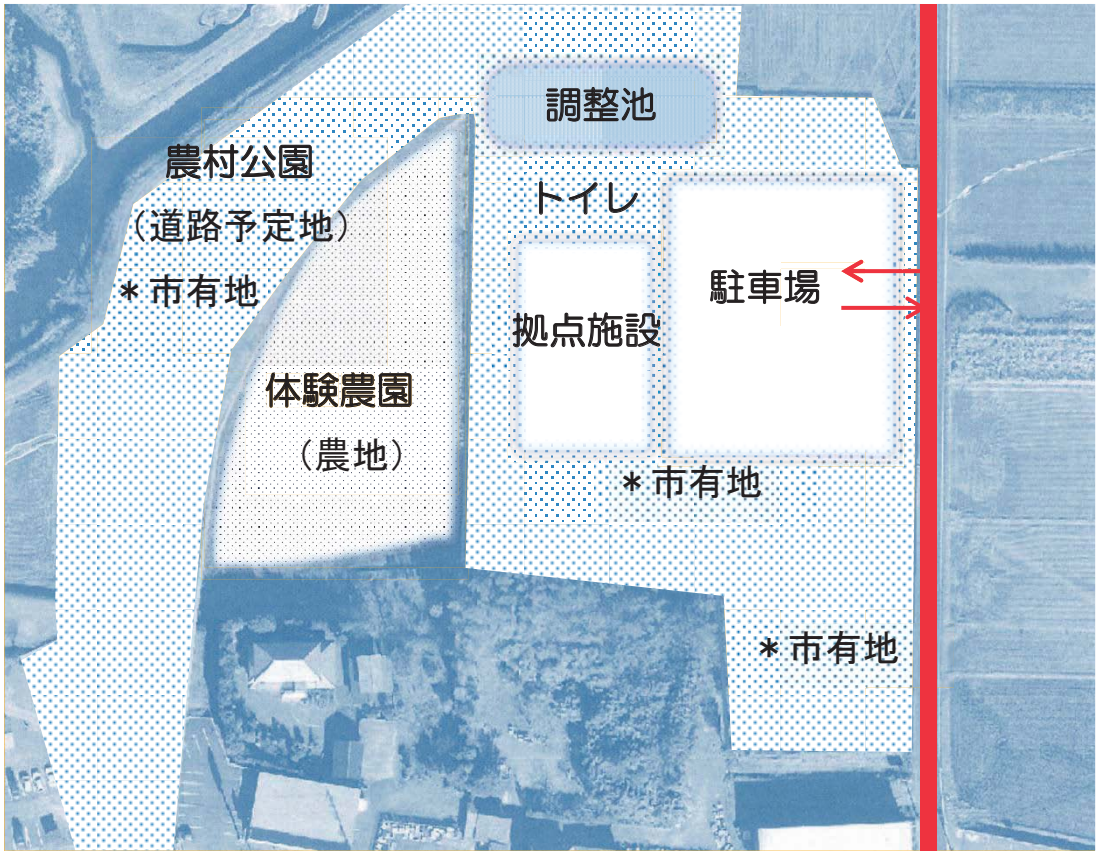
◆地域防災の拠点機能を発揮する

東日本大震災の発生に伴い、地域防災機能の充実が喫緊の政策課題となっていることから、館山市の中心地に立地するこの拠点を、地域防災の拠点として位置づけ、そのためのソフト・ハードの機能を充実させる。

(3) 想定される設備配置

面前道路（安房グリーンライン）からのアクセスと拠点施設整備の効率性に配慮した配置計画とし、周辺の農地を活用し、体験農園を整備する。また、道路予定地を活用し、農村公園（低木、花木、自然散策路等）を整備する。

図表 7-4　設備配置のイメージ

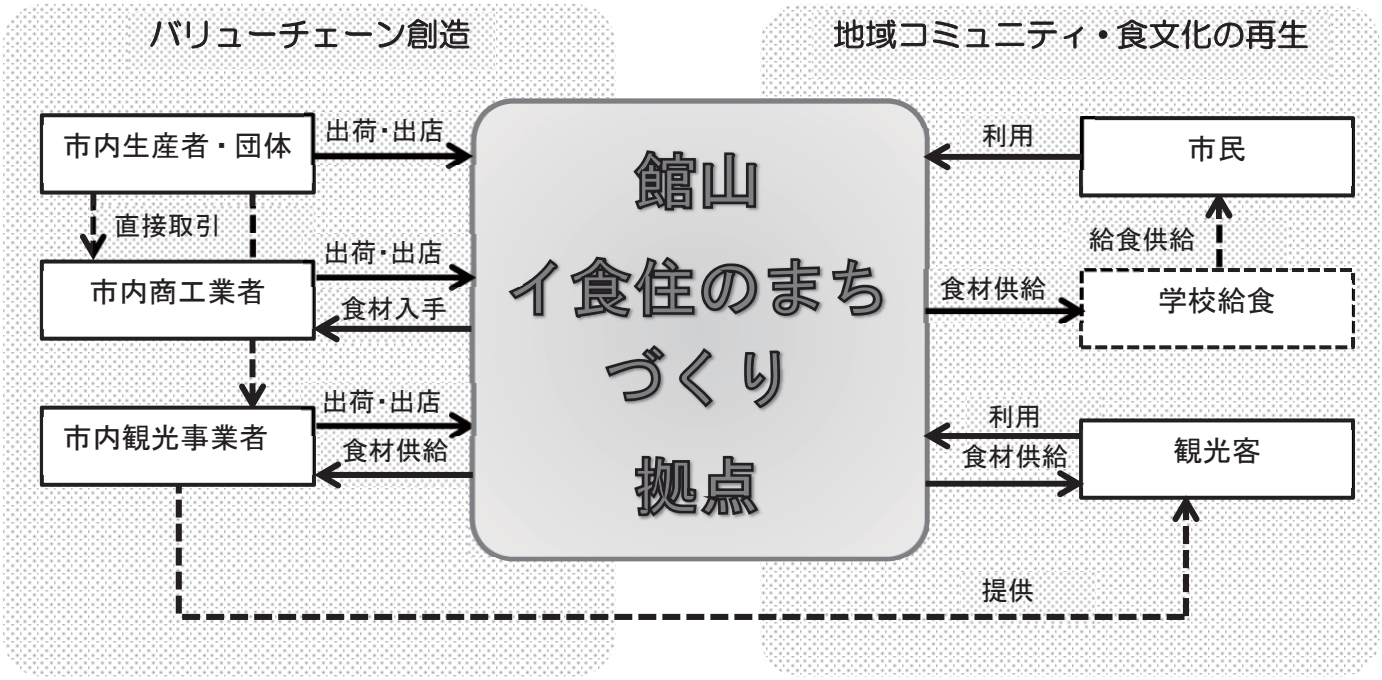


３　拠点施設の管理・運営体制

(1) 想定されるシステム

市内の生産者・団体から、地域食材を拠点へ出荷し、その食材を市内商工業者、観光事業者が購入して、館山の特産に資する加工品・飲食メニューを開発し、拠点内及び宿泊施設等で提供することで、バリューチェーンを創造する。そして、市民が拠点施設で食育を学習することに加え、地域食材を活用した学校給食を拠点施設が提供することで、地域コミュニティ・食文化を再生することができる。

図表 7-5　拠点において想定されるシステム



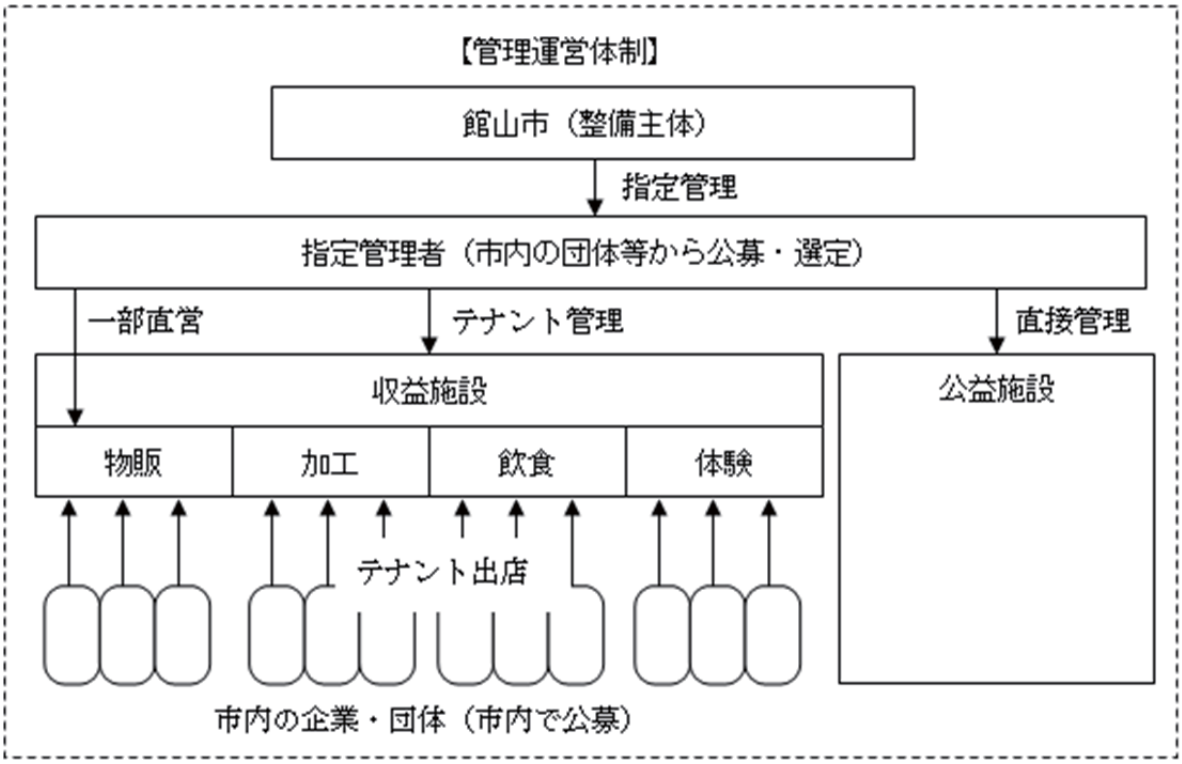
(2) 館山食のまちづくり協議会

農水産関連、観光・商工関連、食育関連等の企業・団体が一堂に会し、情報交換を図りながら、食のまちづくりを目指すことを目的に、「館山食のまちづくり協議会」（仮称）という全市横断的な組織（プラットフォーム）を設立する。この組織のメンバーが、出店者、出荷者、あるいは施設の利用者として拠点施設の運営に参画し、施設の運営母体や施設運営を支えるネットワークとなるよう誘導する。

(3) 管理運営体制

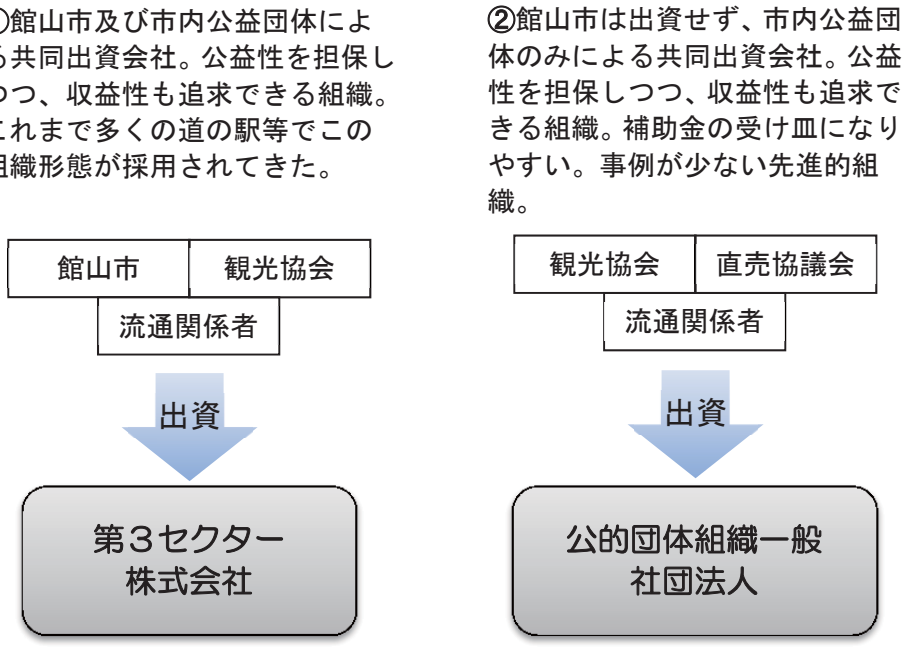
館山市が拠点施設を整備する場合、指定管理者制度のもと管理運営を行う。指定管理者は、収益施設の一部を直営することに加え、収益施設のテナント管理、及び公益施設（トイレ、駐車場等）の管理を行う。また、市内に広報し、「館山の食の匠たち」に資する市内の企業・団体を公募し、テナント出店を促す。

図表 7-6　管理・運営体制の検討(1)



更に、このプラットフォームを進化させた組織が、施設の管理・運営組織（公設民営の場合は指定管理者）となる。以下の形態が有望であると考えられるほか、民間企業を全国から募集し、指定管理者等にする方法も存在するが、市民力を活用した地域再生という趣旨にそぐわない面がある。

図表 7-7　管理・運営体制の検討(2)



４　事業スケジュール

財源等を見据え、可能なところから段階的にハード・ソフト両面の整備に努め、平成 29 年度のグランドオープンを目指す。また、この構想は、農業振興の施策に留まらず、観光、教育、建設等庁内横断的な取組が必要不可欠である。単なる拠点づくりに留まらず、館山市全体の活性化に向けた総合的な政策としたい。

図表 7-8　事業スケジュール（案）

区分	実施項目	H24	H25	H26	H27	H28	H29
①事業構想の策定		→					
ハード領域	②基本設計・実施設計		→				
	③用地造成及びトイレ等の設置			→			
	④農村公園・体験農園の整備				→		
	⑤拠点施設の建設・整備					→	
ソフト領域	⑥庁内推進体制の確立		→				
	⑦プラットフォームの設立		→				
	⑧敷地内での実証事業の実施			→	→		
	⑨管理・運営組織の設立				→		
	⑩開業準備・オープン					→	★

調査研究委員会名簿

調査研究委員会名簿

調査研究委員会

委員長	斎　藤　　修	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
委　員	山　田　　文　夫	千葉県安房農業事務所 次長
	川　名　　初　江	館山市農業委員会 委員
	鈴　木　　衛	安房地区指導農業士協会 会長
	福　原　　義　和	安房農業協同組合 館野支店 支店長
	龍　﨑　　滋	館山市農産物直売所連絡協議会 会長
	木　村　　義　雄	館山市観光協会 経営委員
	上　野　　学	館山市経済観光部長
	飯　田　　昌　三	財団法人地方自治研究機構 調査研究部長兼総務部長

（順不同）

事務局

荒　井　　毅	館山市経済観光部 農水産課長
石　井　　良　市	館山市経済観光部 農水産課 副課長
島　本　　一　樹	館山市経済観光部 農水産課 園芸係長
勢　見　　公　彦	館山市経済観光部 農水産課 農政係長
石　上　　圭太郎	財団法人地方自治研究機構 調査研究部 主任研究員
今　井　　悠　介	財団法人地方自治研究機構 調査研究部 研究員

基礎調査機関

釼　持　　雅　幸	株式会社　流通研究所　代表取締役
荒　井　　絢　子	株式会社　流通研究所　研究員アシスタント

（順不同）

資料編

資料編

１　観光客アンケート調査票

【一番最近の南房総地区観光について】

＜回答者＝全員＞

問１　一番最近の南房総地区への観光では、どなたと旅行しましたか。(ひとつだけ)【必須】

このアンケートでの南房総地区とは、館山・南房総を指します。

１　同伴者なし（１人）
２　配偶者・カップル（２人）
３　家族（配偶者を含め、子供や親等）
４　友人・知人
５　ツアー旅行
６　サークル等の仲間
７　職場の同僚・関係者
８　地域の団体関係者
９　その他（　　）

＜回答者＝全員＞

問２　一番最近に、南房総地区に観光で訪れた際の交通手段についてお知らせください。(ひとつだけ)【必須】

※回答が複数にわたる場合は、一番利用距離が長いと思われるものをお選びください。

１　定期観光バス
２　貸切バス（ツアー含む）
３　路線バス
４　電車
５　バイク・乗用車
６　その他（　　）

＜回答者＝Q2 で 1～3、5 と回答した人＞＜軸反転＞
問 3　前問で＜前問の回答を代入＞と回答した方にお伺いします。
ご自宅から南房総地区へはどのようなルートで行きましたか。（それぞれいくつでも）【必須】

↓縦方向にお答えください↓	往路（南房総に行く）	復路（南房総から帰る）
東京湾アクアラインを通った	1	2
東京湾フェリーを利用した	1	2
館山自動車道・富津館山道路等を通った（富津等経由）	1	2
房総スカイライン・国道 410 号・鴨川有料道路等を通った（鴨川経由）	1	2
その他のルートを通った	1	2

＜回答者＝全員＞
問 4　あなたが南房総地区を観光した日数をお知らせください。（ひとつだけ）【必須】
※何度か旅行されている場合には、一番頻度の高いものをお選びください。

1. **日帰り**
2. **一泊二日**
3. **二泊三日以上**

＜前問で 2、3 を選択＞
問 4-1　あなたが南房総地区に＜前問の回答を代入＞した際に宿泊した場所をお知らせください。（ひとつだけ）【必須】
※回答が複数にわたる場合は、一番頻度の高いものをお選びください。

1. **館山市内**
2. **南房総市内**
3. **鴨川市内**
4. **その他**
5. **わからない**

＜回答者＝全員＞

問 5　一番最近に南房総地区に観光に訪れた際の目的をお知らせください。（いくつでも）【必須】

１．ハイキング
２．スポーツ（各種大会への参加含む）
３．ドライブ、ツーリング
４．自然鑑賞
５．公園散策
６．キャンプ
７．合宿
８．釣り
９．果物狩り、菜の花摘み
10. 体験学習
11. 温泉浴
12. 史跡・文化財めぐり
13. 芸術・文化鑑賞
14. 神社・仏閣めぐり（初詣含む）
15. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物）
16. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物以外）
17. イベント、祭り、花火
18. 花見
19. 買い物・ショッピング
20. その他（具体的に：　　）

＜回答者＝全員（前問で１つしか選択していない人はスキップ）＞
問 5-1　一番最近に南房総地区に観光に訪れた際の一番の目的をお知らせください。（ひとつだけ）【必須】

＜前問で選択したものだけを表示＞
１．ハイキング
２．スポーツ（各種大会への参加含む）
３．ドライブ、ツーリング
４．自然鑑賞
５．公園散策
６．キャンプ
７．合宿
８．釣り
９．果物狩り、菜の花摘み
10. 体験学習
11. 温泉浴
12. 史跡・文化財めぐり
13. 芸術・文化鑑賞
14. 神社・仏閣めぐり（初詣含む）
15. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物）
16. 郷土料理・ご当地グルメ（海産物以外）
17. イベント、祭り、花火
18. 花見
19. 買い物・ショッピング
20.　その他（FA）

＜回答者＝全員＞
問 6　あなたが南房総地区観光の際に立ち寄ったことのある、飲食店・土産物屋・農産物直売所をお知らせください。（いくつでも）【必須】

1.　道の駅「南房パラダイス」
2.　南房総 道楽園
3.　道の駅「富楽里とみやま」
4.　道の駅「とみうら枇杷倶楽部」
5.　道の駅「ちくら潮風王国」
6.　道の駅「三芳村　鄙の里」
7.　道の駅「ローズマリー公園・丸山」
8.　全国チェーンの飲食店
9.　個人経営の飲食店
10.　農産物直売所
11.　その他の小売店
12.　立ち寄ったことのある場所はない　＜排他＞

＜回答者＝前問で、立ち寄ったことのある場所はない以外を選択した人＞
＜前問で選択したものだけを表示＞
問 6-1　立ち寄った飲食店・土産物屋・農産物直売所の中で、あなたが実際に飲食・購入をしたことのある場所をお知らせください。（いくつでも）【必須】

1.　道の駅「南房パラダイス」
2.　南房総 道楽園
3.　道の駅「富楽里とみやま」
4.　道の駅「とみうら枇杷倶楽部」
5.　道の駅「ちくら潮風王国」
6.　道の駅「三芳村　鄙の里」
7.　道の駅「ローズマリー公園・丸山」
8.　全国チェーンの飲食店
9.　個人経営の飲食店
10.　農産物直売所
11.　その他の小売店
12.　飲食・購入をしたことのある場所はない　＜排他＞

＜回答者＝Q6-1 で 1～11 を選択した人＞
問 6-2　あなたが実際に飲食・購入をしたことのある場所についてあてはまるものをお知らせください。（それぞれひとつだけ）【必須】

＜前問で飲食・購入したと回答した表側だけを表示＞

	満足である	不満である	どちらともいえない／覚えていない
1　道の駅「南房パラダイス」			
2　南房総 道楽園			
3　道の駅「富楽里とみやま」			
4　道の駅「とみうら枇杷倶楽部」			
5　道の駅「ちくら潮風王国」			
6　道の駅「三芳村　鄙の里」			
7　道の駅「ローズマリー公園・丸山」			
8　全国チェーンの飲食店			
9　個人経営の飲食店			
10　農産物直売所			
11　その他の小売店			

＜回答者＝全員＞＜軸反転＞

問７　あなたが、南房総地区とその他の国内観光・旅行で楽しみたいと思うことをお知らせください。（それぞれいくつでも）【必須】

↓縦方向にお答えください↓	南房総地区への旅行	その他の国内旅行
１．自然に触れて楽しみたい		
２．郷土料理を楽しみたい		
３．海鮮料理を楽しみたい		
４．地元の新鮮な素材を使ったお洒落な料理を楽しみたい		
５．特産品をお土産に買いたい		
６．地元の新鮮な農産品を買いたい		
７．地元の新鮮な海産品を買いたい		
８．スポーツ・釣り等の活動を楽しみたい		
９．温泉等でのんびりしたい		
10．観光施設を訪問したい		
11．イベントに参加したい		
12．その他（具体的に；　　）		

【館山市の観光拠点整備について】

＜回答者＝全員＞

問８　館山市では、観光可能な場所として「地域の農業振興及び活性化のための拠点施設」の整備を検討しています。

あなたは、以下のどのような施設に興味がありますか。（いくつでも）【必須】

館山市内産の農産物が豊富にそろった農産物直売所

1. 館山市内産農産物の購入
2. 館山市内の特産品の購入
3. ガーデニング用等の種苗の購入

館山市内産の野菜が食べられる地産地消レストラン

4. フードコート方式の地産地消レストランでの飲食

館山市内産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場

5. 館山市内産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり飲食・購入
6. 館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入

花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園

7. 菜の花、ひまわり等の花摘み
8. 農産物の収穫体験
9. 農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）
10. 小規模農地を賃借しての農作業

公園

11. 家族やペットと一日中遊ぶ
12. バーベキューやキャンプを楽しむ
13. ポニーやロバ等の動物と遊ぶ

観光案内所

14. 雑誌には載っていないような地域の詳しい情報を入手

15. 興味のあるものはない　＜排他＞

＜回答者＝前問で、興味のあるものはない以外を選択した人＞

問 8-1 前問でお答えいただいた施設を、実際に利用してみたいと思いますか。（それぞれひとつだけ）【必須】

施設構成	観光客の方が体験できること	利用してみたい	利用しないと思う
館山市内産の農産物が豊富にそろった農産物直売所	館山市内産農産物の購入		
	館山市内の特産品の購入		
	ガーデニング用等の種苗の購入		
館山市内産の野菜が食べられる地産地消レストラン	フードコート方式の地産地消レストランでの飲食		
館山市内産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場	館山市内産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり飲食・購入		
	館山市内産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム飲食・購入		
花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園	菜の花、ひまわり等の花摘み		
	農産物の収穫体験		
	農産物の加工体験（惣菜、スイーツ、ジュースづくり）		
	小規模農地を賃借しての農作業		
公園	家族やペットと一日中遊ぶ		
	バーベキューやキャンプを楽しむ		
	ポニーやロバ等の動物と遊ぶ		
観光案内所	雑誌には載っていないような地域の詳しい情報を入手		

【回答者属性について】

＜回答者＝全員＞

問 9　あなたの性別をお知らせください。（ひとつだけ）【必須】

１　男性　　２　女性

＜回答者＝全員＞

問 10　あなたの現在の満年齢をお知らせください。（半角数値）【必須】

歳

＜回答者＝全員＞

問 11　あなたがお住まいの都道府県をお知らせください。（ひとつだけ）【必須】

（47 都道府県をプルダウン表示）

２　市民アンケート調査票

公設卸売市場用地（跡地）を核とした地域農業の活性化に関する調査研究

～市民向けアンケート調査～

ご協力のお願い

皆様には、平素より館山市の農政に対し、ご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

館山市では館野地区の稲に公設卸売市場を整備するため、平成14年に 11,877 ㎡の土地を取得しましたが、様々な経緯から卸売市場の整備を断念し、現在では、農業振興のために有効利用することを考えています。そこで今年度は、当該用地の利活用を検討するため、(財)地方自治研究機構と共同で調査研究を行っております。

その一環として、市民の皆様にアンケート調査を行うことといたしました。

大変お手数をおかけいたしますが、調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。

回収した調査票は、統計的に処理し、この目的以外に使用することはございません。

平成 24 年 8 月

館山市長　　金丸　謙一

■ご記入にあたって

- ご回答は各設問にしたがってご記入下さい。
- 本調査の対象は、館山市内に所在する 20 歳以上の方を、無作為に 800 人抽出しております。

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて（切手は不要です）、

平成 24 年９月３日（月曜日）までにポストに投函して下さい。

【本調査に関するお問い合わせ先】

※この調査票について、ご不明な点・ご質問等ありましたら、下記までご連絡ください。

館山市　経済観光部　農水産課　園芸係　担当　島本　電話　０４７０-２２-３３９７

はじめに、あなたの世帯のことをお伺いします。

問１　あなたがお住まいの地区名に○を１つつけてください。

１　館山
２　北条
３　那古
４　船形
５　西岬
６　神戸
７　富崎
８　豊房
９　館野
10　九重

問２　あなたの性別をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　男性
２　女性

問３　あなたの年齢をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　２０歳代
２　３０歳代
３　４０歳代
４　５０歳代
５　６０歳代
６　７０歳代
７　８０歳代以上

問４　あなたの職業をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　会社員・公務員・団体職員
２　自営業
３　農業
４　主婦
５　学生・生徒
６　その他（　　）

問５　あなたの世帯の構成をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　一人で住んでいる
２　夫婦のみで住んでいる
３　夫婦と子供で住んでいる
４　夫婦と親で住んでいる
５　三世代以上で住んでいる
６　その他（　　）

問６　あなたの世帯と農業の関わりをお答えください。
該当するものすべての番号に〇をつけてください。

１　農業イベントに参加している
２　館山市内の直売所を利用している
３　決まった農家から農産物を購入している
４　観光農園や体験農園を利用している
５　市民農園を利用している
６　農家の農作業を手伝っている
７　市民農園よりも広い農地を借りて生産している
８　荒れている農地の管理を手伝っている（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）
９　特にない
10　その他（　　）

食材の購入についてお伺いします。

問７　あなたの家では、主に野菜をどこで購入していますか。
「毎回購入する」～「行かない」までのそれぞれの列について、一つづつお店を選んで〇をつけて下さい。

	毎回購入する	時々購入する	たまに購入する	行かない
１　スーパーマーケット				
２　八百屋				
３　産地直売所				
４　食材宅配サービス				
５　その他（　　）				

問８　あなたの家が「農産物」を買うときの、判断基準はどれですか。
あてはまるものを３つまで選んで番号に〇をつけてください。

１　価格の安さ
２　鮮度
３　旬・季節感
４　館山産
５　ブランド産地
６　色、形などの外見
７　農薬使用や栽培方法（有機栽培*) や特別栽培*)）
８　特に気にしない
９　その他

有機栽培*) とは。
果樹や茶は収穫前３年以上、野菜は種まき前に２年以上、化学肥料と農薬を使わない田・畑で定められた方法で栽培することです。
特別栽培*) とは。
化学肥料と農薬の両方を 50%以上減らして栽培することです。

館山産の農産物や農産物加工品の購入についてお伺いします。

問８で「４　館山産」を選択した方にお伺いします。

問９　あなたの世帯は、どこで館山産の農産物や農産物加工品を購入しましたか。「毎回購入する」～「たまに購入する」までのそれぞれの列について、一つづつお店を選んで〇をつけて下さい。

	毎回購入する	時々購入する	たまに購入する
１　スーパーマーケット			
２　八百屋			
３　産地直売所			
４　食材宅配サービス			
５　その他（　　）			

問８で「４　館山産」を選択した方にお伺いします。

問 10　あなたの家が購入している館山産農産物のどのようなところを評価していますか。　該当するものすべての番号に〇をつけてください。

	一番評価している	二番目に評価している	三番目に評価している
１　価格が安いから			
２　安全安心感があるから			
３　鮮度が良いから			
４　色や形がよいから			
５　産地、生産者表示があるから			
６　農薬使用状況や栽培方法が明確であるから			
７　その他（　　）			

規格外の農産物についてお伺いします。

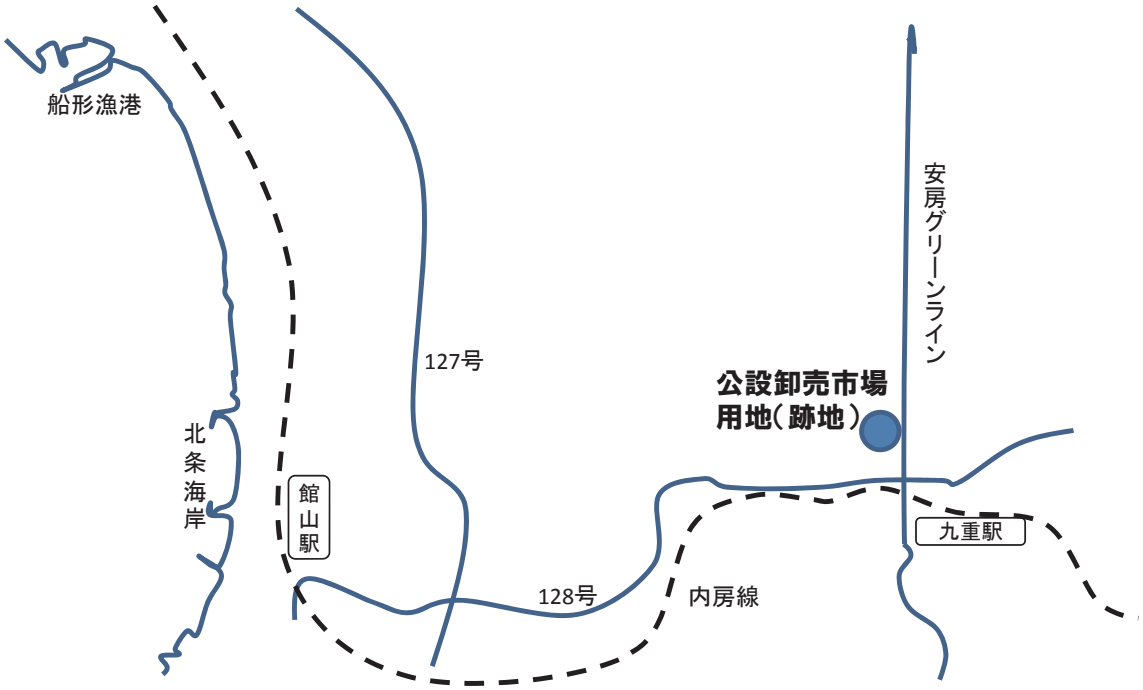
問 11　あなたは規格外の農産物について、どのようなイメージをお持ちですか。あてはまるものを３つまで選んで番号に〇をつけてください。

１　形や見栄えは気にしない
２　形や見栄えが悪くても、品質が良いのであれば購入する
３　形や見栄えが悪くても、品質に問題が無く安価であれば購入する
４　品質が同じであっても、できるだけ形や見栄えが良いものが良い
５　その他（　　）

公設卸売市場用地（跡地）についてお伺いします。

館山市では館野地区稲に公設卸売市場を整備するために 11,877 ㎡の土地を取得しましたが、様々な経緯から卸売市場の整備を断念し、現在では、農業振興及び地域の活性化のための駐車場とトイレを完備した施設整備に有効利用することを考えています。

公設卸売市場用地（跡地）の位置



問 12	この用地で整備する施設で想定される主な機能についてどのようにお考えですか。それぞれの機能について、もっとも良くあてはまる番号に○を１つつけてください。

【館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【館山産の野菜が食べられる地産地消レストラン】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【館山産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

問 13　この用地で整備する施設の付帯機能として必要と思うものについてお聞かせください。**該当するものすべての番号に○をつけてください。**

1　館山産農産物の販売

2　館山市内の特産品の販売

3　ガーデニング用等の種苗の販売

4　菜の花、ひまわり等の花摘み園

5　農産物の収穫体験ができる農園

6　市民農園

7　収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク

8　農産物の加工体験（惣菜やスイーツ等）ができる施設

9　フードコート方式の地産地消レストラン

10　館山産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり屋

11　館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋

12　家族やペットと一日中遊べる大きな公園

13　バーベキューやキャンプが楽しめる施設

14　ポニーやロバ等の小動物園

15　雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）

16　特に必要ない

ご意見・ご希望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成 24 年9月3日（月曜日）までにポストに投函して下さい。

３　農家アンケート調査票

公設卸売市場用地（跡地）を核とした地域農業活性化に関する調査研究

～農業経営者向けアンケート調査～

ご協力のお願い

皆様には、平素より館山市の農政に対し、ご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

館山市では館野地区の稲に公設卸売市場を整備するため、平成14年に 11,877 ㎡の土地を取得しましたが、様々な経緯から卸売市場の整備を断念し、現在では、農業振興のために有効利用することを考えています。そこで今年度は、当該用地の利活用を検討するため、(財)地方自治研究機構と共同で調査研究を行っております。

その一環として、農業経営者の皆様にアンケート調査を行うことといたしました。

大変お手数をおかけいたしますが、調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。

回収した調査票は、統計的に処理し、この目的以外に使用することはございません。

平成 24 年 8 月

館山市長　金丸　謙一

■ご記入にあたって

- 本調査の対象は、館山市内で耕作されている農家の皆様を対象に実施しております。アンケート調査にお答えいただく方は、実際に農業に携わっている代表の方（組織の場合は代表者）がご記入ください。
- ご回答は各設問にしたがってご記入下さい。

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて（切手は不要です）、

平成24年９月３日（月曜日）までにポストに投函して下さい。

【本調査に関するお問い合わせ先】

※この調査票について、ご不明な点・ご質問等ありましたら、下記までご連絡ください。

館山市　経済観光部　農水産課　園芸係　担当　島本　電話　０４７０-２２-３３９７

◎はじめに、あなたやあなたの農業経営についてお伺いします。

問１　あなたがお住まいの地区名に○を１つつけてください。

１　館山
２　北条
３　那古
４　船形
５　西岬
６　神戸
７　富崎
８　豊房
９　館野
10　九重

問２　あなたの性別をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　男性
２　女性

問３　あなたの年齢をお答えください。　（平成24年7月1日現在）
該当する年齢をご記入ください。

１　２０歳代
２　３０歳代
３　４０歳代
４　５０歳代
５　６０歳代
６　７０歳代
７　８０歳代以上

問４　あなたの農業形態は次のどれですか。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　専業農家（農業収入のみ）　→　認定農業者ですか。
　１　はい
　２　いいえ
２　第１種兼業農家（農業収入が多い）
３　第２種兼業農家（農業以外の収入が多い）
４　土地持ち非農家（土地だけ所有し、耕作はしていない）
５　その他（　　）

問５　あなたの農業経営面積規模をお答えください。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　30ａ未満　　10ａ＝1,000㎡＝１反
２　30ａ～ 50ａ未満
３　50ａ～100ａ未満
４　100ａ～200ａ未満
５　200ａ～300ａ未満
６　300ａ以上

問６　あなたの農業経営に後継者はいますか。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　いる　→（後継者の年代に○をつけてください）
２　いない
３　未定

1.10代　2.20代　3.30代　4.40代　5.50代　6.60代

問７　あなたの農業経営形態はどれに当てはまりますか。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　水稲のみ
２　水稲＋野菜
３　水稲＋果樹
４　水稲＋花卉
５　水稲＋畜産
６　野菜のみ
７　野菜＋果樹
８　野菜＋花卉
９　野菜＋畜産
10　果樹のみ
11　果樹＋花卉
12　果樹＋畜産
13　花卉のみ
14　花卉＋畜産
15　畜産のみ
16　その他（　　）

問８　主な農産物（販売額が最も大きな作物）の主要な出荷先はどこですか。
該当するものすべての番号に〇をつけてください。

	一番出荷量が多い出荷先	二番目に出荷量が多い出荷先	三番目に出荷量が多い出荷先
１　市内農協			
２　スーパーマーケット			
３　産地直売所等の直売店			
４　卸売市場			
５　食品製造業や外食産業などの食品企業			
６　その他（　　）			

◎経営耕地についてお伺いします。

問９　あなたは農地の賃借、作業受委託の希望がありますか。
該当する番号に〇を１つつけてください。

１　農地を借りたい
２　農作業を受託したい
３　農地を貸したい
４　農作業を委託したい
５　考えていない
６　わからない

◎今後の農業経営についてお伺いします。

問10　10年後の経営形態はどのようにしたいと思いますか。
該当する番号に○を１つつけてください。

１　拡大したい
２　現状維持
３　縮小したい
４　やめたい
５　わからない

問11　10年後の館山市のあるべき農業の姿についてどのようにお考えですか。**該当する番号を３つまで選んで○をつけてください。**

１　大規模化を進めて高効率・低コストの農業を推進するべき
２　少量多品目生産で高付加価値をつけた生産体制を確立するべき
３　観光農園がもっとふえるべき
４　民間企業の農業参入を積極的に推進するべき
５　現状維持
６　良く考えていない
７　その他（　　）

◎給食への食材提供についてお伺いします。

問12　地産地消運動の一環で、学校給食の食材に地元産を使用する学校が増えてきています。あなたは、学校給食に農産物を供給したいと思いますか。**該当する番号に○を一つつけてください。**

１　是非供給したい　　⇒問13・14にご回答ください。
２　条件次第で供給したい　　⇒問13・14・15にご回答ください。
３　供給したくない　　⇒問16までお進みください。

問13　問12で「１」または「２」（供給したい）を回答された方におたずねします。作物別に出荷季節はいつごろになりますか。作目別に、**該当する番号に○を一つつけてください。**

	生産していない	供給したくない	供給したい			
			12月～1月に供給できる	3月～5月に供給できる	6月～8月に供給できる	9月～11月に供給できる
根菜類（だいこん、にんじん等）	1	2	3	4	5	6
葉茎菜類（ねぎ、ほうれんそう等）	1	2	3	4	5	6
果菜類（トマト、きゅうり等）	1	2	3	4	5	6
果樹類（びわ、いちご等）	1	2	3	4	5	6
米	1	2	3	4	5	6
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	1	2	3	4	5	6
加工品（漬物、味噌等）	1	2	3	4	5	6

問14　問12で「１」または「２」（供給したい）を回答された方におたずねします。作物別にどの程度出荷できますか。作目別に、記入してください。

	出荷可能量
根菜類（だいこん、にんじん等）	
葉茎菜類 （ねぎ、ほうれんそう等）	
果菜類（トマト、きゅうり等）	
果樹類（びわ、いちご等）	
米	
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	
加工品（漬物、味噌等）	

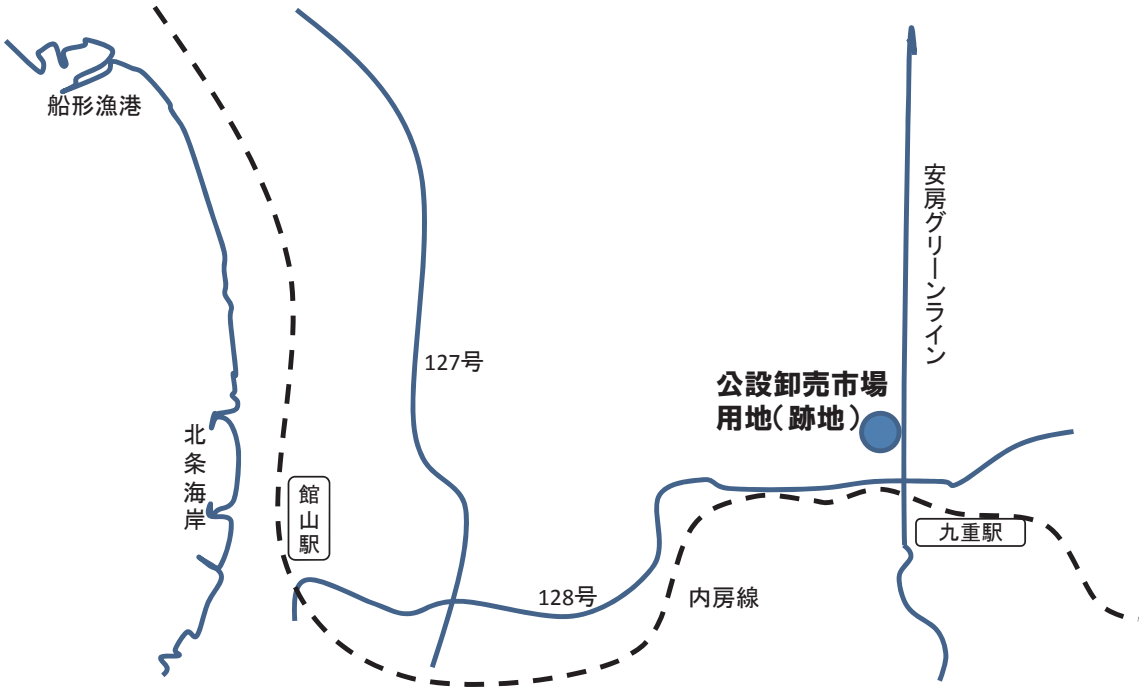
問15　問12で「２」（条件次第で供給したい）と回答した方におたずねします。供給するにあたっての主な条件は何ですか。**該当する番号に○を一つつけてください。**

１　搬入を請け負ってくれる者がいること
２　納品時間を当日の朝に限定せず、前日の午後などの都合のよい時間帯に納品できること
３　形の悪い物や小さいものなど規格外品でも取引してもらえること
４　あらかじめ生産する量や時期を決め、契約栽培により取引すること
５　生産コストや納入にかかる手間に見合った価格で取引してもらえること
６　天候不順などにより納入ができなくなった場合に、代わりの者が納入できるよう、連帯責任をとれる納入組合などの組織ができること
７　年間を通じて取引できるよう、冷蔵・冷凍施設や加工施設などが整備されること
８　その他（　　）

公設卸売市場用地（跡地）についてお伺いします。

館山市では館野地区稲に公設卸売市場を整備するために11,877㎡の土地を取得しましたが、様々な経緯から卸売市場の整備を断念し、現在では、農業振興及び地域の活性化のための駐車場とトイレを完備した施設整備を考えています。

公設卸売市場用地（跡地）の位置



問16	この用地で整備する施設で想定される**主な機能**についてどのようにお考えですか。それぞれの機能について、もっとも良くあてはまる番号に○を１つつけてください。

【館山産の農産物が豊富にそろった農産物直売所】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【館山産の野菜が食べられる地産地消レストラン】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【館山産の農産物を使用した惣菜やスイーツ類の加工場】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

【花・野菜・果実等の摘み取りができる体験農園】

1　絶対必要である　　2　どちらかというと必要である

3　どちらともいえない　4　あまり必要ではない　　5　必要ない

問17	この用地で整備する施設の**付帯機能**として必要と思うものについてお聞かせください。該当するものすべての番号に〇をつけてください。

1　館山産農産物の販売

2　館山市内の特産品の販売

3　ガーデニング用等の種苗の販売

4　菜の花、ひまわり等の花摘み園

5　農産物の収穫体験ができる農園

6　市民農園

7　収穫体験やジュース作りができるフルーツパーク

8　農産物の加工体験（惣菜やスイーツ等）ができる施設

9　フードコート方式の地産地消レストラン

10　館山産の米を使用したテイクアウト利用も可能なおにぎり屋

11　館山産のしぼりたての牛乳を使用したアイスクリーム屋

12　家族やペットと一日中遊べる大きな公園

13　バーベキューやキャンプが楽しめる施設

14　ポニーやロバ等の小動物園

15　雑誌には載っていないような、地域の詳しい情報発信拠点（観光案内所）

16　特に必要ない

問18	農産物直売所が新たに整備された場合、出荷したいと思いますか。該当する番号に〇を一つつけてください。

1　是非とも出荷したい　　⇒　問19・20にお進み下さい

2　条件次第で出荷したい　　⇒　問19・20・21にお進み下さい

3　あまり出荷したいと思わない　　⇒　問22にお進み下さい

4　全く出荷したいと思わない　　⇒　問22にお進み下さい

5　分からない

問19	問18で「１」または「２」と回答された方におたずねします。 あなたは直売によって、どれくらいの売上をあげたいと考えますか。**もっとも良くあてはまる番号に○を１つつけてください。**

１　週１～２回程度出荷（月１万円程度が目安）
２　週３～４回程度出荷（月５万円程度が目安）
３　毎日出荷（月10万円程度が目安）
４　毎日かつ大量出荷　⇒　月（　　）万円程度が目安
５　その他（　　）

問20	引き続き問18で「１」または「２」（出荷したい）を回答された方におたずねします。作物別にどれくらいの頻度で出荷できますか。作目別に、**該当する番号に○を一つつけてください。**

根菜類 （だいこん、にんじん等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
葉茎菜類 （ねぎ、ほうれんそう等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
果菜類 （トマト、きゅうり等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
果樹類（びわ、いちご等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
米	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
畜産（乳用牛、肉用牛、豚、ブロイラー、鶏卵等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない
加工品（漬物、味噌等）	１　概ね周年出荷できる　２　季節出荷ならできる ３　不定期出荷ならできる　４　出荷できない

問21	問18で「２」（条件次第で出荷したい）と回答した方におたずねします。出荷にあたっての主な条件は何ですか。該当するものすべての番号に〇をつけてください。

１　販売手数料が高くないこと
２　施設に一定の規模・集客力が見込めること
３　農産物を庭先で集荷してくれること
４　農産物の梱包や商品シール貼りを行ってくれること
５　売れ残った場合に引き取ってくれること
６　品質管理や商品説明力がしっかりしていること
７　その他（　　）

問22	問18で「３」または「４」（出荷したいとは思わない）を回答された方におたずねします。出荷したいとは思わない理由は何ですか。該当するものすべての番号に〇をつけてください。

１　高齢化のため生産できないから
２　梱包や商品の持ち込み等の対応ができないから
３　すでに販路が確立しているから
４　大きな売上が期待できないから
５　その他（　　）

ご意見・ご希望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成24年9月3日（月曜日）までにポストに投函して下さい。

公設卸売市場用地（跡地）を核とした地域農業の活性化
に関する調査研究

－平成 25 年 3 月発行－

千葉県　館山市　経済観光部　農水産課
〒294-8601
千葉県館山市市北条 1145－1
電話 0470-22-3111（代表）

財団法人　地方自治研究機構
〒104-0061
東京都中央区銀座七丁目 14 番 16 号　太陽銀座ビル２階
電話 03-5148-0661（代表）

印刷　株式会社　サンワ